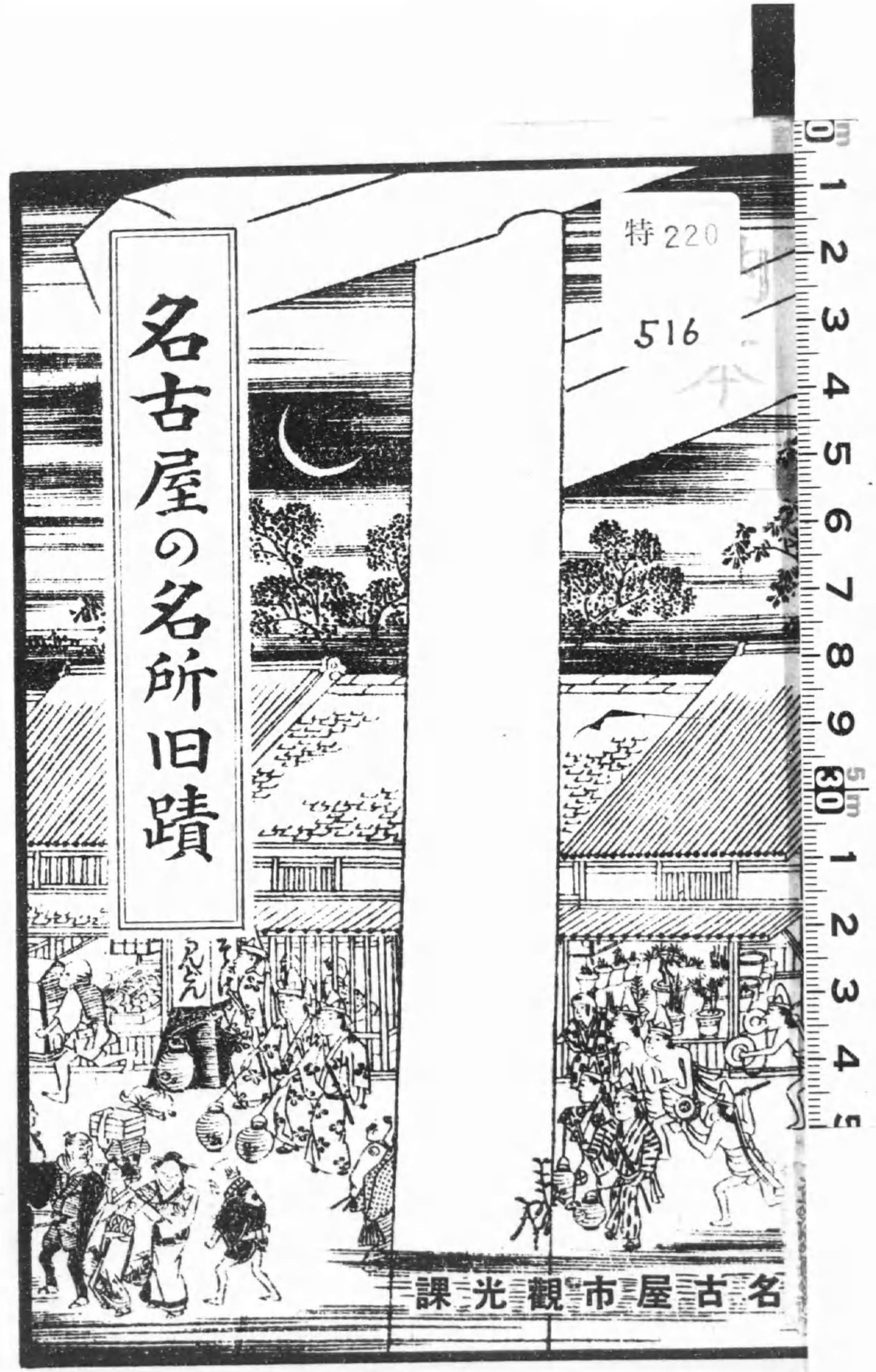
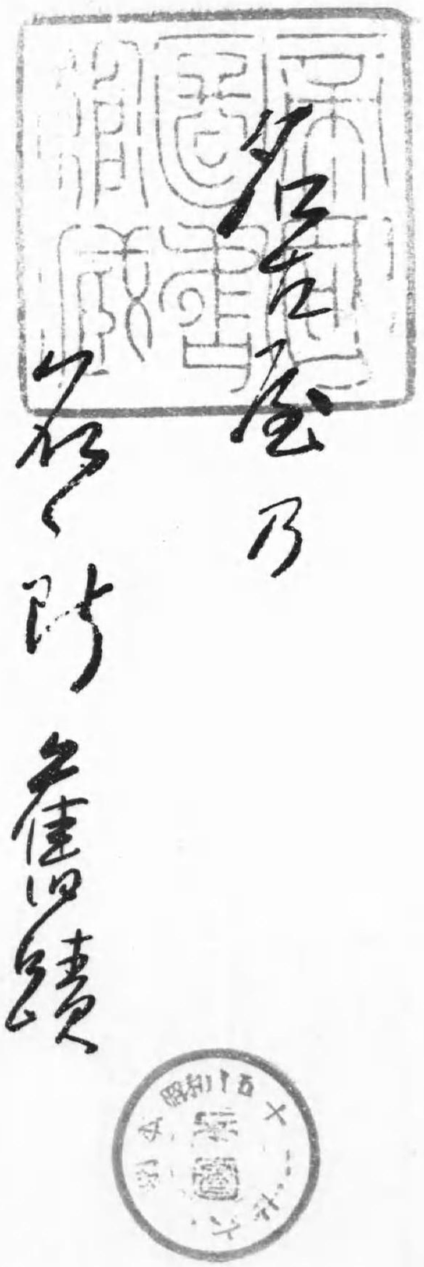


特220
516

始

特220
516



本編は、本市に於ける名所舊蹟の最も見易いものに就いて、其の現狀を一々寫眞に納め、收錄したものである。出來得る限り簡便を旨とした關係もあつて、尙洩れたものが多々あるが、後日を期し增補したいと思つてゐる。

本編について、いろ〳〵御懇切に御示敎賜つた方々に對し、厚く御禮を申上げると共に、此の後とも御氣付の點は一々御敎示下さるやうお願ひする次第である。

昭和十五年十月

名古屋市觀光課

目次

名古屋城

名古屋城……一頁
金鯱……二
大天守……三
榧の木……四
名古屋城石切場……五

明治天皇御聖蹟

龍影閣……六
名古屋城本丸御殿……七
名古屋大本營……八
新御殿……九
行在所の内部……一〇
東別院不二見亭……一二
大本營記念碑……一三
八丁畷御野立所……一三
御覽穫碑……一四
明治天皇御駐蹕趾……一五
明治天皇八事御野立所……一六頁
明治天皇清水御小休所……一七
高須賀御用所……一八
二女子村御用所……一九

神社・佛閣

熱田神宮……二〇
土用殿……二二
權殿……二三
長殿……二三
二十五挺橋……二四
海上門……二五
春蔵門……二五
春蔵門扁額……二六
鎭皇門……二七
佐久間燈籠……二九
那古野神社……三〇
若宮八幡社……三一
東照宮……三二
東照宮樓門……三三
東照宮唐門……三四
尾陽神社……三五
片山八幡神社……三六
豐國神社……三七
泥江縣神社……三八
七尾社……三九
天神社(櫻天神)……四〇
高藏結御子神社井戸……四一
八幡社(闇の森)……四二
愛知縣護國神社……四三
七ッ寺……四四
七ッ寺本堂……四五
七ッ寺大日像……四六
七ッ寺太子堂……四七
七ッ寺三重塔……四八
觀音寺……四九
荒子觀音多寶塔……五〇
荒子觀音山門……五一
荒子觀音山門の扁額……五二
笠覆寺……五三
笠覆寺山門……五四
寶生院(大須觀音)……五五

大須眞福寺文庫……一六
長母寺……一七
長母寺山門……一八
開山堂……一九
本遠寺樓門……二〇
本遠寺樓門の扁額……二一
本遠寺法華堂……二二
萬松寺……二三
建中寺……二四
建中寺山門……二五
建中寺鐘樓……二六
建中寺惣門……二七
建中寺經藏……二八
興正寺……二九
興正寺惣門（西山）……三〇
興正寺惣門（東山）……三一
興正寺五重塔……三二
興正寺墓地……三三
興正寺大日堂……三四
東本願寺別院……三五
東本願寺樓門……三六
東本願寺鼓樓……三七
西本願寺別院……三八
日遲寺……三九
日遲寺奉安塔……四〇
本尊佛……四一
菩提樹……四二
清淨寺……四三
法淨寺犬御堂黑犬像……四四
法淨寺犬御堂白犬像……四五
高岳院山門……四六
妙行寺……四七
大龍寺……四八
羅漢堂……四九
淨心觀音……五〇
性高院……五一
性高院山門……五二
八事半僧坊……五三
東輪寺……五四
勝鬘寺の鼓樓……五五

古城趾・古戰場

那古野城趾……九六
古渡城趾……九七
小林城趾……九八
岩塚城趾……九九
稻葉地城趾……一〇〇
稻葉地城空壕の趾……一〇一
御器所西城趾……一〇三
上野城趾……一〇三
末森城趾……一〇四
戸部城趾……一〇五
荒子城趾……一〇六
星崎城趾……一〇七
山崎城趾……一〇八
稻生ヶ原古戰場……一〇九

宅趾

藤原師長公謫居趾……一一〇
源賴朝產湯の井趾……一一一
源氏白旗碑……一一三
池殿屋敷跡……一一三
景淸屋敷跡……一一四

御所屋敷跡……一一五
豐臣秀吉誕生地趾……一一六
豐公產湯之井戶……一一七
豐臣秀吉之像……一一八
加藤淸正宅趾……一一九
加藤淸正之像……一二〇
河村瑞軒宅趾……一二一
平手政秀宅趾……一二三
木下長嘯子宅趾……一二三
小出屋敷趾……一二四
橫井也有屋敷趾……一二五

古墳

八幡山古墳……一二六
白鳥塚……一二七
白鳥塚碑……一二八
斷夫山古墳……一二九

墓所

織田信長墓所……一三〇
平手政秀墓所……一三一
長屋六左衞門墓所……一三二
星野勘左衞門墓所……一三三
平岩親吉墓所……一三四
天野信景墓所……一三五
田沼如雲墓所……一三六
陳元贇墓所……一三七
松平君山墓所……一三八
片岡源五右衞門墓所……一三九
牧長淸墓所……一四〇
織田信秀墓所……一四二
津田豐後守墓所……一四三
下方左近之碑……一四四
井上士朗墓所……一四五
紫式部墓所……一四六
張振甫墓所……一四七
潛伏切支丹の墓……一四七
切支丹塚……一四八
歌僊塚……一四九

學堂趾

明倫堂趾……一四九

句碑及び歌碑其他

三日月塚……一五〇
鳴塚……一五一
鏡塚……一五二
宵闇塚……一五三
粟稗塚（解脫寺）……一五四
時雨塚（證城寺）……一五五
時雨塚（妙安寺）……一五六
鴨塚……一五七
萩塚……一五八
春雨塚……一五九
千鳥塚……一六〇
粟稗塚（東輪寺）……一六一
蛙塚……一六二
歌僊塚……一六三

名所舊蹟案内目次（區別）

一、千種區（二一）

1	覺王山日暹寺	市電、覺王山前下車北三町	一七九
2	同 菩提樹 同	東北四町	八三
3	同 本尊佛 同	北三町	八二
4	同 奉安塔 同	東北四町	八〇
5	上野城趾	市バス、上野小學校前下車南一町半上野小學校庭	一〇三
6	下方左近碑 同	永弘院内	一四三
7	末森城趾	市電、東山公園行城山下車北一町入ル	一〇四
8	大龍寺	市電、覺王山前下車日暹寺東四町	八八
9	羅漢堂 同		八九
10	振甫プール	市バス、振甫プール前下車	二〇九
11	張振甫墓所 同	裏山	一四六
12	日清記念碑	市電、覺王山前下車日暹寺東二町餘	二〇四
13	東山公園	市電、東山公園前下車	一七六
14	東山動物園正門	市電、東山公園前下車	一七九
15	ライオン放養場 同		一八〇
16	ヂラフ 同		八一
17	前世紀動物 同		八二
18	北極熊 同		八三
19	東山植物園温室全景 同	東南五町	一八四
20	温室内の熱帯植物 同	同	一八五
21	花菖蒲園 同	同	一八六

二、東區（二四）

1	片山八幡神社	市電・市バス、八幡前下車西側	三六
2	七尾社	市電・市バス、清水口下車北三町西一町餘	三九
3	建中寺	市電、平田町下車東四町市バス、代官町下車東二町餘	六四

栗稗塚（寶林寺）……一六四
蘿塚……一六五
石井直樹歌碑……一六六
若山牧水歌碑……一六七
安部照子歌碑……一六八
本居宣長歌碑……一六九
源頼朝鎧塚……一七〇

公園並に庭園茶室

德川園……一七一
德川園庭の一部……一七二
德川園清流軒茶室……一七三
德川美術館……一七四
鶴舞公園……一七五
東山公園……一七六
中村公園……一七七
志賀公園……一七八
東山動物園正門……一七九
ライオン放養場……一八〇
ヂラフ……一八一
前世紀動物……一八二
北極熊……一八三
東山植物園温室全景……一八四
温室内の熱帯植物……一八五
花菖蒲園……一八六
猿面茶屋……一八七
猿面茶屋の床柱……一八八
松月齋……一八九
松月齋手洗鉢……一九〇
聞天閣……一九一

交通遺趾

七里渡……一九二
七里渡常夜燈……一九三
笠寺一里塚……一九四
東田町一里塚……一九五
今の裁斷橋……一九六
昔の裁斷橋……一九七

其他

信長草紙かけの松……一九八
日本武尊腰掛岩……一九九
櫻田勝景……二〇〇
年魚市潟勝景……二〇一
年魚市潟之碑……二〇二
貯木場……二〇三
記念碑……二〇四
清めの茶屋……二〇五
公會堂……二〇六
名古屋港……二〇七
中川運河……二〇八
振甫プール……二〇九
觀光案内所……二一〇

4	建中寺山門	同	一三五
5	建中寺鐘樓	同	六六
6	建中寺經藏	同	六六
7	建中寺惣門	同	一三七
8	陳元贇墓所	同	一三七
9	安部照子歌碑	同	一六八
10	高岳院山門	市電・市バス、高岳院前下車東入ル	公六
11	星野勘左衛門墓所	同	一三五
12	長屋六左衛門墓所	市電・市バス、榮町下車西一町針屋町通り一町入、乘西寺	一三六
13	平岩親吉墓所	市電・市バス、平田町下車東入ル南側平田院	一三四
14	三日月塚（了養院）	同神社ノ裏 八幡前下車片山	一五〇
15	粟稗塚（解脫寺）	市バス、黑川橋行八王寺下車西へ一町	一五四
16	石井直樹歌碑	市電・市バス、長塀町五丁目下車北二町長久寺	一六六
17	德川園	同町東へ入ル 山口町下車北一	一七二
18	德川園庭の一部	同	一七二
19	德川園清流軒茶屋	同	一七三

三、西區（二二）

1	那古野神社	市電・市バス、名古屋城前下車西一町	三〇
2	明倫堂趾	同 那古野神社內	一四九
3	東照宮	同 西一町南側	三二
4	東照宮櫻門	同	三二
5	東照宮唐門	同	三四
6	泥江縣神社	同 南園町下車觀光ホテル筋北二丁西入ル	三八
7	天神社	市電、杉ノ町下車南半町櫻通リ西へ四町市バス、本町通リ御幸本町下車スグ西	四〇
8	愛知縣護國神社	市電・市バス、名古屋城前下車北一町西側	四二
20	德川美術館	同	一七四
21	長母寺	市バス、長母寺前下車北二町	五七
22	長母寺山門	同	五八
23	開山堂	同	五九
24	明治天皇清水御小休所	市バス、黑川橋行瀨戸電清水下車	一七

9	淨心觀音	市電・市バス、淨心下車東一町	九〇
10	那古野城趾	中部第二部隊將校集會所庭內	九六
11	河村瑞軒宅趾	市バス、櫻通り桶屋町下車北側教授寺	一三二
12	平手政秀宅趾	市バス、第二陸軍病院行志賀公園前下車	一三六
13	志賀公園	同	一五二
14	鳴塚（法藏寺）	市電、江川橋下下車西一町	一七八
15	龍影閣	市電、淨心下車、市バス乘換庄內公園前下車	六
16	名古屋城	市電・市バス、名古屋城前下車北三町餘	一
17	金鯱	同 名古屋城內	二
18	大天守	同 同	三
19	槿の木	同	四
20	名古屋城本丸御殿	同	七
21	稻生ヶ原古戰場	市電、淨心下車市バス乘換庄內公園前下車庄內公園內	一〇九
22	觀光案內所	名古屋驛降車口	二一〇

四、中村區（一六）

1	豐國神社	市電、中村公園前下車北四町市バス、大正橋行中村公園前下車	七
2	豐臣秀吉誕生地趾	同 中村公園內	二六
3	中村公園	同	一七
4	妙行寺	同 中村公園隣	八七
5	加藤清正宅趾	同 妙行寺內	二九
6	加藤清正之像	同 同	三〇
7	豐臣秀吉之像	同 常泉寺內	二八
8	豐公產湯之井戶	同 同	二七
9	木下長嘯子宅趾	同 中村公園內	三三
10	小出屋敷趾	同 同	三四
11	時雨塚（證城寺）	市バス、大正橋行大門北口下車北二町	一五五
12	名古屋城石切場趾	市バス、小栗橋下車北一町建標アリ	五
13	稻葉地城趾	市バス、稻葉地下車北二町	一〇〇
14	稻葉地城空壕の趾	同	一〇一
15	津田豐後守墓所	同 大正橋下車凌雲寺內	一四二
16	信長草紙かけ松	同 同	一九八

五、中　區　（五〇）

1	若宮八幡社	市電、矢場町下車西二町市バス、本町通若宮前下車	三一		
2	八幡社（闇森）	市バス、本町通り九丁堀下車西一町	四二		
3	爲朝鎧塚	同　八幡社内	一七〇		
4	七ッ寺	市電・市バス、大須下車西へ半町北側	四四		
5	七ッ寺本堂	同	四五		
6	七ッ寺大日像	同	四六		
7	七ッ寺太子堂	同	四七		
8	七ッ寺三重塔	同	四八		
9	蛙塚	同	一六二		
10	寶生院（大須観音）	市電・市バス、大須下車北へ一町西入ル	五五		
11	大須眞福寺文庫	同　寶生院内	五六		
12	欹遷塚	同　同	一六三		
13	萬松寺	市電、三輪町下車西一町萬松寺通り南入ル市バス、萬松寺通下車西一町北入ル	六三		
14	織田信秀墓所	同　萬松寺内	一四一		
15	名古屋大本營	市電・市バス、東別院前下車西側東別院内	八		
16	新御殿	同　同	九		
17	行在所の内部	同　同	一〇		
18	東別院不二見亭	同　同	一二		
19	大本營記念碑	同　同	一三		
20	東本願寺別院	同　同	七五		
21	東本願寺櫻門	同　同	七六		
22	東本願寺鼓樓	同　同	七七		
23	古渡城趾	同　同	九七		
24	西本願寺別院	市電・市バス、大須下車南入ル西側	七八		
25	清淨寺	同　三輪町下車北半町東側矢場町下車南一町東側	八三		
26	小林城趾	同　清淨寺内	九八		
27	牧長清墓所	同　同	一四〇		
28	鏡塚	同　同	一五二		
29	宵闇塚	同　同	一五三		

30	法淨寺	市バス、本町通り下茶屋町下車南一町西入ル	八四		
31	黒白二犬像	同　法淨寺内	八五		
32	性高院	市電、大須下車北二町東入ル約半町市バス、本町通り明王前下車東入ル約半町	九一		
33	性高院山門	同　性高院内	九二		
34	天野信景墓所	同　性高院内	一三五		
35	松平君山墓所	同　性高院内	一三八		
36	東輪寺	市バス、本町通り下茶屋町下車西入ル	九四		
37	粟神塚	同　東輪寺内	一六一		
38	横井也有宅趾	市電・市バス、不二見町下車西側ノ人道ニ石標アリ其ノ直後ノ家	一三五		
39	織田信長墓所	同　本町通り大須下車北一町萬松寺通リヲ東へ入ル半町北側總見寺内	一三〇		
40	井上士朗墓所	市電・市バス、東新町下車東二町北側照運寺	一四四		
41	平手政秀墓所	同　矢場町下車西へ一町南半町入ル政秀寺内	一三二		
42	片岡源五右衞門墓所	同　東田町下車東一町半乾徳寺内	一三九		
43	田宮如雲墓所	市バス、本町通り若宮下車西二町德林寺	一三六		
44	傳紫式部墓所	市電・市バス、廣小路本町下車本町通り南一町東へ入ル傳光院内（鐵砲町）	一四五		
45	萩塚（傳昌寺）	市バス、本町通り專賣局前下車西入ル	一五八		
46	勝鬘寺鼓樓	市電・市バス、矢場町下車北半町西側	九五		
47	切支丹塚（榮國寺）	市電、東別院前下車西二町市バス、本町通り七面前下車北半町東へ入ル	一四八		
48	東田町一里塚	市電・市バス、新榮町下車一町南東田町通り東二町入ル圓教寺	一九五		
49	蘿塚	市電、東別院前下車西三町北一町餘長榮寺	一六五		
50	粟神塚	市電・市バス、新榮町下車東田町通り東南二町北側寶林寺	一六四		

六、昭和區　（二〇）

1	尾陽神社	市電、都島下車東二町餘、市バス（郡道）出口下車西二町餘	三五		
2	御器所西城趾	同　尾陽神社前	一〇二		
3	興正寺	市電・市バス、八事行興正寺前下車	六九		

4	興正寺惣門（西山）	同	七〇
5	興正寺惣門（東山）	同	七二
6	興正寺五重塔	同	七三
7	興正寺墓地	同	七三
8	興正寺大日堂	同	七四
9	八事半僧坊	市電・市バス、八事行半僧坊前下車	九三
10	明治天皇八事御野立所	市電・市バス、八事下車	一〇六
11	御所屋敷趾	市バス（郡道）御器所警察署前下車西一町餘龍興寺南方	一二五
12	八幡山古墳	市電・市バス、鶴舞公園前下車公園東南四町	一二六
13	鶴舞公園	同 鶴舞公園前下車	一七五
14	公會堂	同 鶴舞公園内	二〇六
15	猿面茶屋	同 同	一八七
16	猿面茶屋の床柱	同 同	一八八
17	松月齋	同 同	一八九
18	松月齋手洗鉢	同 同	一九〇
19	聞天閣	同 同	一九一
20	藤原師長謫居趾	市バス、笠寺西門行妙音通下車東二町	二一〇

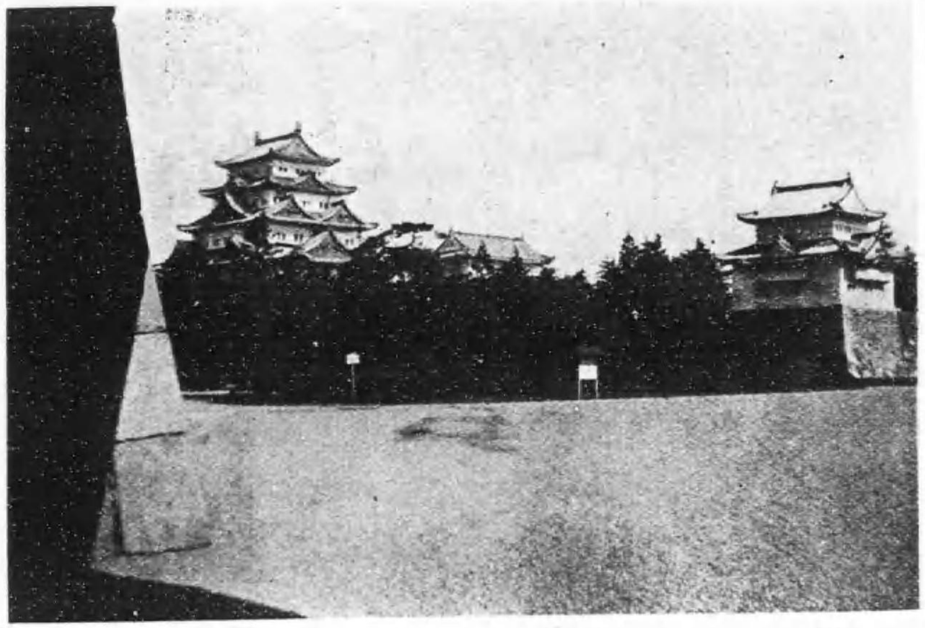
七、熱田區（二二）

1	八丁畷御野立所	市電、堀田驛前下車南五町	一三
2	熱田神宮	市電・市バス、神宮前下車	二〇
3	土用殿	同 熱田神宮内	二二
4	權殿	同 同	二三
5	長殿	同 同	二三
6	二十五挺橋	同 同	二四
7	海上門	同 同	二五
8	春敲門	同 同	二六
9	春敲門扁額	同 同	二七
10	鎭皇門	同 同	二八
11	佐久間燈籠	同 同	二九
12	高藏結御子神社井戸	市電・市バス、高藏下車西二町	四一
13	本遠寺樓門	同 白鳥町下車東一町入ル	六〇

14	本遠寺樓門扁額	同	六一
15	本遠寺法華堂	同	六二
16	源頼朝産湯の井趾	市電・市バス、旗屋町下車南一町誓願寺	一一二
17	清めの茶屋	同 誓願寺内	二〇五
18	源氏白旗碑	同	一一三
19	池殿屋敷趾	同	一一三
20	景清社	市バス、須賀町下車	一一四
21	白鳥塚	市電、白鳥町下車西へ三町堀川端貯木場前	一二七
22	白鳥塚碑	同	一六九
23	本居宣長歌碑	同	一六九
24	斷夫山古墳	市バス、二ノ鳥居下車西へ入ル	一二九
25	時雨塚（妙安寺）	市バス、瓶屋橋通下車	一五六
26	鴨塚	同	一五七
27	若山牧水歌碑	市電、白鳥町下車北へ入ル法持寺内月笑軒	一六七
28	今の裁斷橋	市電・市バス、熱田傳馬町下車東三町	一九六
29	昔の裁斷橋	同 同	一九七

八、中川區（一〇）

1	岩塚城趾	市バス、岩塚下車南へ入ル遍照寺内	九九
2	日本武尊腰掛岩	同 北へ入ル七所社内	一九九
3	觀音寺（荒子觀音）	市電（下一色線）荒子下車東二町餘	四九
4	荒子觀音多寶塔	同 觀音寺内	五〇
5	荒子觀音山門	同	五一
6	荒子觀音山門の扁額	同	五二
7	荒子城趾	同 觀音寺東南二町	一〇六
8	中川運河	市バス、中川橋ヨリ水主町マデ	二〇八
9	高須賀御用所	市電・市バス、長良本町下車	二〇
10	二女子村御用所	同 中川區役所前下車	三
30	七里の渡	市バス、神戸橋下車	一九二
31	七里渡常夜燈	同	一九二
32	貯木場	市電・市バス、白鳥橋下車西北一町餘	二〇三
33	御覽穫碑	市バス、堀田驛前下車南五町	一四



名古屋城

◎名古屋城
（西區南外堀町）
市電、市バス、名古屋城前下車北へ三丁

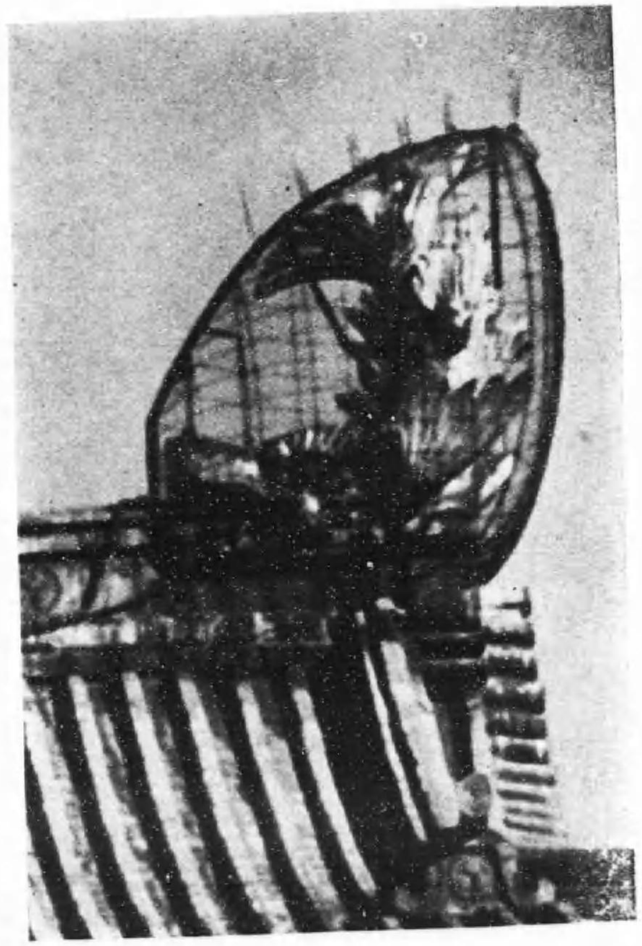
今から三百三十一餘年前即ち、慶長十五年徳川家康が其の子義直の爲に築いたもので有名な加藤清正が御城普請總大將となり諸大名の工を監督して築城した天下の名城である。明治二十六年離宮に指定せられ、昭和五年名古屋市に御下賜になつた。大天守をはじめ三十の建物は同年十二月十一日、國寶に指定された。

九、港區（一）

1	名古屋港	市電、築港下車	二〇七

一〇、南區（一三）

1	笠覆寺	市バス、笠寺西門前下車スグ名鐵、笠寺驛下車東四町	五三
2	笠覆寺山門	同	五四
3	春雨塚	同　笠覆寺内	一五九
4	千鳥塚	同　同	一六〇
5	潜伏切支丹墓	同　同	一四七
6	戸部城趾	市バス、笠寺行戸部稻荷前下車	一〇五
7	星崎城趾	名鐵、東笠寺下車笠寺小學校内	一〇七
8	山崎城趾	市バス、笠寺行又ハ呼續行、呼續下車東一町餘北へ入ル	一〇八
9	明治天皇御駐蹕所	市バス、笠寺行戸部稻荷前下車富部神社内	一五
10	笠寺一里塚	市バス、笠寺下車終點北側	一九四
11	年魚市潟勝景	市バス、笠寺行地藏前下車西二町白毫寺内	二〇二
12	年魚市潟の碑	同	二〇三
13	櫻田勝景	市バス、笠寺行櫻下車東四町村社八幡社境内附近	二〇〇



◎金　鯱
（名古屋城内）

「尾張名古屋は城で持つ」と謳はれた代表的のものは此の金鯱である。雌雄一對其の中、南にあるのが雌で北にあるのが雄である。木材を身とし鉛及銅に金を張り合せて作り、之に使用した金は慶長小判一萬七千九百七十五兩であつたといふことである。

◎大　天　守
（名古屋城内）

大天守は、五層で高さ十七間四尺餘と稱せられてゐる。第一層は裝飾屋根を設けず、第二層は左右に軒唐破風を備へ中央に大きな和風の据破風を作り、第三層は、据破風を左右に分ち立たせ第四層では小形の据破風唯一個が中央を飾つてゐる。第五層は屋根が入母屋造でこれ自體が大なる妻破風を表現し塗籠式御殿風の建物で、輕快明朗なそして全體の安定莊重な感を我々に與へてくれる。

◎榧（かや）の木

（名古屋城内）

城内の〝西の丸〟現今の監守詰所の東北に存してゐる。名古屋築城以前より生存してゐる老樹といはれ、雌木であるため、年々結實する。幹の周り二丈九尺高さ約八十尺、全體より言へば枝葉繁茂樹勢尚旺盛である。

〝金城溫古錄〟によれば寛政以前には、この榧の實を藩主へそなへ藩主も亦召されたといふことである。昭和七年七月二十五日、天然記念物に指定された。

◎名古屋築城石切場

（中村區月島町）

市バス、小栗橋下車北一丁

建標アリ

慶長十五年名古屋築城の際、各所より集めた石を笈瀬（おひせ）川にもつて來たもので中川運河開鑿の際多數の石屑をこの場より堀り出したのでこゝに碑を建てた。

明治天皇御聖蹟

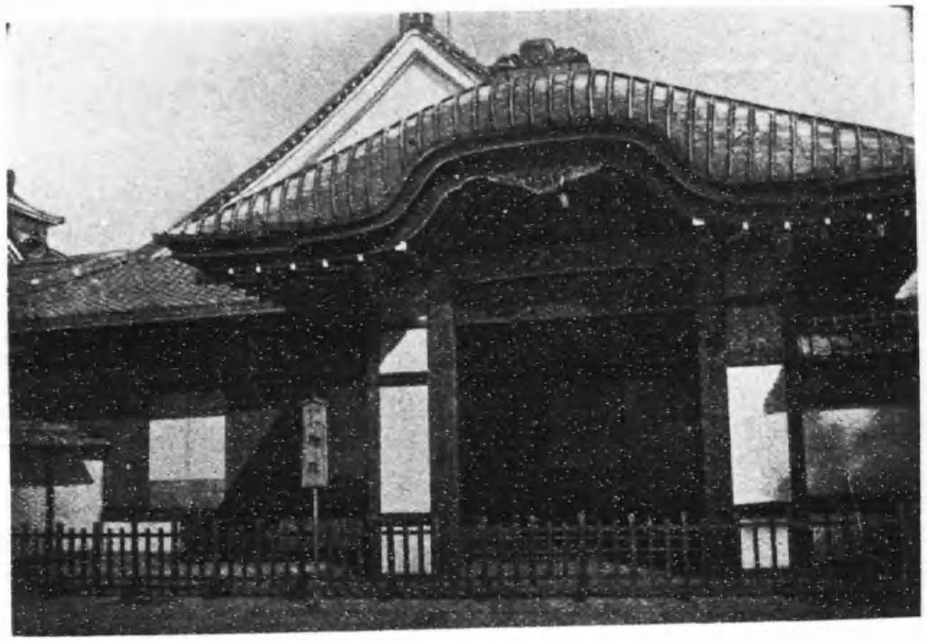
◎龍影閣（りゅうえいかく）

（西區庄内町庄内公園内）

市電、淨心下車乘替市バス

庄内公園前下車

明治十一年十月博覽會開催の時御臨幸（當時名古屋博物館内）御休息の御座所であつた。其の後商品陳列所に保存改築の際この地に移した

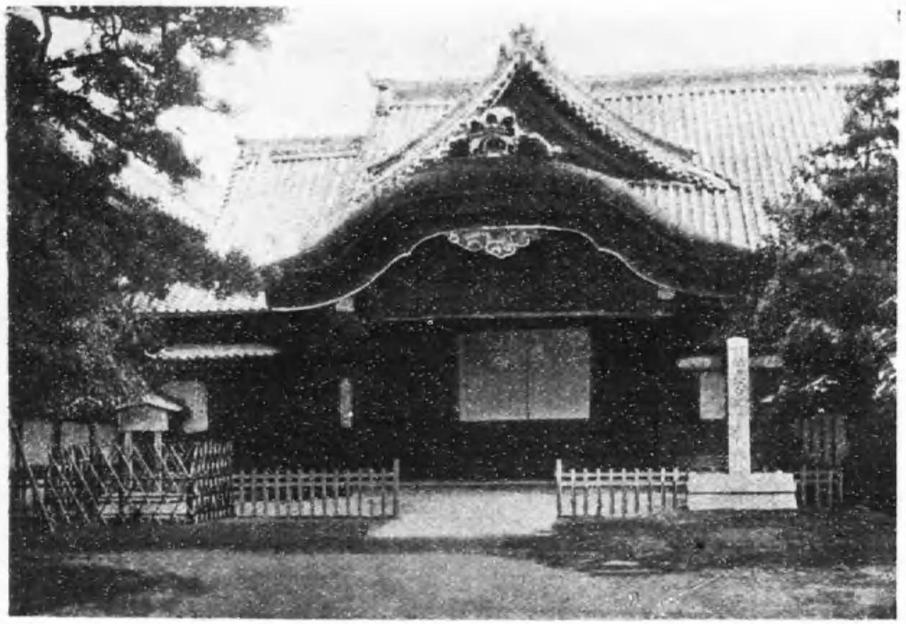


◎名古屋城本丸御殿（元離宮名古屋城内）

市電・バス・名古屋城前下車

北（三丁）

廢藩後一時陸軍の所轄となり、明治二十六年六月、舊本丸、西の丸、及び御深井丸の區域を以て名古屋離宮と定められた。明治三十年四月十七日、明治天皇、昭憲皇太后兩陛下京都へ行幸啓の御途次始めて御駐泊あらせられてから、明治天皇　大正天皇　今上天皇の御三代に亘り度々の行幸を仰いだ。昭和五年十二月十一日特別の思召により本市に御下賜になつたものである。



◎名古屋大本營

（中區下茶屋町東別院内）

市電・市バス・東別院前下車

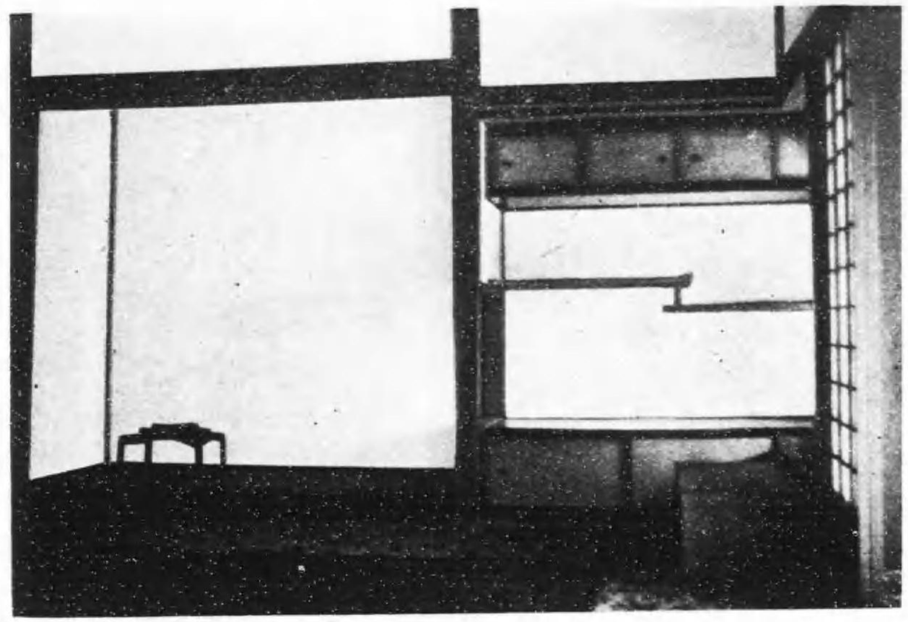
明治十一年、同十三年、同二十年に行在所となり同二十三年三月に大本營となつた。又同年及二十七年にも行在所となり特に同二十年、二十三年の兩度には昭憲皇太后陛下も行啓あらせられ、二十八年には昭憲皇太后陛下が御一泊遊ばされた。

この新御殿には當時の御調度、大本營の標札等が、現在其のまゝ保存されてゐる。

◎新　御　殿（東別院内）

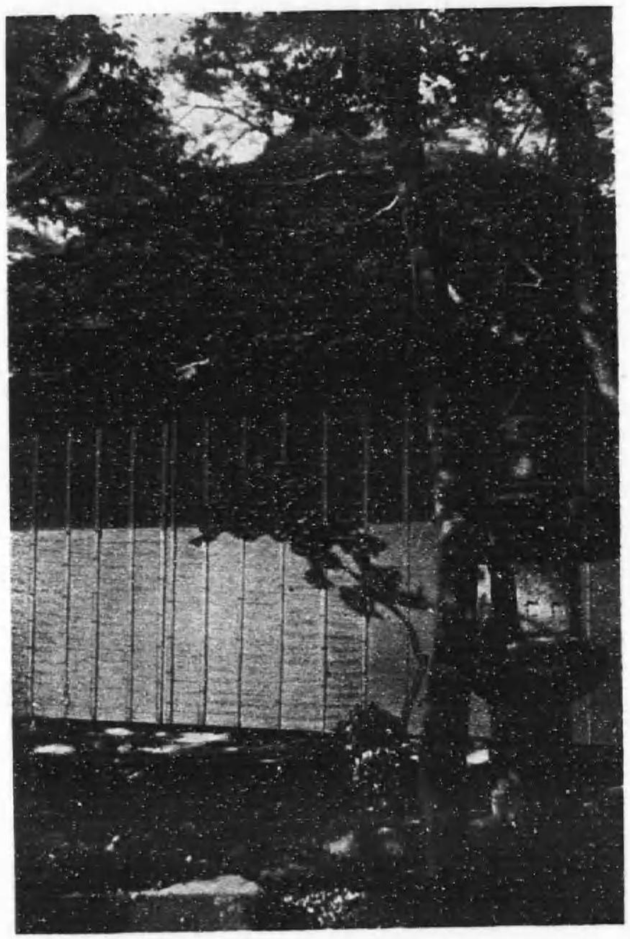
明治十一年より同二十七年迄、明治天皇におかせられては御六度、昭憲皇太后におかせられては御四度の御駐蹕を賜つた。

昭和八年十一月二日・文部大臣は史蹟地として指定した。



◎行在所の内部（東別院内）

明治天皇におかせられては明治十一年より同二十七年まで御六度、昭憲皇太后におかせられては御四度、こゝに御駐蹕あらせられた。檜造りの質素な日本室で　明治天皇の玉座は十疊の御室　昭憲皇太后の玉座は八疊の御室である。



◎東別院
不二見亭
（東別院内）

明治二十年、明治天皇、昭憲皇太后兩陛下御駐蹕の際、打毬花捧、煙火の催しを天覽あらせられた場所である。

辻堂式茶室にて吉田昭和の作である。

◎大本營記念碑
（東別院内）

碑面に

明治天皇行在所舊址

明治天皇六駐驆

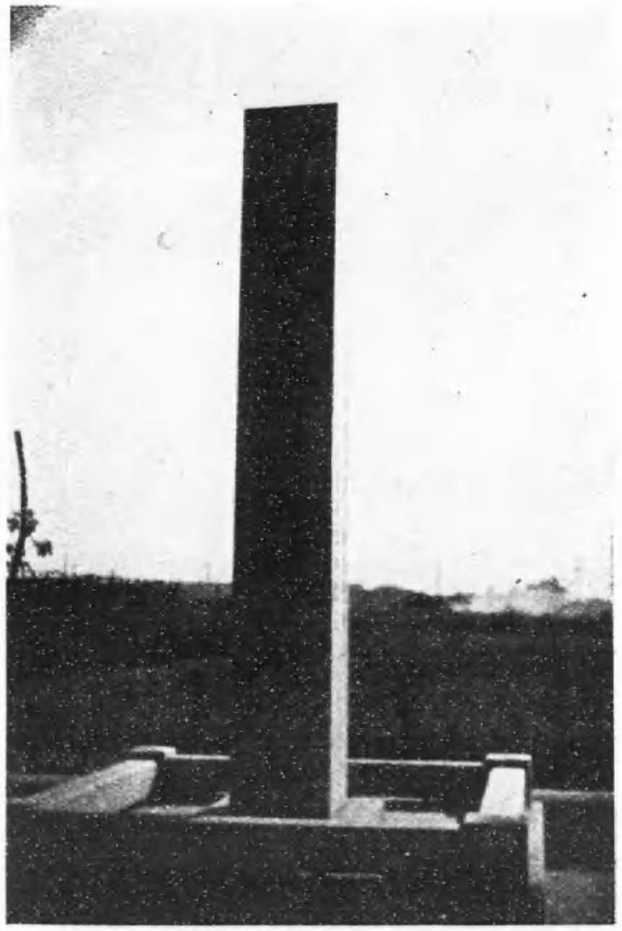
昭憲皇太后三駐驆

大正六年一月

題字　大谷光瑩

撰文　名古屋市長
　　阪本彭之助

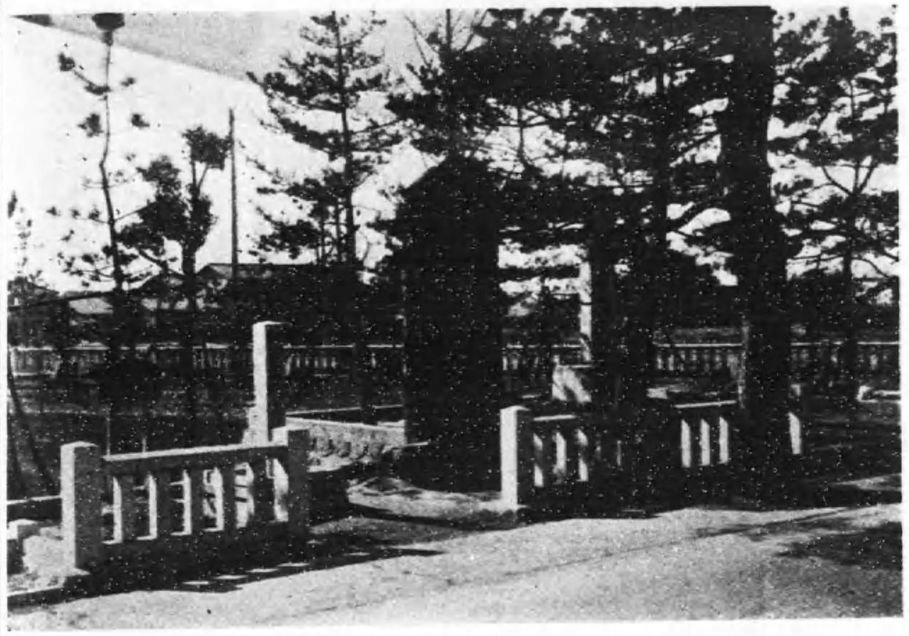
書　永坂周敬



◎八丁畷御野立所
（熱田區濱新開）
市電、市バス堀田
驆前下車南六丁

明治元年、明治天皇御東幸の際、九月二十七日、農民收穫の實況を親しく御覽あらせられた處である。

陛下が熱田へ御着輦あらせられた時、藩主慶勝に領民の煩ひとならない地で收穫の實況を叡覽あらせられる旨御思召を賜つたので、謹んでこの地を選んで、翌日、天覽に供し奉つた。大正二年德川義親はこの地に覽穫碑を建て永久に御聖德を拜頌し奉ることゝした。



◎御覽穫碑（八丁御野立所隣）

大正二年九月　侯爵徳川義親が地主深田清左衛門から其の土地を購入して〝覽穫碑〟を建てゝ永久に御聖徳を拜頌することゝした。碑面、明治天皇覽穫之所

碑文（本文）　大納言慶勝三位中將徳成侯爵徳川義親謹題並志

明治元年九月。車駕東幸。二十七日過熱田秋禾方熟。穉桓彌野。上駐驆觀男女刈穫之狀。即此地。先臣慶勝徳成父子在扈從之列。製歌詞献之。……後略

寫眞中央の碑がそれである。

◎明治天皇御駐蹕趾（南區呼續町富部神社内）（市バス、笠寺行、戸部稻荷前下車）

明治元年九月八丁畷に於て收穫天覽を濟ませ給ひ御東幸の途次、御鳳輦を此處に駐められ御少憩あらせられた。

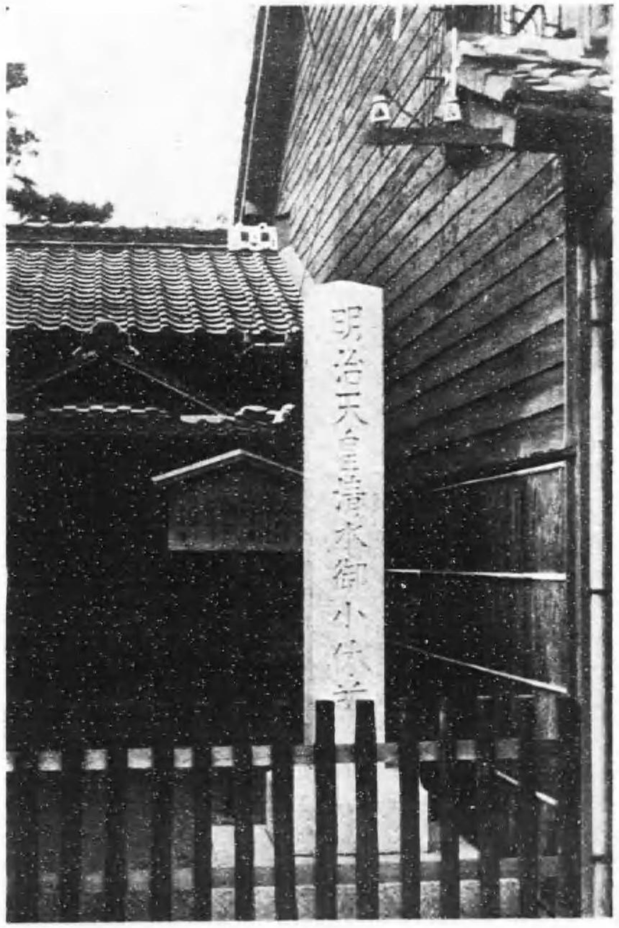
大正十二年三月町有志はこゝに〝明治天皇御駐蹕之處〟なる記念碑を建設した。

◎明治天皇
八事御野立所

（愛知郡天白村大字八事字八幡山十七番ノ二）

市電、市バス八事下車東南約七町

明治二十三年陸海軍聯合大演習を尾三の野に行はせられた。明治天皇は四月二日午前八時二十分、此處に行幸あらせられ急設の御座所に於て戰況を覽はし御晝餐を召させられ大演習終るや天顏特に麗はしく御講評の後將校に勅語を賜ひ午後三時三十分大本營に還御あそばされた。

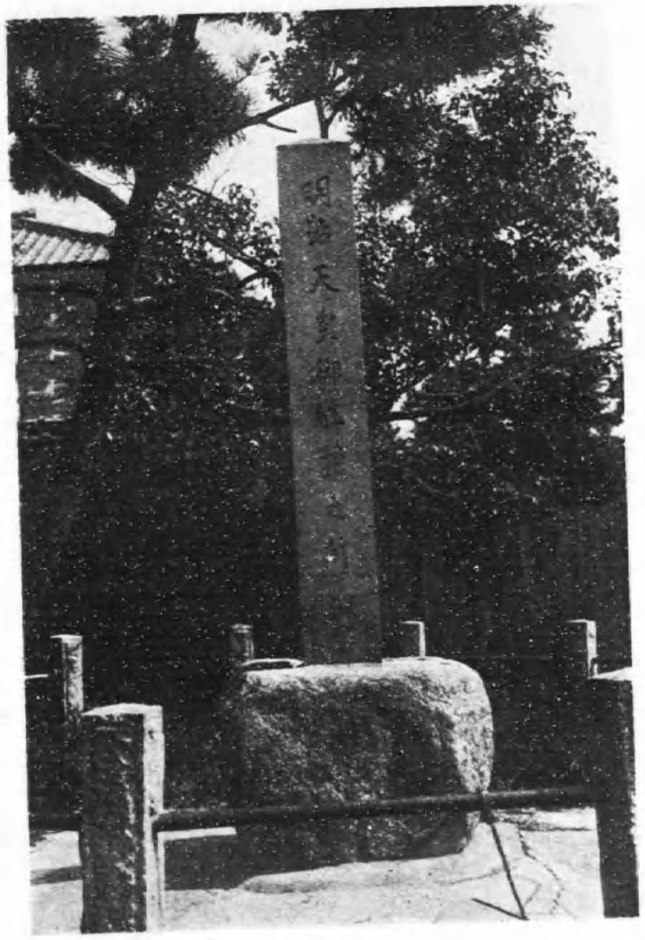


◎明治天皇
清水御小休所

（東區清水町三丁目五十八番五十九番）

市バス、瀬戸電清水下車

明治十三年、明治天皇山梨、三重、京都府御巡幸に際し、天皇には六月三十日午前七時美濃國多治見行在所を御發輦、午後一時五十分當清水に御着輦の上御休憩あらせられ給ひ午後二時二十分行在所である大谷派本願寺名古屋別院に向け御發輦あそばされた。昭和十一年十一月遂に史蹟として永遠に保存されることになつた。



◎高須賀御用所

（中川區長良町三丁目九七番地）

市電、長良本町下車スグ、市バス、岩塚行長良本町下車

明治二年三月十六日

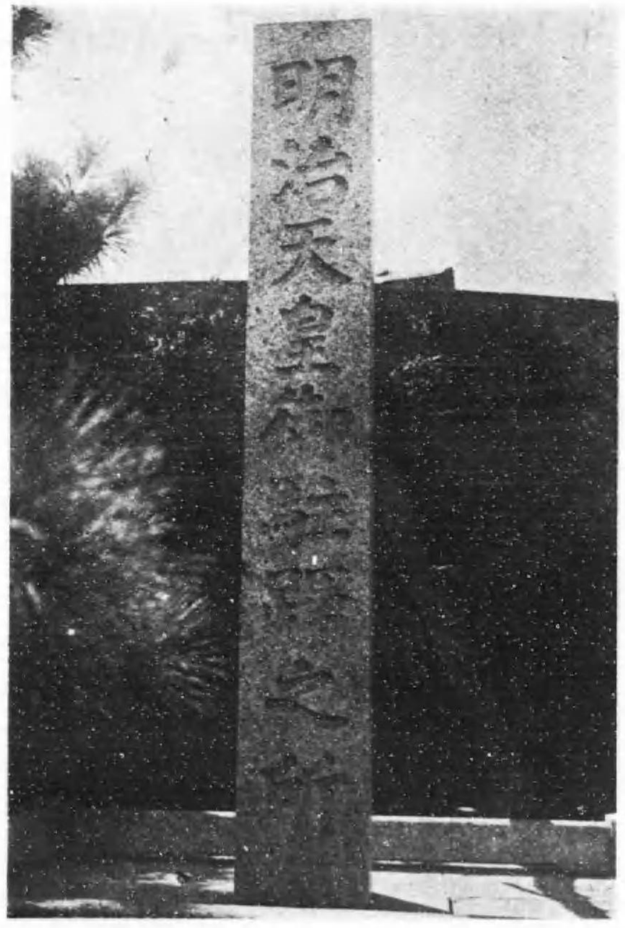
明治天皇　御遷都鹵簿御通行の際御用所となり暫時御小休あらせられた所である。碑面に明治天皇御駐輦之所

明治二年三月車駕東幸之砌十六日長良之地ヲ通御アラセラレ畏クモ此所ニ御小休シ給フ。町民深ク其ノ光榮ヲ憶ヒ諸ヲ石ニ勒シ以テ不朽ニ傳フ。

昭和六年十月

長良町民建之

早瀬松藏謹書



◎二女子御用所

（中川區富川町一丁目二番地）

中川區役所隣

市電、中川區役所前下車スグ、市バス、岩塚行中川區役所前下車

明治元年十二月十八日、明治天皇、西京へ御還幸の際御小休ありし所である。碑面に明治天皇御駐蹕之所

當所ハ明治元年十二月十八日西京へ御還幸ノ際御小休アリシ所ナリ

昭和九年十一月十八日建之

名古屋市

神社佛閣

◎熱田神宮

（熱田區新宮坂町）

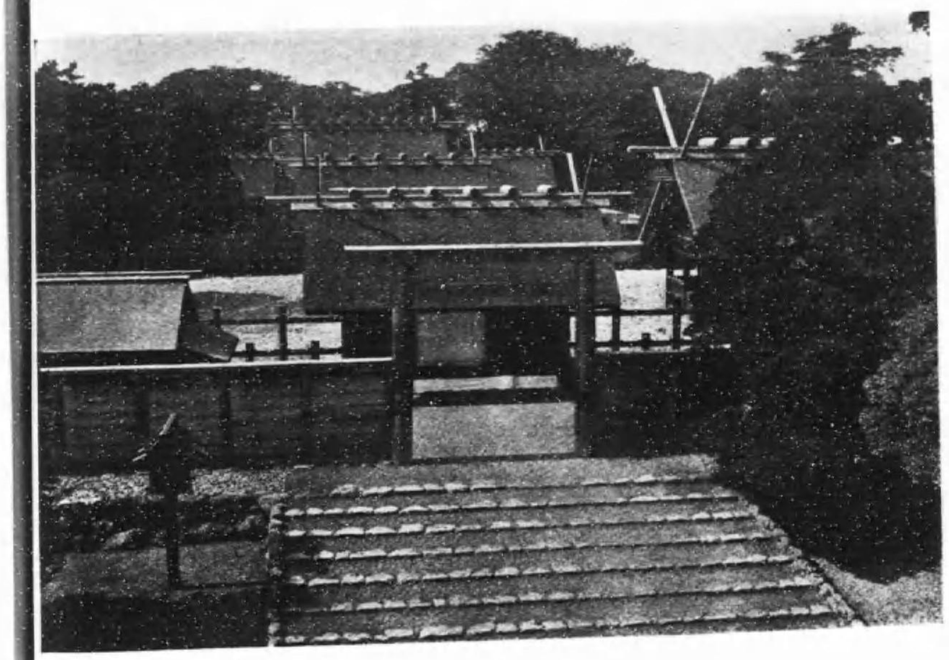
市電、市バス、神宮東門下車

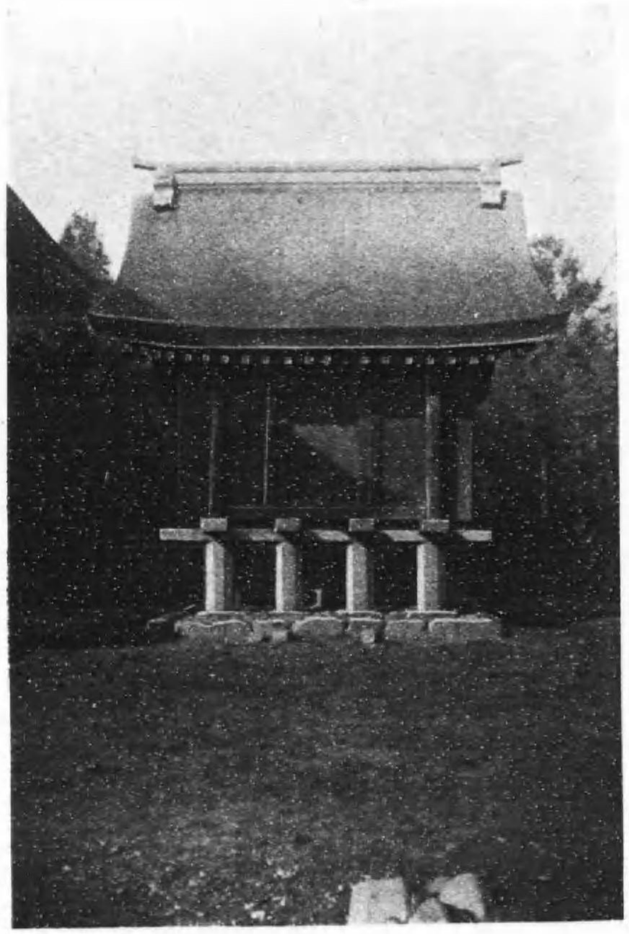
社格 官幣大社

祭神 草薙劍。天照大神。素盞嗚尊。日本武尊。宮簀媛命。建稚種命。

由緒 日本武尊東夷御平定後、尾張に御歸還、伊吹の賊を御討伐の爲神劍を御妃宮簀媛命の許に留めて御出發、途中御病の爲伊勢の能褒野にて御薨去。其後宮簀媛命は熱田の地を選び神宮を御造營神劍を奉齋された。

寫眞說明 正面手前の御門は、外玉垣御門其奥は內玉垣御門、又其奥は瑞垣御門、最後の棟は御正殿、御正殿左右の小さい棟は寶殿で、向つて右端一部の棟は四尋殿である。

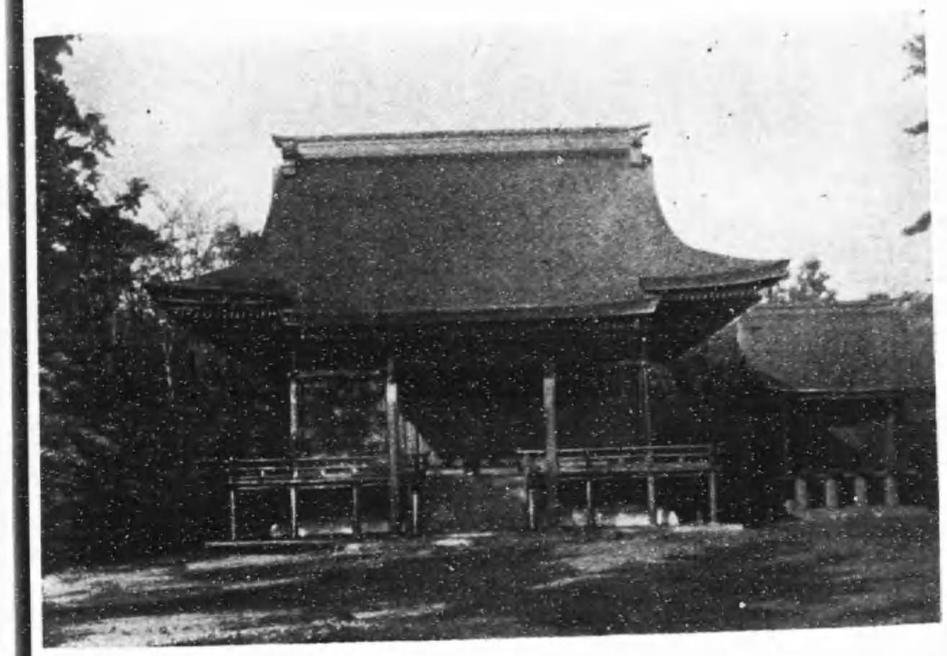




◎土用殿

（熱田神宮內）

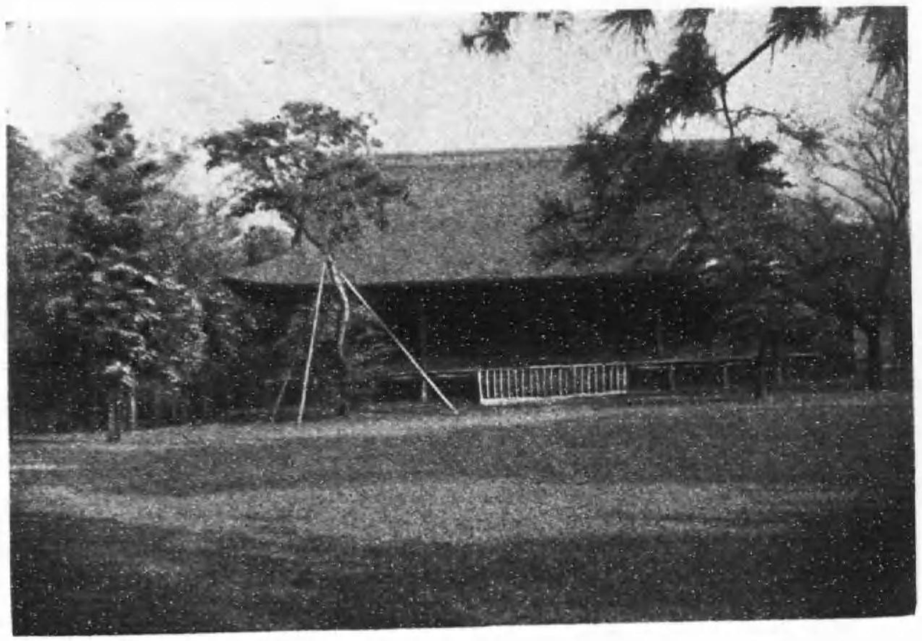
本宮の東方、海上門を入つた正面に殿權と並んで其東側にある社殿である。舊本殿の一つで明治二十六年御改造迄、天璽章薙大御劍を奉齋してあつた。現在の建物は永正十四年足利義稙の造營。天文十一年に修造された。俗に井樓造といつてゐる。



◎權殿（熱田神宮內）

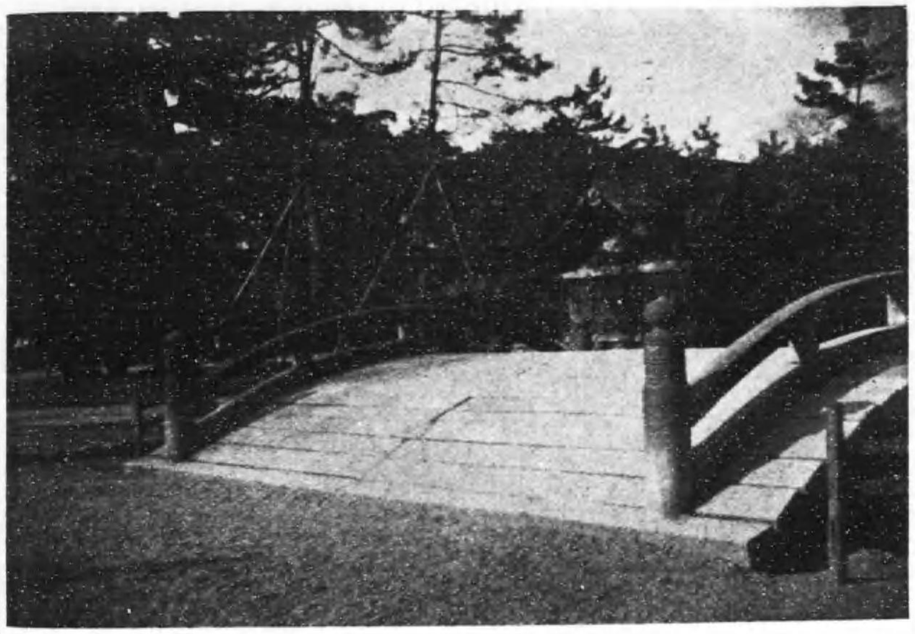
赤坂假皇居內にあつた賢所であつて明治二十二年七月二十三日、明治天皇の御思召を以て當神宮に御寄進あらせられたものである。

初めは八劔宮の御垣內にあつたが、昭和十二年現地に移して權殿と稱し、御正殿造營修理等の際の遷御の御殿となすに至つた。



◎長殿（熱田神宮內）

赤坂假皇居內にあつた神嘉殿であつて、賢所と同時に當神宮に御寄進になつたものである。今當神宮に於て長殿と稱するのは、踏歌神事の際に奏上する頌文の中の語に據つたものである。



◎二十五挺橋（下馬橋）（熱田神宮内）

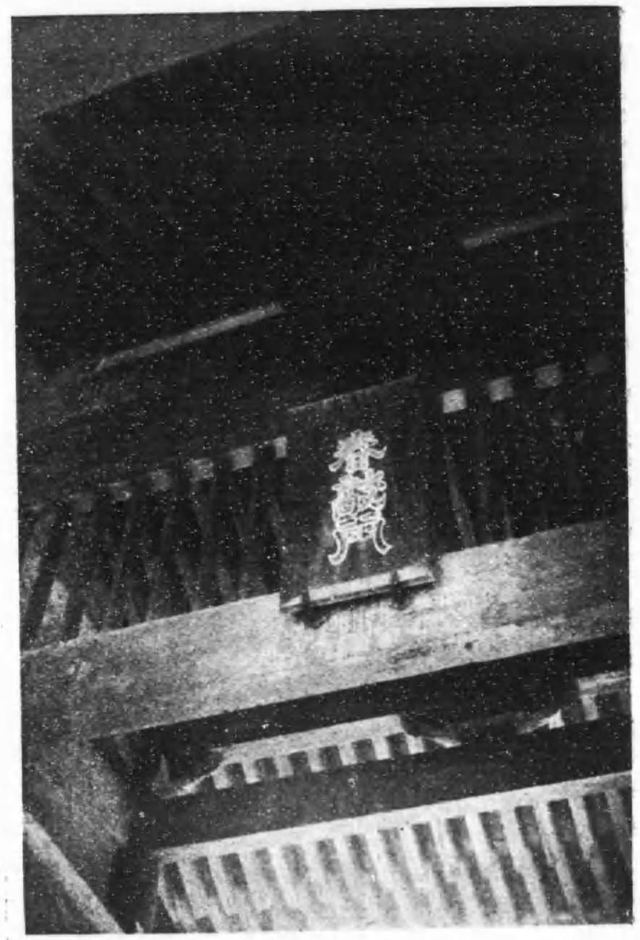
春敲門（しゅんかうもん）を入り西すること約一町、右側にあつた。石で疊んだ太鼓橋である。尾張名所圖會に〝是より南社家町を御所の前、御所の內といふ。此所古き名地なれば大宮司の所緣にて賴朝將軍寓居ありし地なればしかいふか〟とある。もと一條の小川が此下を流れてゐたが現在は神苑擴張工事の爲、取こぼされた。位置は現神樂殿の西隅にあつた。

◎海上門（海藏門）（熱田神宮內）

明治二十六年御改造以前の南門。天武天皇朱鳥元年の創建で、元龜二年に織田信長が改築、其後貞享三年にも修築を加へて今日に至つてゐる。八脚門屋根切妻造、檜皮葺これには、何等裝飾的手法は無いが形狀よく整ひ、俊邁の氣人に迫るを覺えしめる。大正九年四月十五日國寶に指定された。

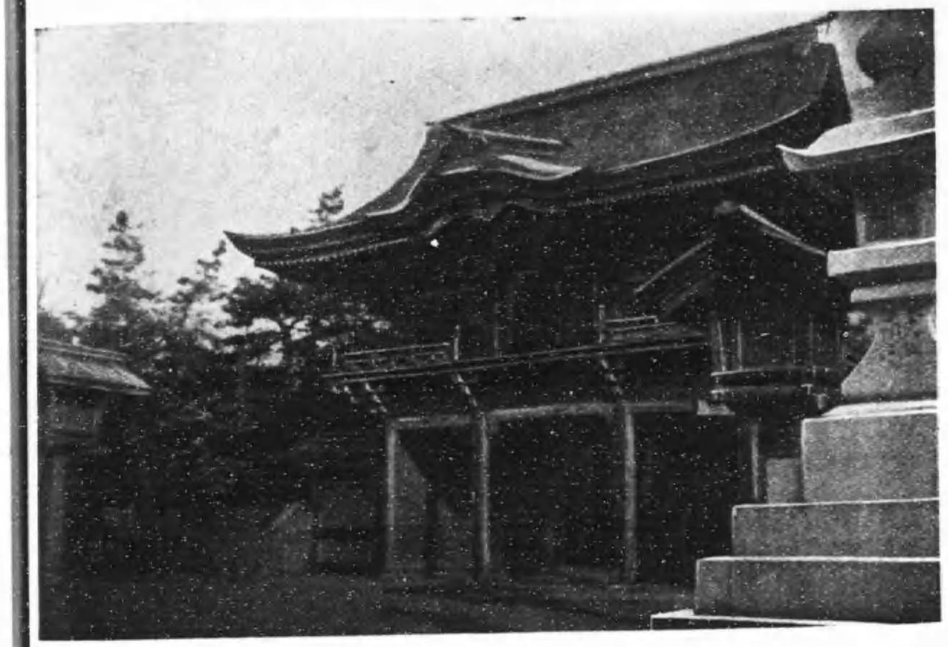
◎春敲門（熱田神宮内）

東御門といひ朱鳥元年の創建、貞享三年に改築せられてゐる。もとは現今の位置より約百十間程北方にあつたが境域の擴張に從ひ大正十三年十二月先づ九十間、南方に移轉、更に昭和十三年七月、神樂殿改築工事の爲約二十間南方に移つた。扁額は小野道風筆と傳ふる古額を模した。



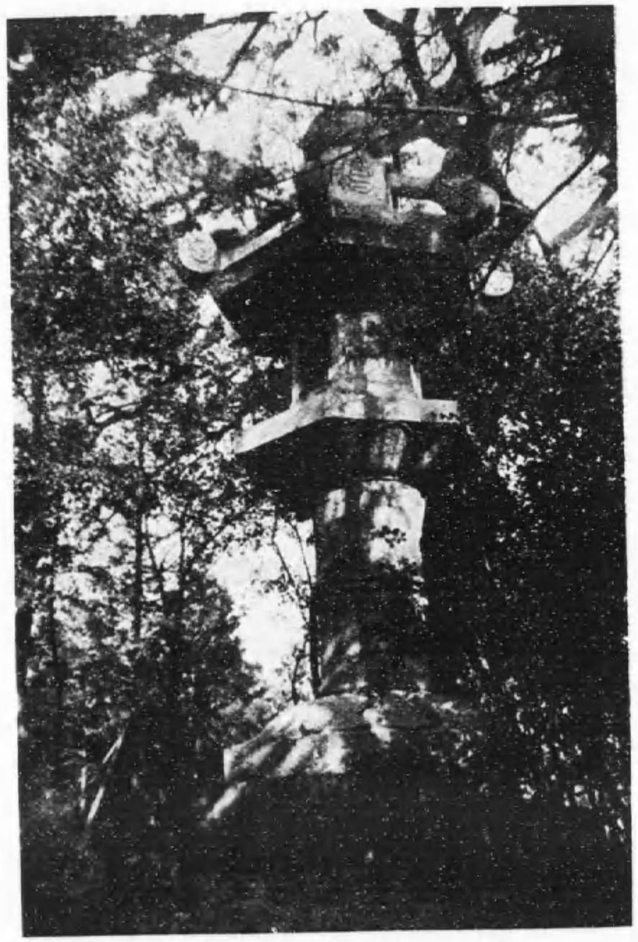
◎春敲門扁額（熱田神宮春敲門内）

扁額の文字は小野道風筆と傳ふる古額を模したものである。原額は横一尺四寸縦二尺八寸五分、當神宮内の寶藏に保存されてゐる。



◎鎭皇門（熱田神宮内）

西御門で朱鳥元年の創建、正應四年の火災にて燒失、後又慶長初年の炎上に再び燒失したといつてゐる。現在のは慶長五年加藤清正の改築に係り、特に珍らしいのは上層中央正面の間に大華燈窓がついてゐる。貞享三年將軍綱吉修理を加へ大正十五年北方約九十間の地より現位置に移轉した。三間一戸の樓門、屋根入母屋造、正面軒、唐破風檜皮葺、昭和三年四月四日、國寶に指定された。



◎佐久間燈籠（熱田神宮内）

古は海上門内西南にあつたが現今は東參道の稍々南、正面參道の東側にある織田信長の臣、尾張御器所城主佐久間盛次の四男、大膳亮勝之が海上で颶風に遭ひ當神宮の守護を祈り難を免れたので、寛永七年その報賽として寄進したものである。

◎那古野神社（なごや）

（西區茶屋町二丁目八）
市電・市バス、名古屋城前
下車西へ一丁

社格　縣社

祭神　須佐之男神（すさのをのかみ）。奇稻田姬神（くしいなだひめのかみ）。

由緒　醍醐天皇の延喜十一年三月勅により尾張國那古野庄（現名古屋師團司令部所在地）に鎭座、龜尾天王社と稱した。天文元年三月兵災にて燒失、同八年再び造立、慶長十五年名古屋城築城の時より御城鎭守の神、名古屋産土神と崇めた。明治九年十月五日現在の地に遷座。同年十一月七日縣社に列せられた。

●祈皇軍戰捷武運長久

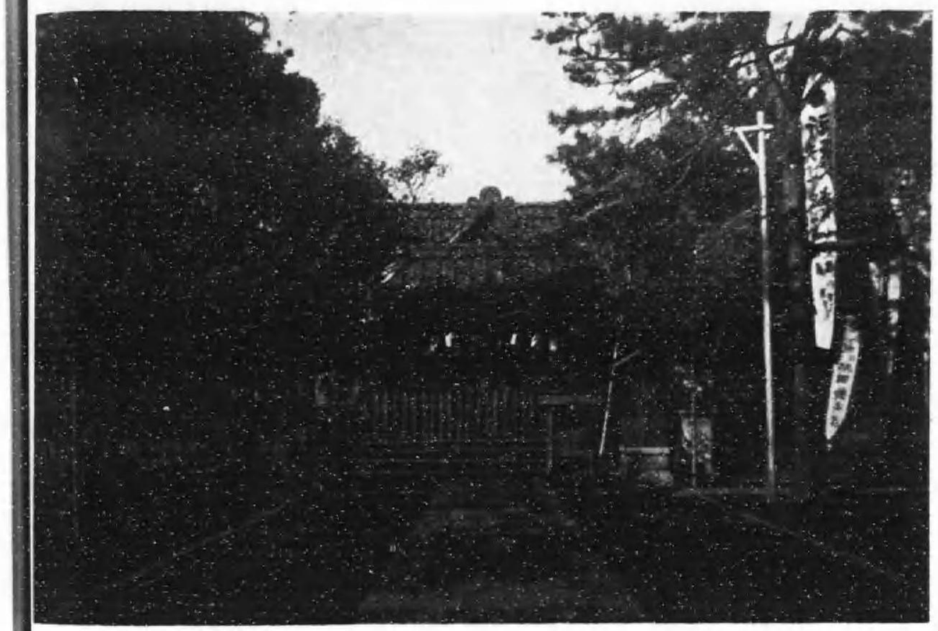
◎若宮八幡社

（中末區廣町三）
市電、矢場町下車
西へ二丁、市バス
本町通り若宮前下
車スグ

社格　縣社

祭神　仁德天皇。應神天皇。武內大臣。

由緒　文武天皇の御代創立。那古野庄今市場（名古屋師團司令部南）に御鎭座。名古屋城築城の際現在の地に御遷座、尾州家の氏神となし崇敬が深かつた。明治九年十一月七日縣社に列せられた。



◎東　照　宮

（西區茶屋町二丁目）
市電・市バス、名古屋城前
下車西へ一丁

社格　縣社

祭神　贈正一位太政大臣徳川家康

由緒　元和五年九月の創立。尾州藩祖徳川義利（後義直）が父家康追孝の爲天海僧正と謀つて名古屋城三之丸に造營した。明治八年縣社に昇格、同十年五月現在の地に移つた。祭禮は四月十七日で昔から〝名古屋祭〟として名高い。昭和十年五月十三日社殿數種は國寶に指定された。

◎東照宮樓門（ろうもん）
（東照宮内正門）

昭和十年五月十三日國寶に指定された。建築様式は三間一戸の樓門。屋根入母屋造。檜皮葺で桃山時代の豪華な製作手法を見る事が出來る

◎東照宮唐門（からもん）
（東照宮内）

昭和十年五月十三日國寶に指定された。當市に於ける桃山時代の建物の豪華版、扉の彫刻、又蟇股（かえるまた）の彫刻、柱、梁天井等の極彩色など當時代の特色をよく現してゐる。

建築様式は、一間平唐門（からもん）、屋根銅板葺。

◎尾張（おわり）神社
（昭和區御器所町字北市場）
市電、都島下車東約二町、
市バス、（郡道）出口下車西
（約二町

社格　縣社

祭神　徳川義直、徳川慶勝

由緒　徳川義直の靈は明治八年、同慶勝の靈は同三十一年縣社東照宮に合祀せられてゐたが、大正十一年六月三十日名古屋開府三百年記念として創立、縣社に列せられ、同十三年十月東照宮より兩公の靈を遷して奉齋した。

◎片山八幡神社

（東區大曾根町一〇二）

市電、市バス、八幡前下車西側

社格　縣社

祭神　天照大神、品陀別命（ほんだわけのみこと）、菊理姫命（くくりひめのみこと）

由緒　繼體天皇の御代の御鎭座、元祿八年藩主光友の命によつて再興、昭和四年九月十七日、縣社に列せられた。

◎豐國神社

（中村區中村公園內）

市電、中村公園前下車北へ四丁、市バス、大正橋行中村公園前下車北へスグ

社格　無格社

祭神　豐臣秀吉

由緒　明治十八年八月中村區の有志者相謀り、時の縣令國貞廉平の認可を得創建した。爾來縣市區民の崇敬が非常に厚い。

◎泥江縣神社

（西區袋町一）
市電・市バス、南園町下車、
觀光ホテル筋北二丁西入ル

社格　鄕社

祭神　應神天皇。神功皇后。比賣大神

由緒　清和天皇貞觀年中豊前國宇佐八幡宮を山城國男山に勸請せられた時同時に當所に勸請した。昔名古屋在廣井村の地にあつたので、廣井八幡宮とも稱した。明治五年村社に、同十五年四月鄕社に昇格して現在に至つてゐる。

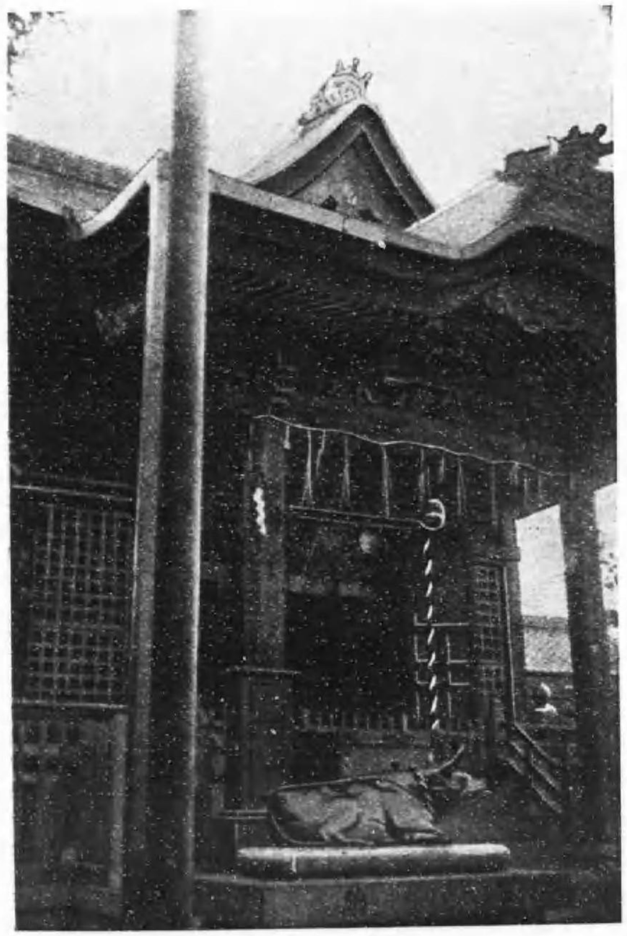
◎七尾神社

（東區西二葉町）
市電、清水口下車北三町
西一丁餘

社格　村社

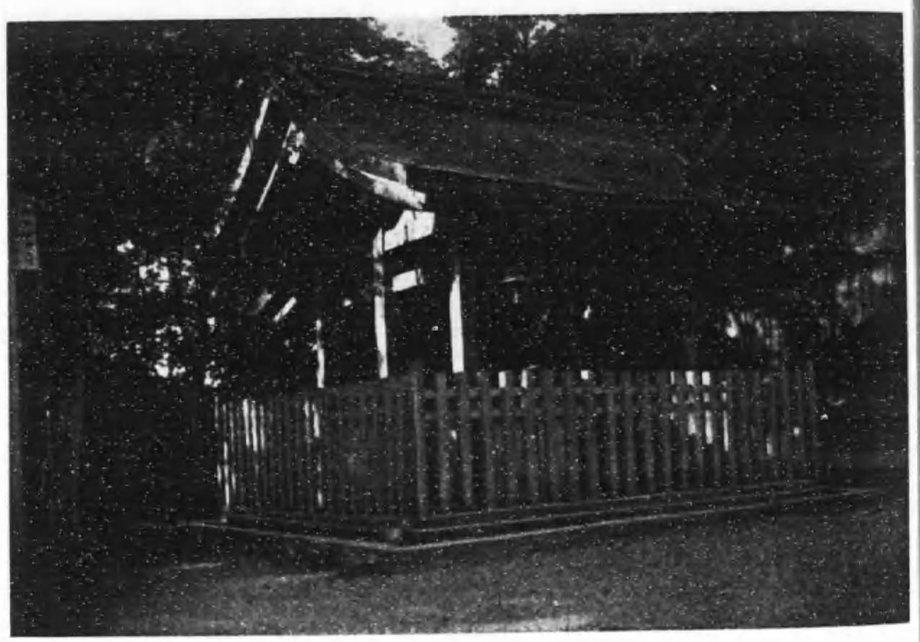
祭神　菅原道眞

由緒　龜尾天滿宮、七尾天滿、七尾天神と稱へてゐた。永正年中の建立、元和年中藩主拜殿を建立、後成瀨家の祈願所となる。明治四十二年七月火災にかゝり燒失、同四十四年改造遷宮された。



◎天神社（櫻天神社）
（西區菅原町四丁目）
市電、杉ノ町下車櫻通り西へ四丁、市バス、本町通り御幸本町下車スグ西

社格　村社
祭神　菅原道眞
由緒　天文年中織田信秀が菅公の木像を得て社を名古屋城内に建て、天文七年、萬松寺の山門の左に移して寺の鎭守とし慶長遷府の際萬松寺を小林の地（今の裏門前町）に移し社は舊地、現在の地に殘した。境内に櫻の大樹があつたから櫻天神と稱した。



◎高藏結御子（たかくらむすびみこ）神社井戸
（熱田區東町高藏）
市電・市バス、高藏下車西二丁

社格　熱田神宮攝社
祭神　高倉下命（たかくらじ）
由緒　俗に高藏の杜といひ古木繁茂して、神寂びた地である。織田信長本殿を造營し、元和四年蜂須賀氏修理貞享三年改造遷宮した。〝井戸のぞき〟の神事は有名である。此の水を飲み亦、井戸をのぞく時は病氣にかゝらぬといひ傳へ、毎年七月土用入の日を下して今も盛に行はれてゐる

◎八幡社（闇の森）

（中區正木町）
市バス、本町通り九丁堀下車西へ一丁

社格　鄉社

祭神　譽田別命、大鷦鷯尊、息長足姫尊。

由緒　創立は遠代にあろ。相傳へるところに依れば源爲朝伊豆大島に流された時逃れて此の地に隱れ八幡宮を安置し朝夕祈請した。古渡城主織田信秀尊敬厚く、德川義直府を開くに及び又歷世深く尊敬した。境內に爲朝の鎧塚がある。

◎愛知縣護國神社

（西區南外堀町）
市電・市バス、名古屋城前下車北へ一丁西側

內務大臣指定社

祭神　明治十年西南戰役以來の君國に殉じた愛知縣出身將兵七千七百七十四柱の神靈を合祀。

由緒　明治二年二月創立旌忠社といひ同八年招魂社と改め、同三十四年官祭招魂社と改稱せられ、大正七年市內中區廣路町川名山より名古屋北練兵場へ移轉、次いで昭和十年四月現地に移轉、社殿を改築した。同十四年四月一日、愛知縣護國神社と改稱された。

◎七　ッ　寺

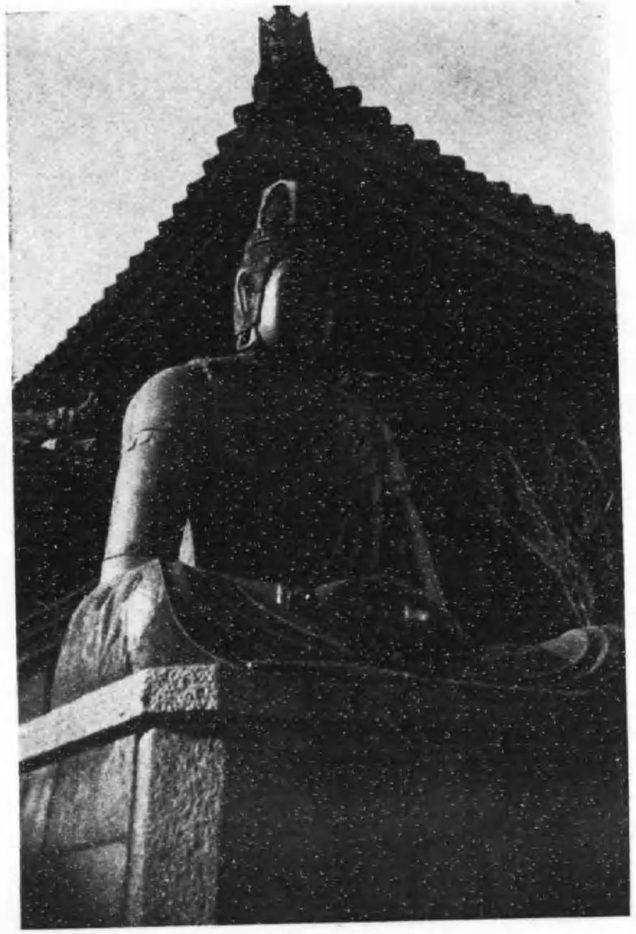
（中區門前町五）
市電・市バス、大須下車西（半丁北側

寺　眞言宗智山派、京都智積院末、準別格本山、稻園山

由來　天平七年行基の開創。往昔は尾張中島郡堂津原（同郡大里村七ツ寺）に在つた。天應元年河內權守是廣が同七年奥羽より歸國の際、此の里に宿泊し吾子光麿が父を尋ね此驛まで來て死んだことを聞き其菩提の爲當寺を建立し七區の精舍を建てた。慶長十六年現地に移つた。本堂及び佛像五體並に一切經は國寶に指定されてゐる。

◎七ッ寺本堂（七ッ寺内）

明治四十二年八月二十九日、國寶に指定された。桁行五間、梁間五間、單層、屋根四柱造本瓦葺、桃山時代の建物、天正十九年清洲に建立したのを慶長年三に現地に移した。棟は寄棟、正面に一間の庇がある。是を向拜といつてゐる。内部は外陣、内陣と分れ、内陣は立派な漆塗で極彩色彫刻がある。特に柱の上の組物と組物との間の蟇股は注意すべきものである。



◎七ッ寺
大日、像
（七ッ寺内）

本像は銅製座像にて身長八尺五寸、元文四年四月完成落慶した。特に尾張藩主の祈願所で七世宗春の時建てられたものである。

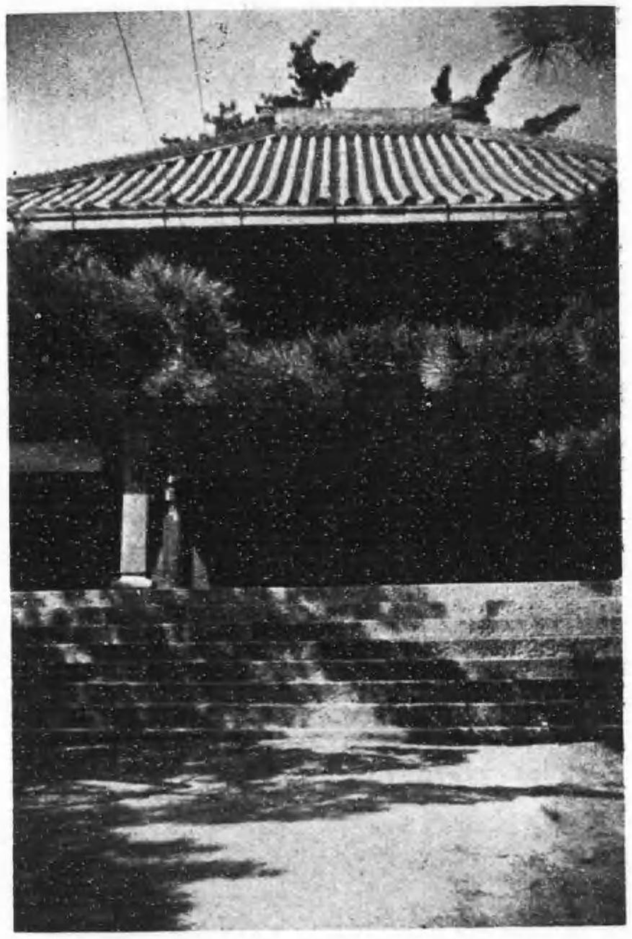
銘曰　元文三戊午天十月二十八日
當寺現住大阿闍梨權大僧都法印良卓代願主信蓮社念譽善了比丘敬白

◎七ッ寺
太子堂
（七ッ寺内）

當山八世良卓の時聖徳太子御自作の像を祀り本堂を建てた時に寶暦四年であつた。尾張藩主七世宗春（宣揚院）の崇敬は特に厚かつた。

◎七ッ寺
三重塔
（七ッ寺内）

當山七世良快の時造立。元祿六年二月本塔の營建を始め同十年冬、藩主光友黃金若干の寄附によつて京都の佛師運長に命じて五智如來、八大菩薩の像を刻して塔中に安置した。同十三年春落成し、同十四年八月二十七日入佛供養を行つた。



◎觀音寺
（中川區荒子町）
市電、下一色線荒子下車東二丁餘

寺　天台宗山門派。靜海山圓龍院。

由來　聖武天皇の天平元年泰澄の草創、同十三年自性の建立で往古は、七堂伽藍を具備し無雙の靈場といはれたが、後衰頽したのを永祿年中、智音院全運が再興した。前田利家は此地に生れ、當寺を崇敬して、天正四年堂舍を修築した。江戸時代には府城四鎭の道場として名高い。今も尾張四觀音の一として世の信仰が厚い

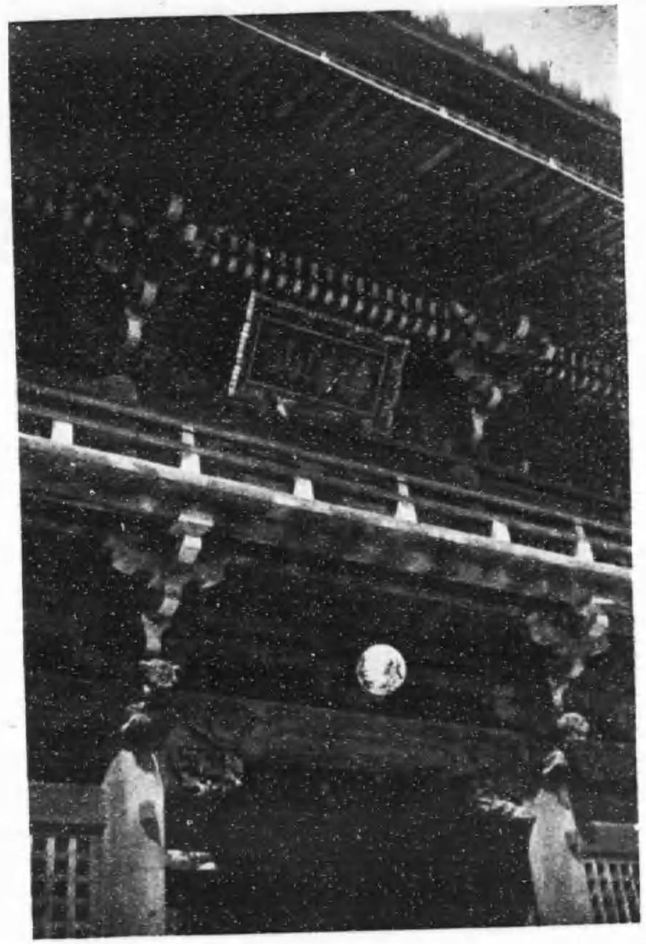
◎荒子觀音
多寶塔
（觀音寺内）

後奈良天皇の天文五年の建築にかゝる。

三間二層塔婆屋根銅板葺、下層は和様、上層は唐様の多寶塔で非常に形がよく整つて居り、本塔の組物は複雑な仕事がしてありよく室町風の特色を現はしてゐる。大正十年四月三十日國寶に指定された

◎荒子觀音山門
（觀音寺内）

山門内に〝圓空作の兩全別像〟が安置してある。此像は知多郡木の山の觀音にあつたのをこゝに遷したと〝尾張名所圖會〟に見えてゐる。現今の建物は、明治二十四年の濃尾震災後に建てられたものである。



◎荒子觀音
山門の扁額
（觀音寺内）

◎笠覆寺（笠寺觀音）
（南區笠寺町）
市バス・笠寺西門下車、
名鐵・笠寺下車東へ四丁

寺　眞言宗智山派天林山笠覆寺（尾張四觀音の一）

由來　聖武天皇天平五年善光上人（禪光）の開基にかゝる古刹である。始め小松寺と稱し、其後大いに荒廢し佛像も雨露にさらさるゝ有様となつたのを鳴海の長者の娘が笠を覆ひ參らせた。其の娘がやがて藤原兼平に嫁ぎ之を復興し笠覆寺と稱したと傳へられてゐる。現今の本堂は桃園天皇の寶暦十三年のものである。

◎笠覆寺山門（笠覆寺内）

現今の建物は仁孝天皇の文政三年三月二十三日の建立にかゝるものであつて門内の仁王は一丈六尺の雄大なものである。

◎寶生院（大須觀音）

（中區門前町四）
市電・市バス、大須下車
北一丁西入ル

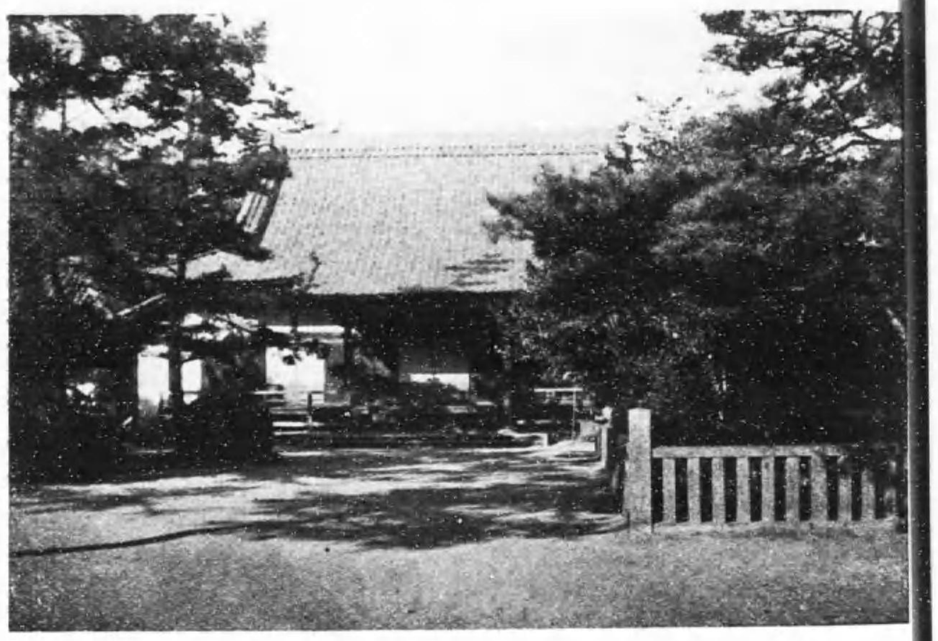
寺　新義眞言宗智山派京都智積院末、準別格本山、北野山眞福寺

由來　初め尾張中島郡大須庄北野（美濃羽島郡小藪村大須）にあつた。伊勢の祠官度會能信の創建、後醍醐天皇の御歸依、村上天皇は攝津四天王寺の正觀音像を當寺に移さしめられた。第三世任瑜の時には勢、濃、尾三、遠の諸名刹となり其後、兵亂、水難等によつて衰へ慶長十七年成瀨正成、徳川家康によつて今の地に移された。尾張藩主義直の尊崇が厚かつた。明治二十五年火災にかゝり現在の本堂は其後の建築にかゝる。書籍繪畫等國寶に指定されてゐるものが多い。

◎大須眞福寺文庫

（大須寶生院内）

本文庫は昭和九年七月地鎭祭を擧げ同十二年十月竣工された。藏書は世に眞福寺本、又は大須本といはれ、國書漢籍等國寶のもの百三十二合、一萬餘卷の全書が格納されてゐる。建物は純日本式、總體、鐵筋コンクリート、耐火、耐震、耐濕の三方面に留意され地上（展觀室）地下（格納庫）の二部に分れ總坪數二十七坪四合、完全な文庫である。これら書籍は明治三十八年四月四日、國寶に指定されてゐる。



◎長母寺（ちやうは）

（東區矢田町）

市バス・長母寺前下車北二丁

寺　臨濟宗東福寺末。靈鷲山。

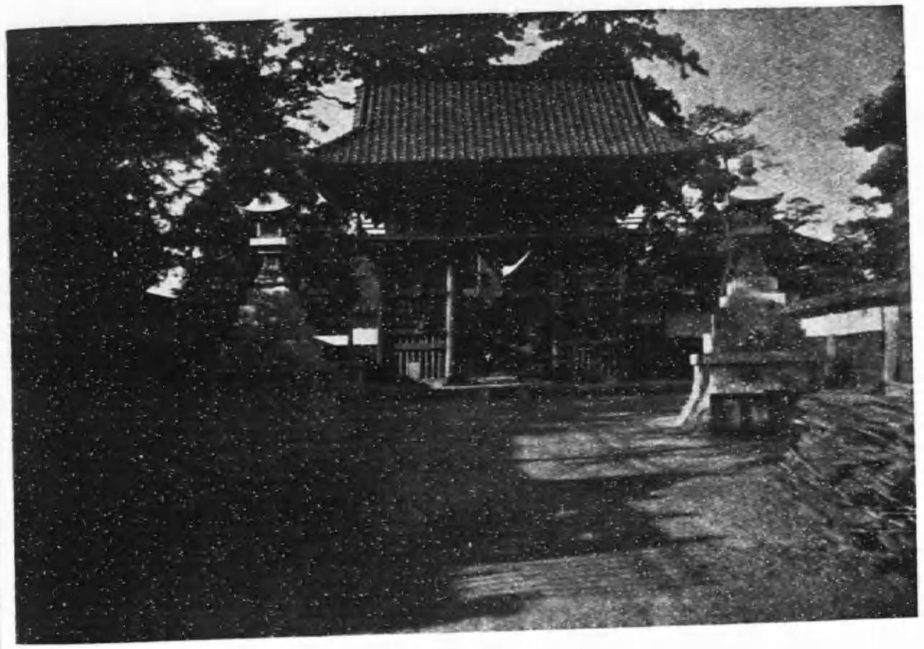
由來　治承三年山田次郎源重忠が其母長母院の爲に創建したもので、開山は觀勝である。其後衰へたのを山田道圓坊夫妻七堂並に塔頭を再建して無住をもつて中興開山とした。特に天和二年雪溪惠恭の時藩主光友の命により再建した。

◎長母寺山門（長母寺内）

明和四年に山つなみがあつて當山眞中を押流され、自然川筋となり門前は平洲となつた。現山門はそれ以後の建物である。

◎開　山　堂（長母寺内）

本堂の左側にある。無住國師入定の御堂である。堂内に安置せる木造無住和尚坐像は自刻といはれ、鎌倉時代の作風で大正三年八月二十五日國寶に指定されてゐる。

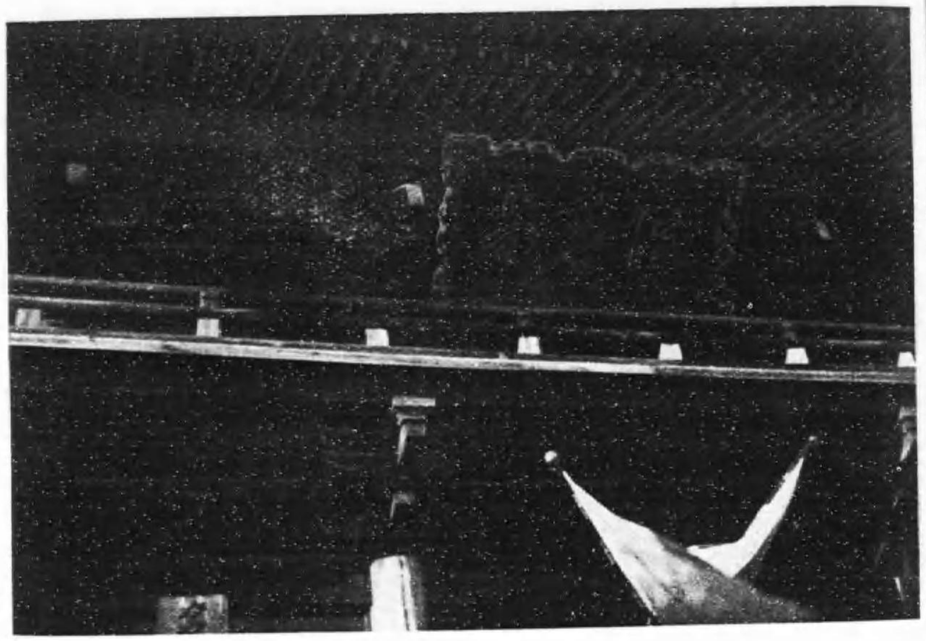


◎本遠寺（ほんのんじ）樓門

（熱田區田中町）
市電・市バス、白鳥町
下車東一丁入ル

寺　日蓮宗本國寺末。

樓門　三間一戸、屋根入母屋造
棧瓦葺で特に此建物の蟇股彫刻類は非常に變化の富んだもので表、裏、中、と各々蟇股が一つ一つ意匠が異つてゐる。大正十年四月三十日國寶に指定されてゐる。室町時代、元龜天正以前の建物であるといつてゐる。



◎本遠寺樓門の扁額（本遠寺內）

三間一戸の樓門で室町時代の建築と傳へられ扁額は東春日井郡北里村眞通寺（鬼藏庵）中興の祖といはれた不變院日如聖人の自書自刻の額で、文化初年の作と傳へてゐる。日如聖人は文化五年五月十九日遷化した大德の僧である。

◎本遠寺法華堂

（本遠寺内）

本堂の前面にある。

此の堂は桓武帝の延暦年中勅命に依り傳教大師、熱田神宮の境内に堂を建立し、法華堂と名づけ釋尊の木像を謹刻して安置した。建長五年の春、日蓮聖人京都遊學の御り歸途此堂に立寄り、說法された。元享年中、本寺開山日澄上人の時宗祖來内のあつた由緒の本堂を熱田宮司により本寺に寄附され現地に移した。内陣の建築様式は室町初期と言はれ、明治十九年六月内務省は保存金を下附した。

◎萬松寺

（中區門前町一丁目）

市電・三輪町下車、西一丁南入ル、市バス・萬松寺通下車西一丁北入ル

寺　曹洞宗、能登總持寺末、龜岳山

由來　もと愛知郡名古屋村（現西區菅原町櫻天神社）にあつた。

天文九年、織田信秀大雲永瑞に謀つて堂宇を建立。慶長遷府の際現在の地に移した。境内に信秀の墓がある。

◎建　中　寺

（東區筒井町一）
市電・平田町下車東四丁

寺　淨土宗鎭西派、京都知恩院末、德興山

由來　慶安四年、藩主光友、藩祖義直の爲に建立した。同五年二月、大殿方丈、鐘樓、山門、書院庫裡等落慶、巨構壯麗當時府下第一、尾張德川家代々の菩提所であつて現に末寺十九個寺ある。

◎建中寺山門
（建中寺内）

本樓門は天明五年正月廿三日の火災に免れた慶安五年の建立にかゝる。樓上に十六羅漢像を安置してある。

◎建中寺鐘樓（建中寺内）

山門を入つて向つて右側にある天明年中に再建したもので梵鐘は慶安四年五月七日林道春の銘及び、天明七年五月七日細井徳民の銘が刻されてゐる。

◎建中寺惣門（建中寺内）

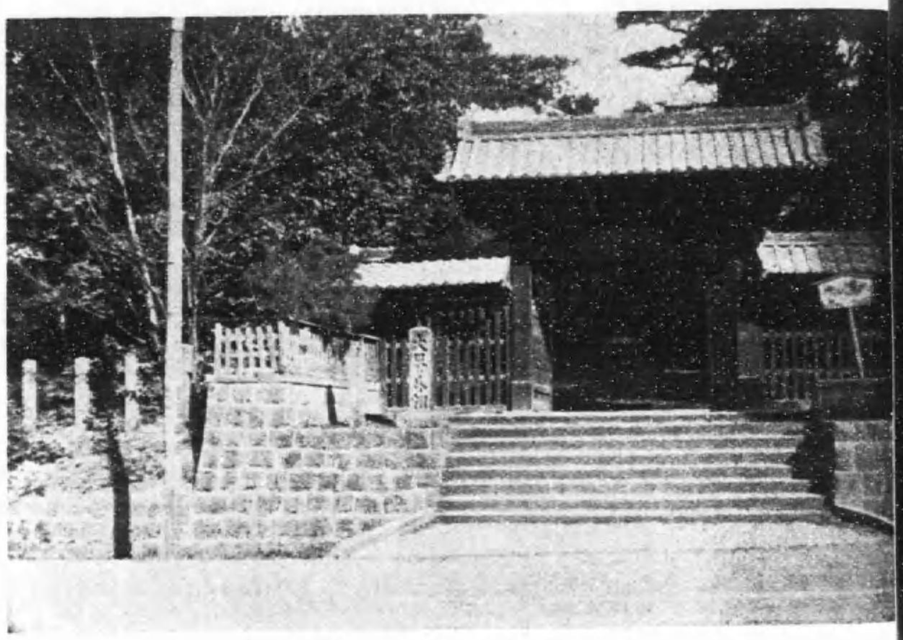
慶安五年二月の建立にかゝる。藩主光友、父義直追福の爲に建てられたものである。

◎建中寺經藏
（建中寺内）
本堂向つて右方にある。文政年中に建てられた。黄檗版の一切經一部が收められてある。

◎興正寺（こうしょうじ）
（昭和區廣路町八事山）
市電・市バス、八事行
興正寺前下車

寺　眞言宗高野山金剛峯寺末。八事山普門院（西山）

由來　慶長五年八月の建造である。貞享三年天瑞圓照、高野山より此の地に來り草庵を結び、律寺建立を志し藩主光友の歸依を受け堂宇を建立空海を開山とした。

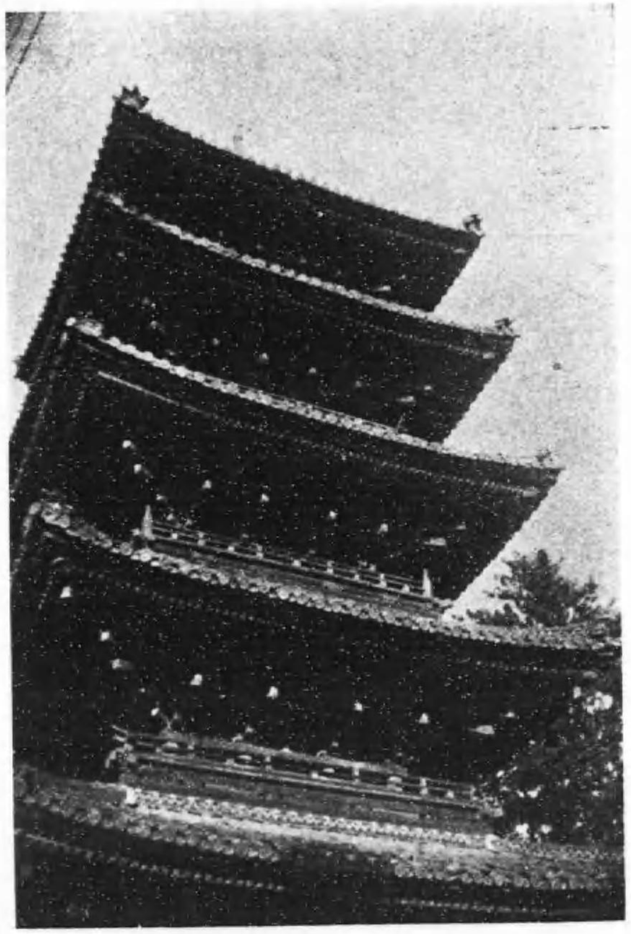


◎興正寺惣門（西山）

本門は當山七世眞隆（實嚴）の代に建てられ文化年中のものである。眞隆は文化十三年七月十七日寂した人である

◎興正寺東門（東山）

當山開山天瑞圓照の時、藩主光友の援助によつて建立された。初めは、板葺であつたが正徳六年瓦葺とした。

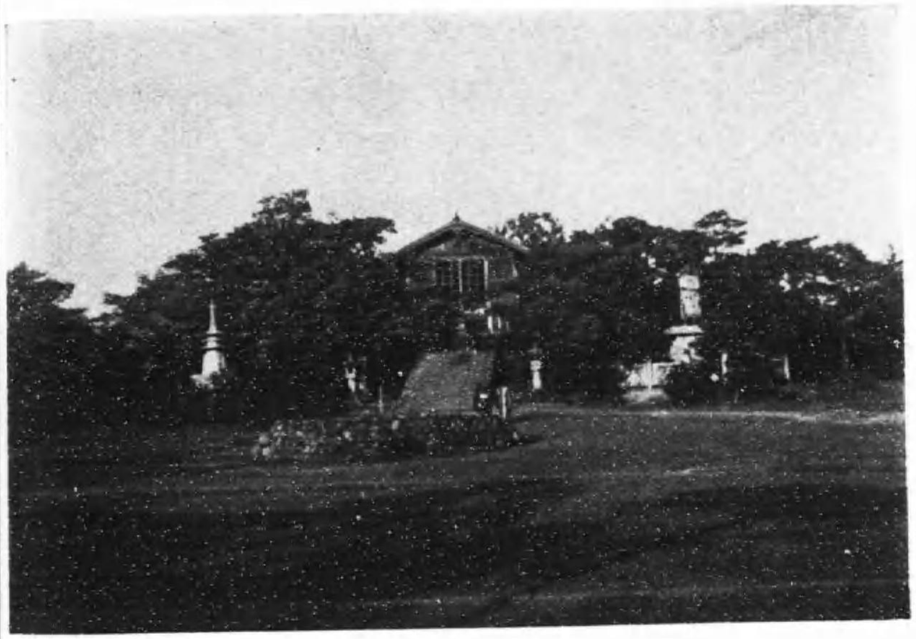


◎興正寺
五重塔
（興正寺西山）

當山七世代眞隆の時建立された。文化年中である。中央に木造大日如來坐像四面に、木造阿閦、寶生、彌陀藥師の四如來の座像を安置してある。作者は不詳、現在名古屋市内に於て、最大最高の塔である。

◎興正寺墓地
（興正寺内）

興正寺東山の地を開いたのは開山天瑞の時で元祿元年十一月同十年には藩主光友の寄附によつて總本尊大日銅像も完成した其頃高野山の奥の院に擬して路の左右に石造の寶筐印塔を並立し、女人門よりは女人結界とした。全山の同塔は三百六十餘基もある。



◎興正寺大日堂（興正寺内東山）

總本尊である大日如來坐像は元祿十年丁丑孟夏の時藩主光友の寄進になつたものである。石座の下土間に方石經若干が納めてある。銘に

大願主從二位權大納言源光友朝臣當時中興本願天瑞圓照謹銘。

◎東本願寺別院

（中區下茶屋町）
市電・市バス、東別院前下車西側

寺　淨土眞宗大谷派本願寺別院。

由來　天正年中に尾張國海東郡蟹江村に泉龍寺があつた。それを慶長十一年名古屋市袋町に移した。元祿三年大谷派本願寺第十六世門主一如上人が藩主光友から古渡城趾を受け本寺を建立した。俗に東懸所、又は東御坊といつてゐる。境内凡そ一萬七千八百坪。

◎東本願寺

樓　門

（東本願寺別院内）

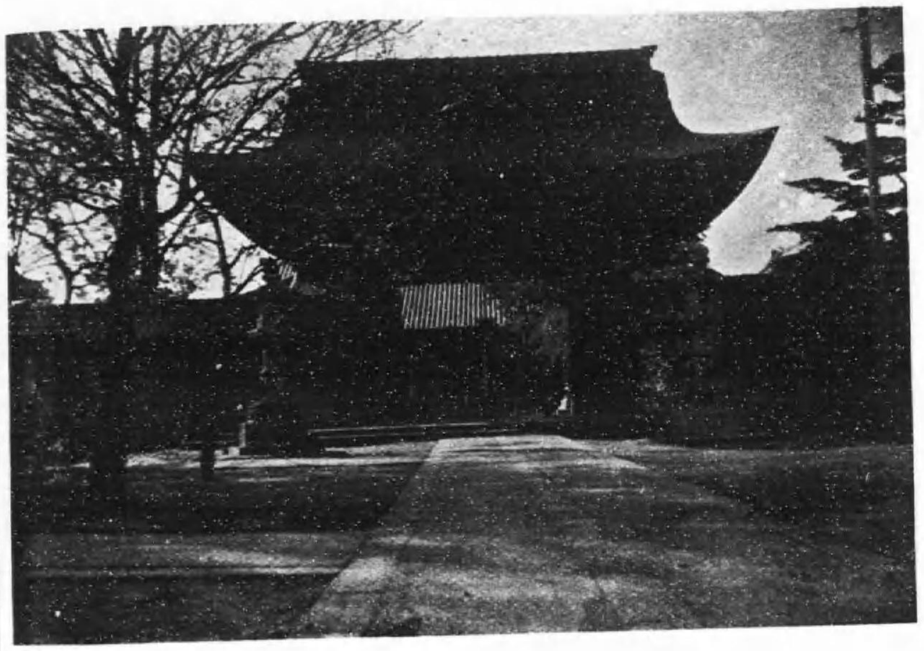
本樓門は寶暦三年四月工を起し同七年之を落成した。樓内に慈鎭筆六字名號並に嚴如上人作の釋迦、彌勒、阿難の三木像を安置し、尚同上人筆の大悲往還の木額が掲げてある。

◎東本願寺

鼓　樓

（東本願寺別院内）

本樓は享保十一年九月建立された。勤行の始まる前に合圖として太皷を打つたもので、現在も續けてゐる。



◎西本願寺別院

（中區門前町）

市電・市バス、大須下車

南へ半町西側

寺　本願寺派本願寺別院（西懸所）

由來　もと清須にあつて、桑名願證寺三通所の一つ。願證寺は初め伊勢長島にあつて蓮如上人次男實悳の創建である。天正二年長島一揆敗亡の際寺滅した。因つて本山の顯如織田信雄に請ひて清須に再興した。慶長遷府の際、願證寺を此地に移して別院とした。享保十五年七月梅昌院（藩主綱誠二ノ丸）逝して此に葬つた。明治九年本願寺別院と改稱した。

◎日　運　寺

（千種區田代町）

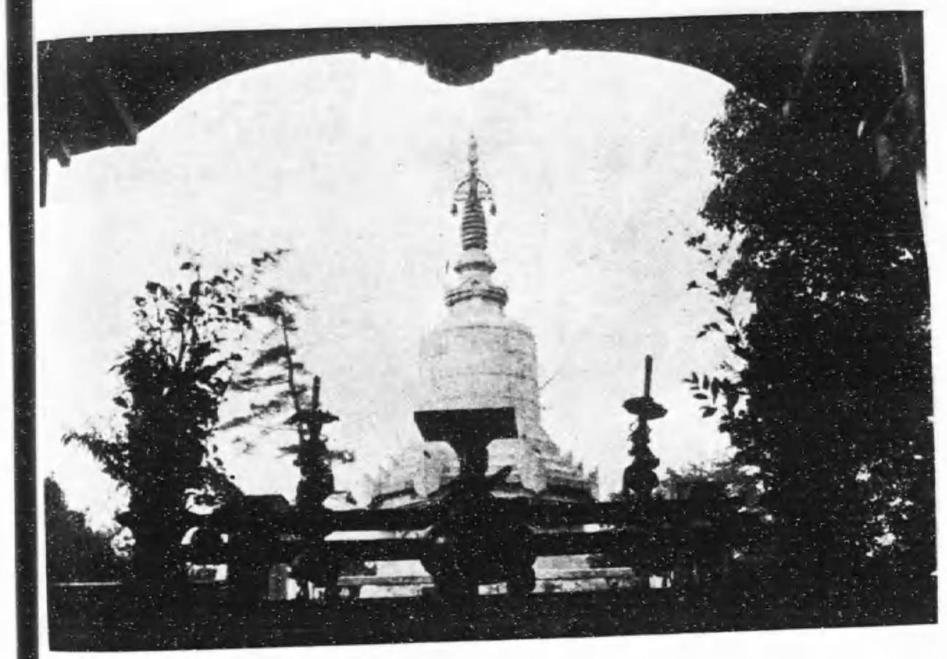
市電・市バス、覺王山

前下車北三丁入

寺　佛教各宗聯合會協約の下に創立。

明治三十七年十一月十五日當地に奉遷。

由來　明治三十二年一月、英領北印度ピップラーヴにて釋尊の靈骨を發掘同三十二年二月印度カルカツタ政府遷羅國王に贈與、同三十三年一月遷羅國王より我が國に贈與、同三十三年六月靈骨を京都に迎へた。同三十五年十一月、名古屋市へ奉遷（萬松寺）同三十七年十一月十五日、萬松寺より現地に奉遷した。

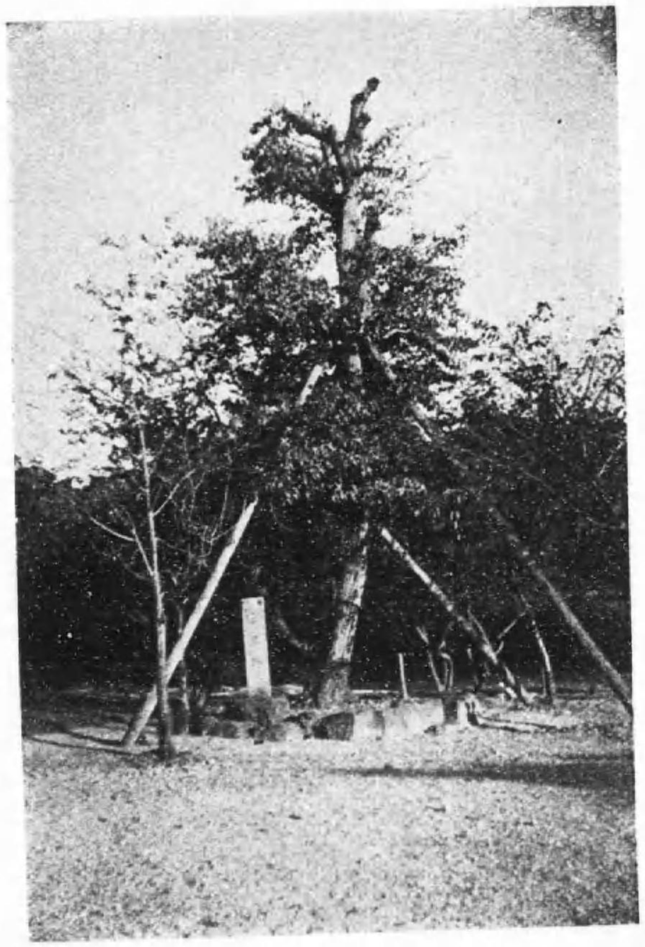


◎日遲寺奉安塔（日遲寺内）

本塔は大正七年六月十五日建立。御影石造のガンダラ式の大寶塔で高さ約十五米釋尊の靈骨が奉安されてある。

◎本尊佛（日遲寺本堂内）

大雄寶殿（本堂）に安置、暹羅國王チユラロングコルン殿下より賜つたものである。純暹羅式の佛像であつて、同國古都ヴイエン、チエンサン府の王室寺院に奉安せる國内隨一の古佛體である。表情姿態實に優美で特に肩、胸部、上膊などの曲線美等正にマツラ派の系統をひいてゐる。



◎菩　提　樹
（日遥寺内）
市電・市バス覺王山前下車日遥寺東一丁餘

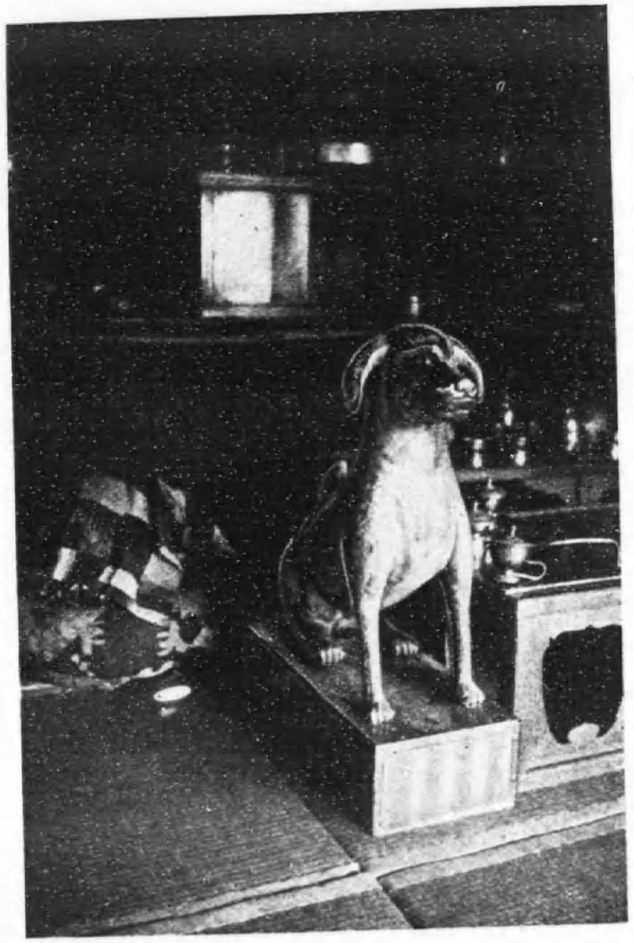
覺王山奉安塔の入口右側にある。この木はもと、大曾根町にあつたものであるが昭和七年三月同町の四名の有志によつて聖地奉安塔の前に寄附されたものである。この菩提樹は、印度産のものでなく日本在來のものであるといつてゐる。根廻り五尺二寸、二枝に分れてゐる。高さ約三十五尺。

◎清　淨（しやうじやう）寺

（中區矢場町）
市電・市バス、三輪町下車北半丁東側矢場町下車南一丁東側

寺　淨土宗鎭西派、京都知恩院末、德壽山無量院、（矢場地藏）

由來　貞享の初め藩主光友の歸嚮を受け鄰龍上人に此地を賜はり一寺を創設し元祿元年以降毎年末に白銀を賜り尙光友より淸淨軒の額を賜つた。境内に小林城主牧長淸の墳墓があり又藩主義直、光友の畫像は有名である。



白犬

◎法淨寺犬御堂

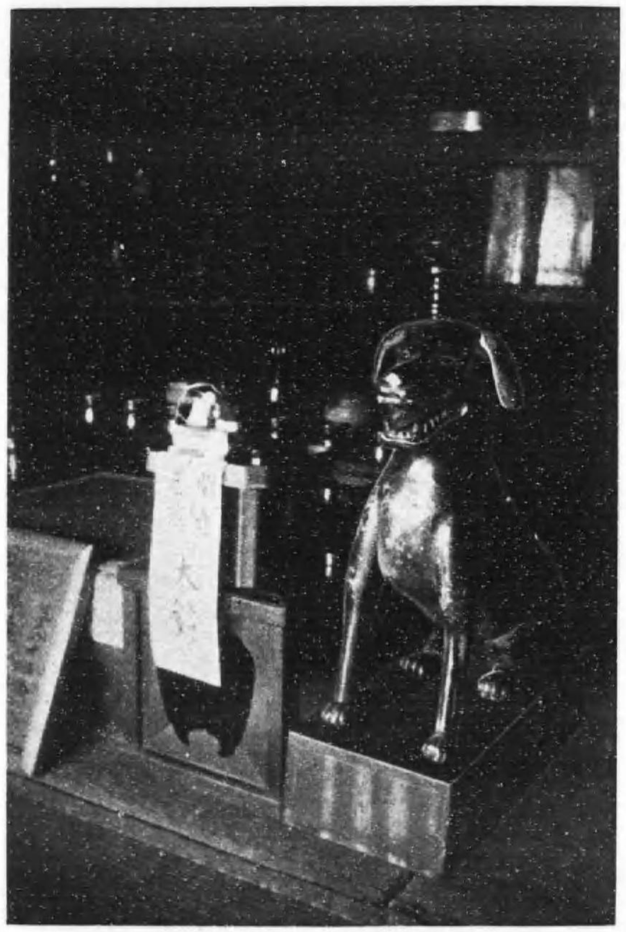
黒白犬像

（中區古渡町二）

市電・市バス、本町通り下茶屋町下車南一丁西入

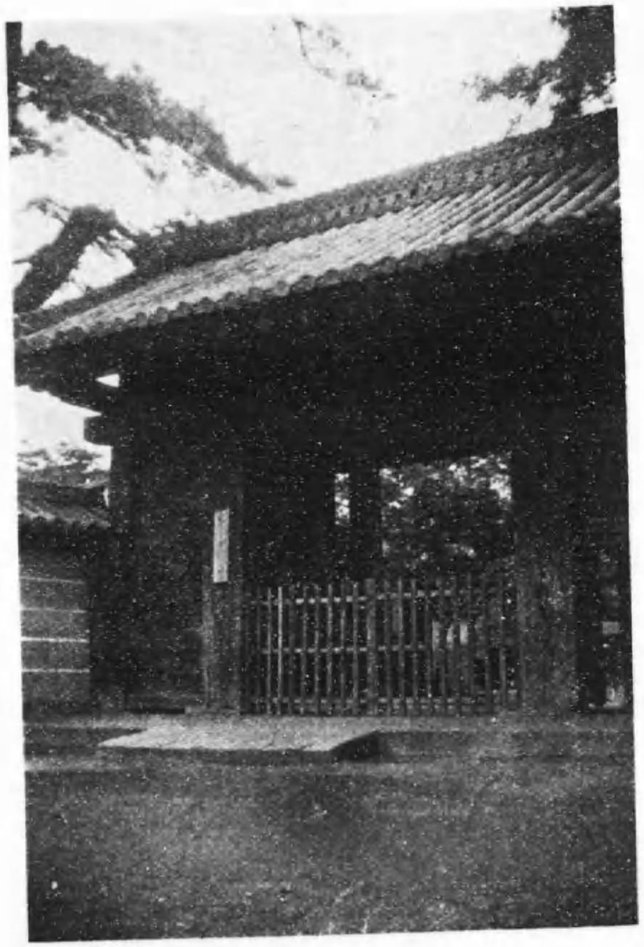
寺　眞言宗智山派、犬御堂。

由來　神龜三年行基の草創、弘仁九年弘法大師東國へ巡錫の砌り自作の尊像を安置した遺跡である。



黒犬

黒白の二犬像を安置してある。壽永二年無觀上人參籠修行の折、身心衰弱今や息絶えんとした折、何處からか黒白の二犬來り草葉の露を上人の口にそゝぎ忽ち蘇生されたと傳へてゐる。



◎高岳院山門（かうがくゐん）

（東區高岳町一）
市電・市バス、高岳院下車東入

寺　淨土宗鎭西派、京都知恩院末、持名山

由來　初め甲斐の新府にあつて教安寺といつたが慶長十二年平岩親吉が家康の命により家康第六子仙千代の菩提の爲、清洲城外に移し後仙千代の生母相應院の希望によつて現地に移した。

山門　一間一戸の薬醫門、切妻造り、本瓦葺、清洲城より移したと傳へられ墓股に簡單な繰形模様が入つて居り類の少い面白いもので大正九年四月十五日國寶に指定された。

◎妙行寺（めうぎやうじ）

（中村區中村町）
市電、中村公園前下車東北五丁、市バス大正橋行清正公前下車スグ

寺　日蓮宗本國寺末、正悦山

由來　もと眞言、永仁二年三月開山日像上人の時、時宗に改宗天文年中、日勢上人今の寺山號に改めた。慶長十五年、清正家康の命により當國築城の時、其餘材を以つて誕生地なる現地に移轉した。

◎大　龍　寺

（千種區田代町）
市電・覺王山前下
車日蓮寺東四丁

寺　黃檗宗山城宇治萬福寺末。福壽山

由來　享保十年喝傳衍燈、春日井郡阿原村の地藏堂を東區新出來町二丁目に移し、同十三年八月綱誠より寺地を賜はり堂宇を建立した。泰心院宣揚院瀋主宗睦生母（英巖院　等より物を寄附せられた。大正七年五月現地に移轉した。

◎羅　漢　堂

（大龍寺境內）

安永六年本堂の建立を始め同八年四月落成同九年二月羅漢像三百軀を慶した。聖聰院（源白嚴中）の參詣があり、本尊及び住持へそれ〳〵寄附した。安政六年十一月二十六日五百羅漢像を入佛さした。後文久四年三月、大廢の羅漢堂を再建、元治元年十月羅漢像を修飾今日に至つてゐる。

◎淨心觀音

（西區淨心町）

市電、淨心停留所東一丁

由來　寛政年中淨心寺といつた舊寺の廢地に一堂を建立、石刻の正觀音像が安置してある。

◎性高院（しやうかうゐん）

（中區門前町）

市電・大須下車北二丁東半丁入ル、市バス・本町通り明王前下車東半丁入ル

寺　淨土宗鎭西派、京都知恩院末、大雄山正覺寺

由來　もと武藏國忍庄持田村にあつた、正覺院を天正十七年松平忠吉が其の母寶台院の爲に一宇を建立し慶長八年淸須に移し次で同十五年現地に移した。山門は大正九年四月十五日國寶に指定され、鐘樓亦優れてゐる。境内に松平君山、天野信景（のぶかげ）の墓がある。因みに本寺は昭和十五年二月より千種區園山町へ移轉する爲其の工事に着手されてゐる。

◎性高院山門（性高院内）

本山門は慶長十五年清須からこゝへ移したと傳へられ、古書に記されてゐる。四脚門で屋根は切妻造本瓦葺で、桃山時代の建築にかゝり特に蛙股の彫刻意匠など立派なものである。大正九年四月十五日、國寶に指定された。同門は本寺移轉の爲（前掲九一頁）昭和十五年三月より取りこぼちに着手されてゐる。

◎八事半僧坊

（昭和區廣路町）
市電・市バス、八事行
半僧坊前下車

寺　臨濟宗方廣寺末、日東山新福寺

由來　明治十八年名古屋、大津町（今の千代田ビルの場所）に奥山半僧坊別院を設置し明治四十三年現在の地に移る。

◎東　輪　寺

（中區下茶屋町）

市バス・本町通り
下茶屋町下車西入

寺　黄檗宗宇治萬福寺末、護國山。

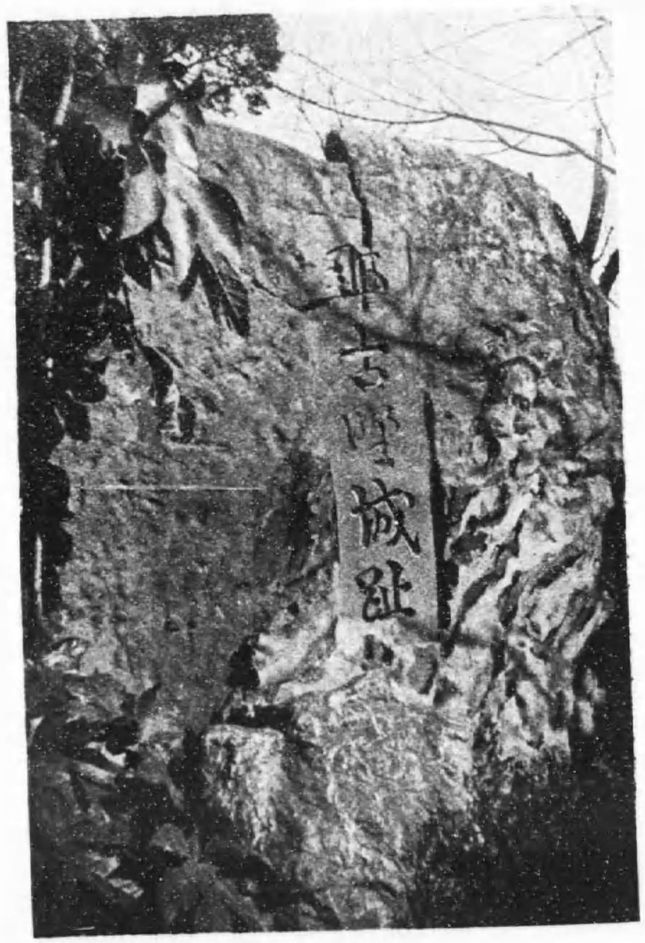
由來　寛文年中、孚山誠公、護國山、東輪廢寺を拜領し今の橘町に建立し、黄檗宗に轉派。延寶二年七月、天祐元信、開山同五年大休元燁住職し天和二年萬福寺の末寺とした。元祿二年曹洞宗に改派、時に、明僧千呆來り復興した。寺内には明人作の釋迦、文珠、普賢の像が安置してある。

◎勝鬘寺の鼓樓

（中區矢場町
勝鬘寺内）

市電・市バス、
矢場町下車北半
丁西側

勝鬘寺は、大谷派本願寺の末寺、もと清須に在つた。天正中、三河岡崎市針崎町、勝鬘寺の住職了意が建立したものである。境内に鼓樓がある。明治維新までは太鼓をもつて時を知らせたもので今も樓上には太鼓が備へてある。



古城趾 古戰場

◎那古野城趾（なごや）

（中部第二部隊將校集會所庭內）

市電・市バス、名古屋城前下車北へ四丁入

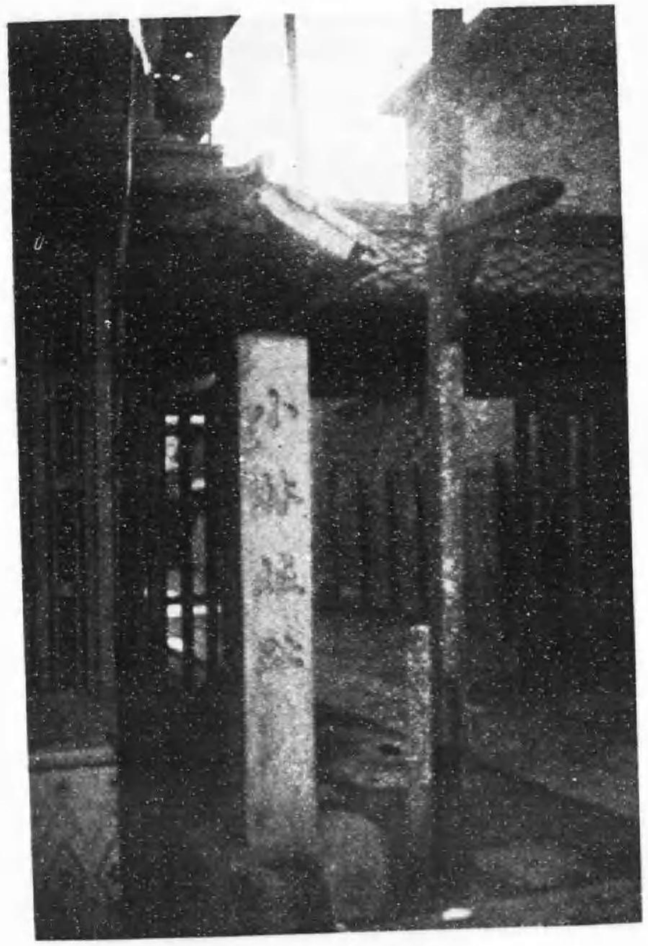
大永の初年頃今川氏親、城を築き末子左馬助氏豐を居らしめたが尾張の海東郡勝幡（しょばた）城主織田信秀之を陷れ此城に居を構へ天文三年子信長の誕生と共に信秀は古渡城に移り那古野城は信長にゆづり、約二十年間居城、弘治三年正月以降廢城となつた。

◎古渡（ふるわたり）城趾

（中區下茶屋町東別院內）

市電・市バス、東別院前下車西側

天文三年、織田信秀那古野城を信長に譲り古渡に城を築き之に居た。（今の東別院內）信長十三才の時、本城にて元服、三郎信長と改稱した。天文年中清洲の坂井大膳、織田彦五郎を奉じて古渡城に迫つた。信秀は早速歸陣し平手政秀兩者の間に立つて媾和した。後、信秀は當城を破壞して末森城を築いた。

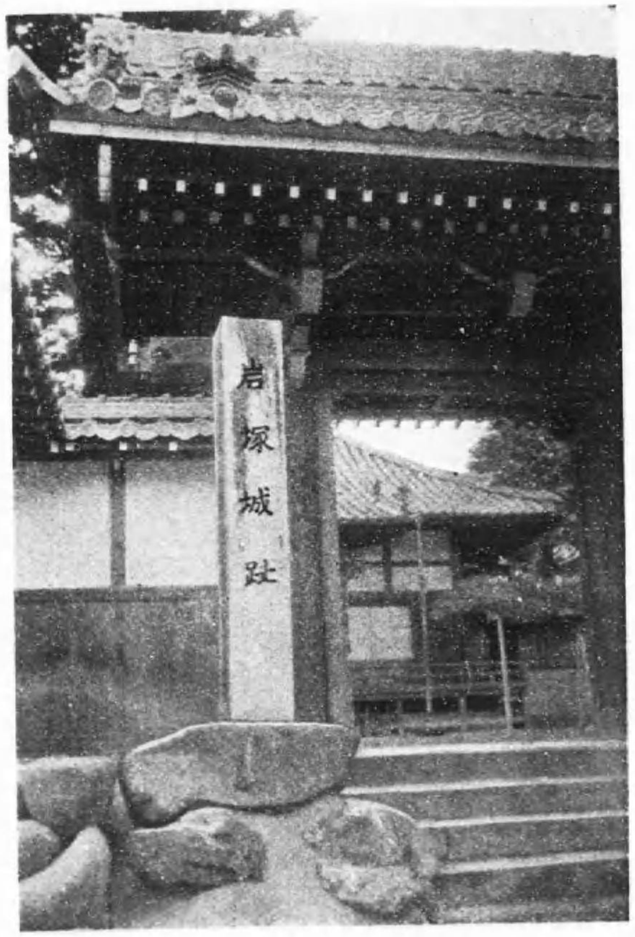


◎小林城趾

（中區矢場町）
（清淨寺内）

市電・市バス、矢場町下車南一丁東側、三輪町下車北半丁東側

天文の頃尾張の守護斯波氏の一族、牧下野守長義の子與三左衞門尉長清此處に住し前津小林村四千石餘を領してゐた。かくて織田信長の妹を娶り、緣者の親しみ厚く、稱して小林殿といつた。長清參禪し、又念佛を行とした。今清淨寺内に長清の墓がある。



◎岩塚城趾

（中川區岩塚町）
（遍慶寺内）

市バス、岩塚下車南へ入ル

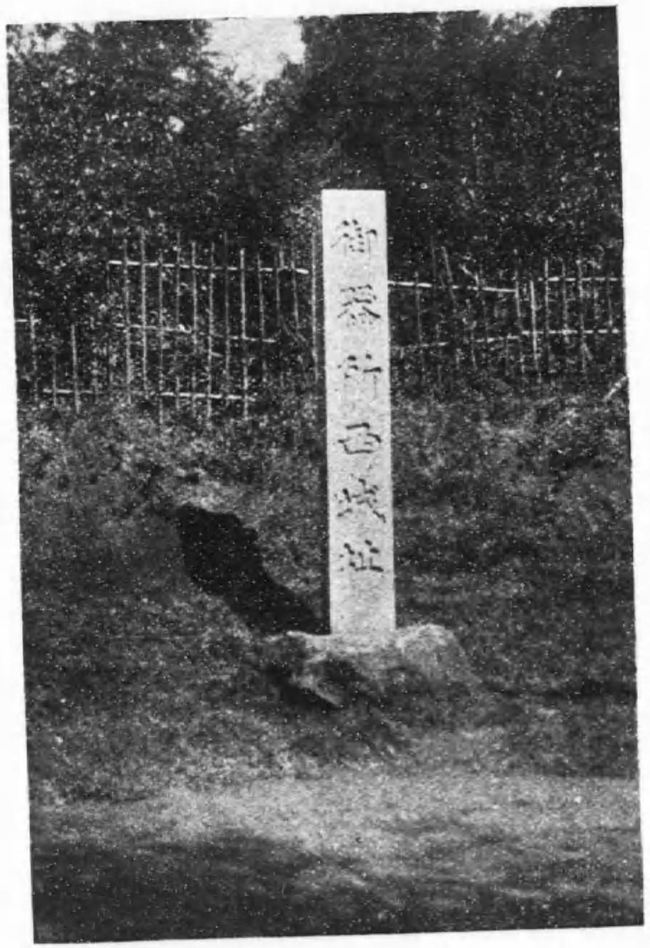
斯波氏の一族、吉田内記の遠祖、吉田重尺（治郎左衞門）、以後此處に居城。後斯波氏が義へ守氏に至り、世を長子元氏に讓つて蟄居した。元氏は信長に仕へ永祿十一年九月勢州大河城にて戰死した。それ以後は、廢城となつた。

◎稲葉地城趾
（中村區稲葉地町村社神明社内）
市バス、稲葉地下車北二丁。

織田信長の伯父、津田豊後守（十萬石）之に居り其子、玄蕃允（げんばのじょう）、孫與三郎相継いで居城。次いで小藤次之を継いだが天正十年六月二日京都本能寺に戰死した。其子彌市郎尚幼く母と共に當城に居城したと傳へてゐる。

◎稲葉城趾空壕の跡
（村社神明社内）

本圖は城趾（村社神明社）に向つて左側の西部にある空壕の有様を撮つたものである。今は悉く畑と化し又水田となつてゐる。

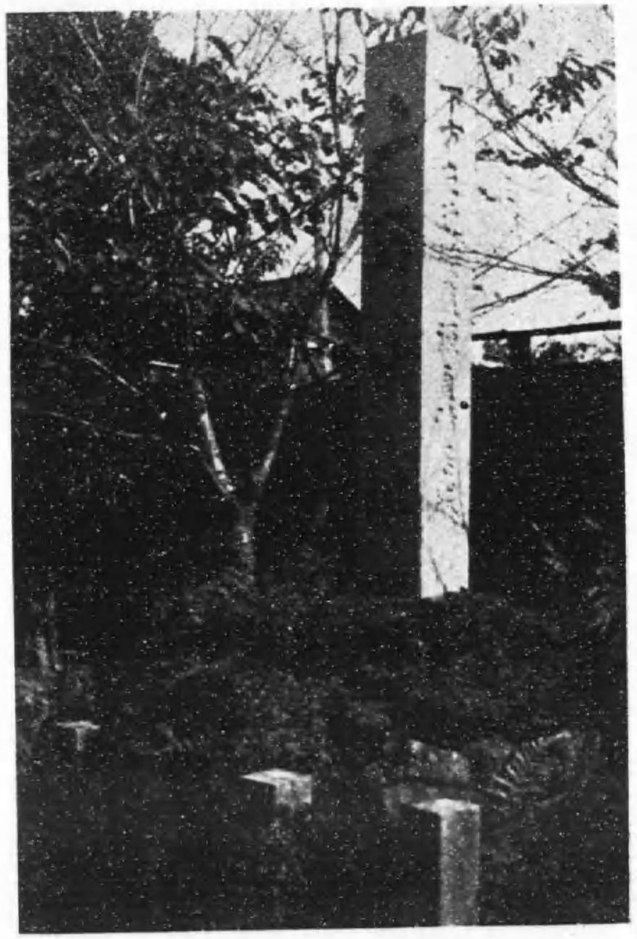


◎御器所西城趾

（昭和區御器所町尾陽神社内）

市電・都島下車東二丁、市バス（都道）出口下車西二丁

城主は佐久間美作守家勝、同民部丞助安等子孫居城した。家勝は嘉吉元年同村八幡社を修造し、助安は文安三年八月民部丞になつた尚家勝の先祖は三浦の一族で將軍頼朝の時安房の佐久間を領してゐたので之を姓とした。

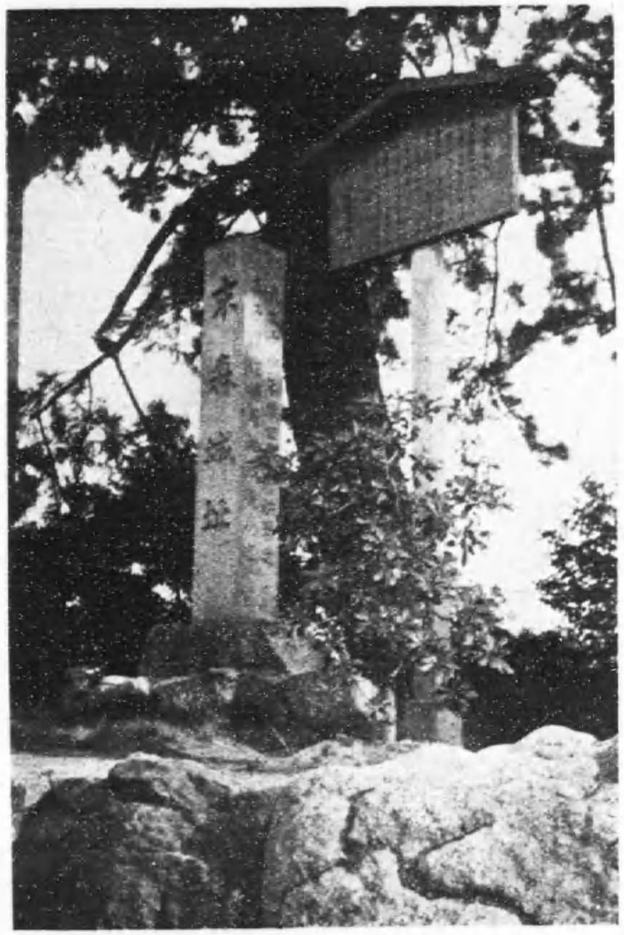


◎上野城趾

（千種區鍋屋上野町上野小學校庭内）

市バス・上野小學校前下車スグ

下方左近介貞清の居城で、今は上野小學校の敷地となり面影はない。附近の永弘院に、この下方左近の石碑が建てられてある。



◎末森城趾

（千種區田代町（昭和塾室隣）
市電、東山公園行、城山下車

天文十六年織田信秀此地に城を築き古渡城より移り住み翌年其の宰するに及び、三男信行繼いで居住したが叛意を抱き兄信長に代らうとしたが、永祿元年かへつて殺され其後廢城となつた。

石柱に

昭和二年一月
名古屋市

天文十六年織田信秀始築之、其子信行繼居此城後廢矣

◎戸部城趾

（南區呼續町（千鐵字城）
市バス、笠寺行、笠寺西門行其ニ戸部稻荷前下車

戸部新左衛門政直の居城。戸部氏は今川氏の麾下、政直能書才能があり常に信長をして義元に屬せしめようとし屢々書を義元に送つて、信長の起居を報じた。よつて信長は人をして政直の手跡を會得せしめ政直から信長に送る反逆の僞書を作り之を駿河に送つた。義元は信じて政直を召した。戸部は先方に達せない三州吉田まで至つた時斬られた。時に弘治三年丁巳五月朝日であつた。

◎荒子」城趾

（中川區荒子町大字大和ヶ池）

市電、下一色行、荒子下車、東南二丁

始め前田藏人利昌が此處に築き子、利・久其弟利・家、其の子利・長も相繼いで居城した。

天正三年利家は越前北の庄に移り、同九年利長も越前府中に移つたので遂に廢城となつた。現在は一帶宅地並に水陸田となつて昔の面影はない。同村富士權現社内に〝前田利家卿誕生之遺趾〟なる碑がある。

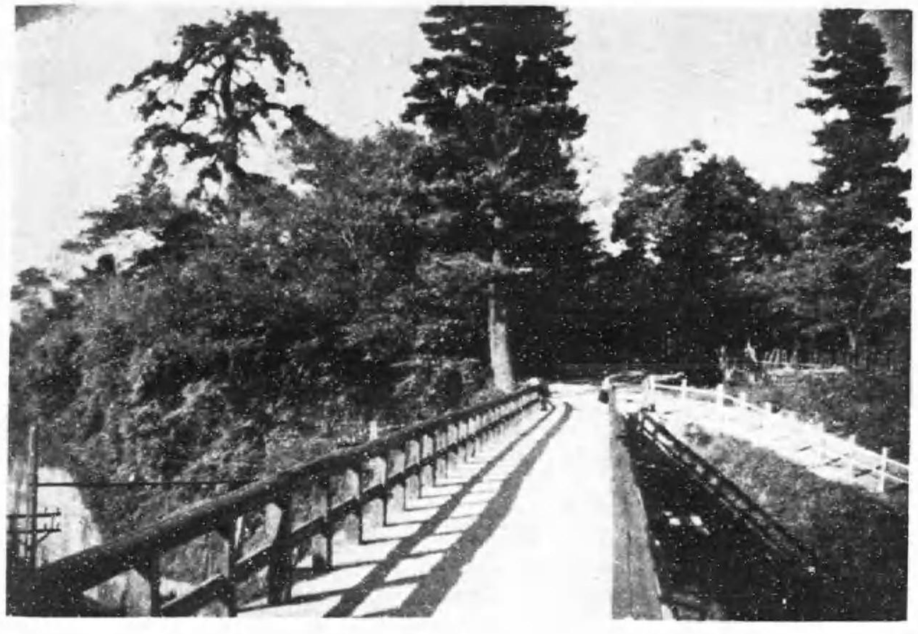
◎星崎城趾

（南區笠寺町笠寺小學校敷地内）

市バス、笠寺行、笠寺下車南西七丁

名鐵、東笠寺下車南東二丁

城主は岡田助右衞門直敎、其の子長門守直孝、其弟伊勢守善同、天正十二年甲申三月より山口半左衞門重勝、同十四年丙戌年より同半兵衞重政が居城した同十六戊子年織田信雄より、重政に勢州茂福一萬三千石を賜り移つた爾來廢城となる。



◎山崎城趾

（南區呼續町大字千竈字羽城）
市バス、笠寺行、又ハ呼續行、
笠寺西門行共ニ、呼續下車東一
丁餘北へ一丁入ル

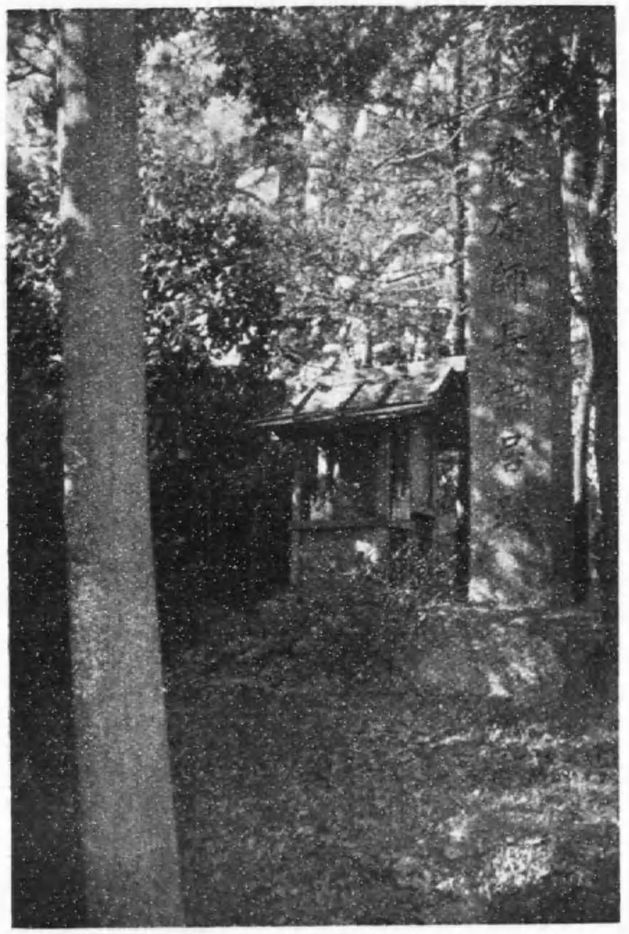
今は安泰寺境内及び耕地となつてゐる。

始め藏人淨盤なる者が居り、後佐久間信盛（右衛門尉）が之に住した。山門の左側低地に永田彌左衛門の居住趾又これより三百米を隔てゝ岡本重左衛門の居住趾があつたが現今では悉く耕地となつてしまつた。

◎稲生（いなふ）ヶ原古戰場

（西區庄内町庄内公園附近）
市電・淨心下車、市バス、乘替、
庄内公園前下車

弘治二年八月廿四日、早朝、稲生名塚一帶の地に於て織田信長（清洲城主）の弟信行（末森城主）が家督をとらんとして信長に叛いた。よつて信長はこの名塚村の於多（おた）井川（今の庄内川）をさしはさんで信行、並に柴田勝家、林通勝等の同盟軍と戰つたところである。結果信長の大勝に期した。



宅趾

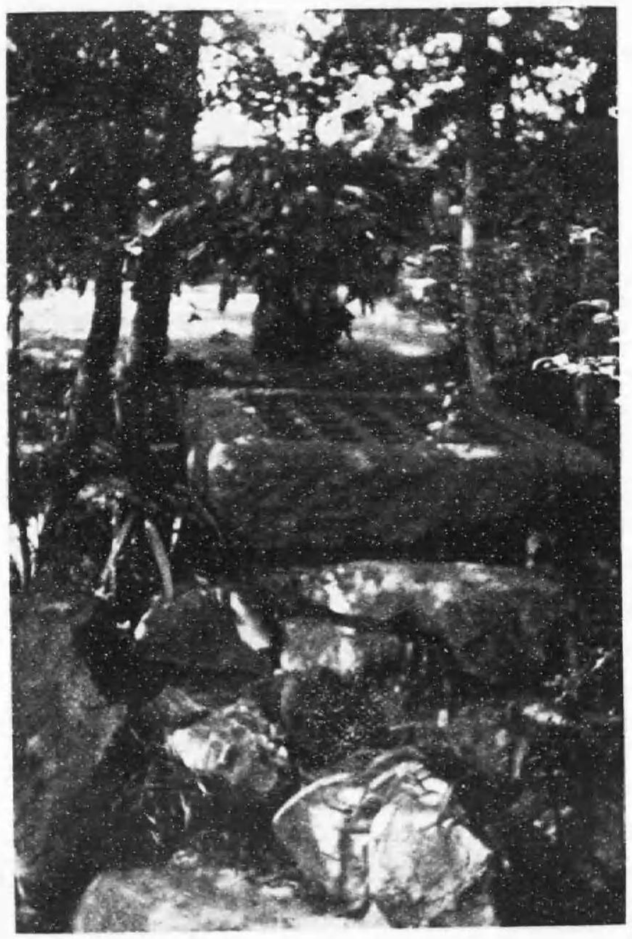
◎藤原師長公 謫居趾

（昭和區瑞穗町字南前田）
市バス、笠寺西門行、妙音通下車東二丁

師長公は左大臣藤原頼長の子で治承元年に太政大臣となつたが同三年、平清盛の爲にこの井戸田の地に流された。特に琵琶をよくし謫居中龍を受けた。里長、横江氏の女に對し形見として守本尊、藥師如來と熱田神宮前で祕曲を彈じたと言ふ白菊の琵琶を與へたと傳へられてゐる。古標柱に

此所妙音院藤原師長公之御配所御屋敷趾

（昭和區瑞穗町字南前田十八番地ニアリ）



◎源頼朝 産湯之井

（熱田區旗屋町誓願寺内）
市バス、本町通り白鳥下車北半丁市電、旗屋町下車南一丁

源頼朝は左馬守義朝の三男、母は熱田大宮司藤原季範の女で久安三年四月八日、母の生家なる季範の邸で生れたと傳へられてゐる。今其跡が誓願寺境内に殘り〝頼朝産湯の池及び井戸〟並に頼朝を祠るさゝやかな〝白旗神社〟がある。熱田大宮司藤原季範の宅趾も此の誓願寺境内である。

◎源氏白旗碑
（誓願寺内）

源頼朝の誕生地にこの碑を建て頼朝の靈を慰めて居る。

神皇正統錄に

久安三年四月八日、源頼朝誕生ス是左馬頭義朝之三男、母ハ熱田大宮司藤原季範之女也

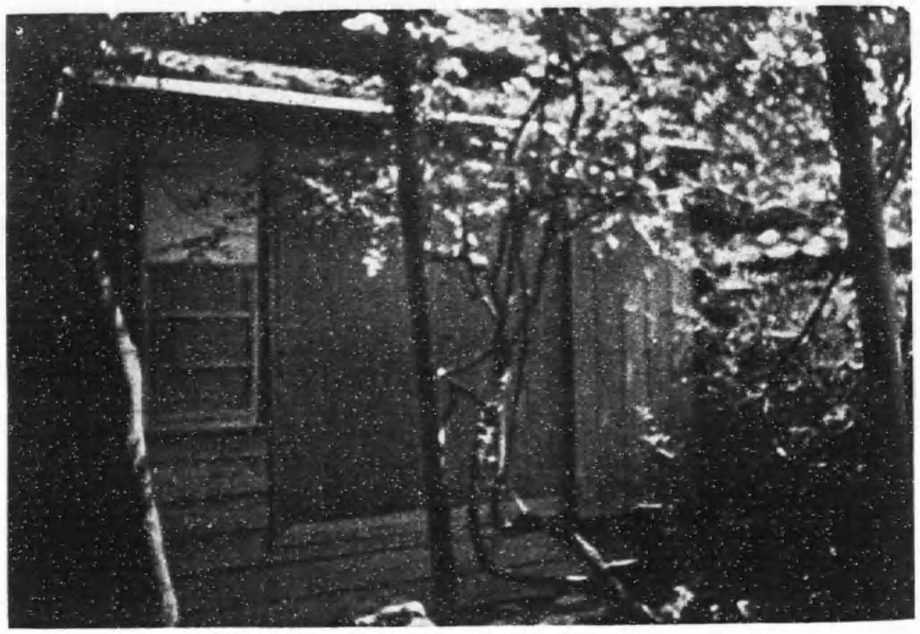
「碑篆額」に白旗高翔源家發祥（本文略）

従三位　徳川義禮題

明治三十六年五月

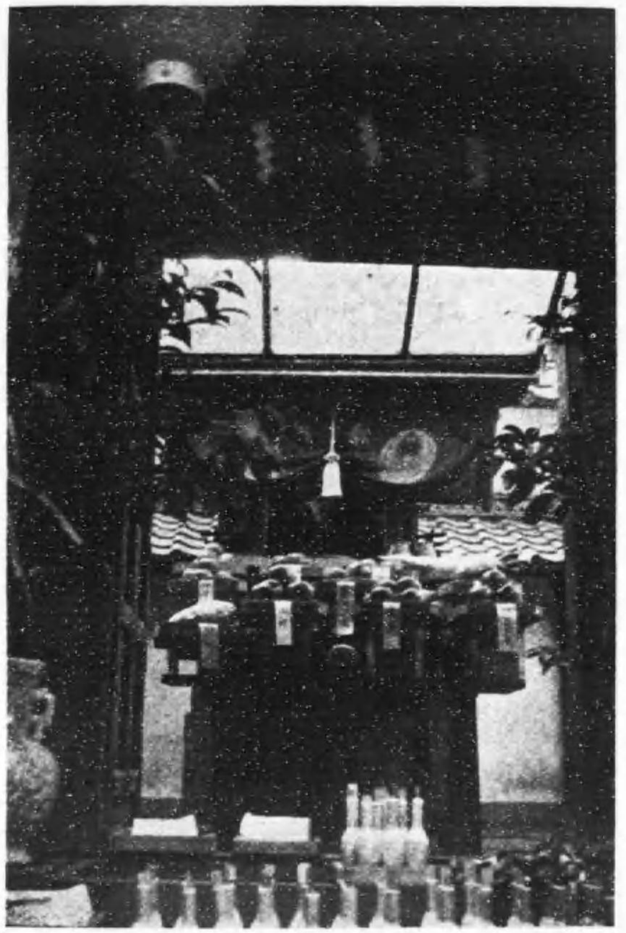
尾張　服部拱撰

大島德書



◎池殿屋敷跡　（誓願寺境内）

平治の亂の時、平清盛に頼朝の命乞ひをしたと傳へらるゝ〝池の禪尼〟が住んでゐたといはれてゐる。池の禪尼は平頼盛の母である。此の池の禪尼は大宮司季範の伯母で此の地に住居してゐたと傳へられてゐる。



◎景清屋敷跡

（景清社）
（熱田區神戸町）
市バス、須賀町下車

惡七兵衞景清も壇浦の戰に滅びて今は身を容るゝ地なく彼方此方に落ち延びて熱田大宮司と姻戚關係あるを賴み人目を忍び當地に來り大宮司の邸に潛居してゐたと傳へられてゐる其の邸は熱田神宮境内八劍宮の東北方百米の所、第二華表の附近で、今は屋敷の跡もなく其靈を祠る景清社があるのみである。俗に眼病に惱むものは此の社に參ゐれば全治すると傳へられてゐる。

◎御所屋敷跡

（昭和區御器所町東脇）
市バス、御器所警察署前下車西一丁餘龍興寺南方

豐臣秀吉の母大政所の住居せられた趾と傳へられてゐる。尾張名所圖會に

〃同村の人也。太閤の御母公天正二十年七月二十二日薨じ天瑞寺殿贈准三后從一位春岩桂公大禪定尼と謚號せり〃

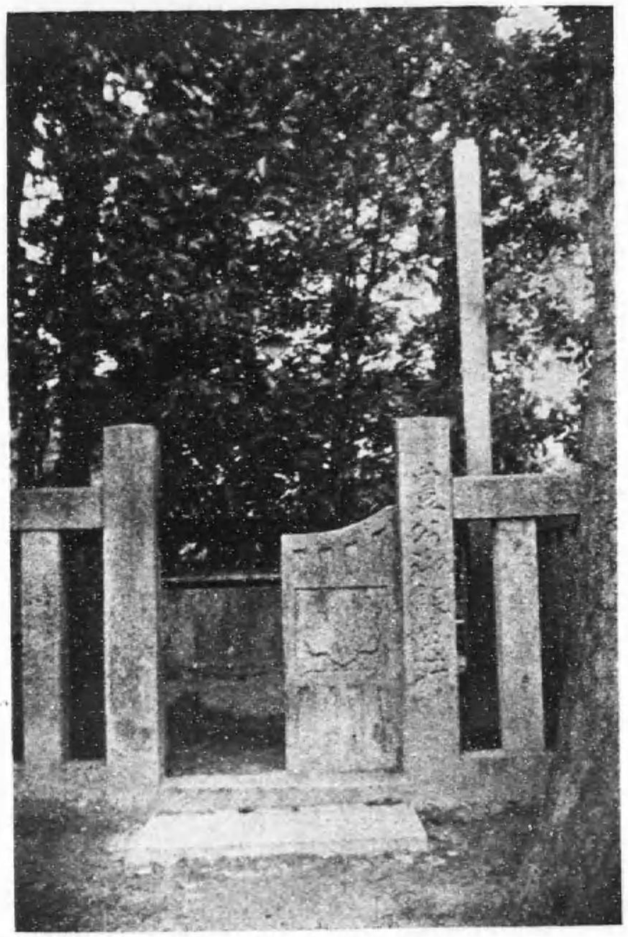
◎豊臣秀吉

誕生地趾

（中村區中村公園内）

市電、中村公園前下車北四丁

誕生地は〝太閤屋敷〟〝木下屋敷〟といつて中村公園内豊國神社の東側にある稍々圓形の一小丘で小溝を繞らせる筈である。明治十六年本村の有志が祠を建てんとした時、縣令國貞廉平が之に贊し自ら檢地し標柱を建て〝豊公誕生之地〟と指定した。



◎豊公

産湯之井戸

（中村區中村町常泉寺境内）

市電、中村公園前下車北へ五丁

常泉寺の西南隅にある。此の井「常に清泉」なる意によつて太閤山常泉寺と名づけたといふことである。秀吉、誕生した時この井戸より水を汲み産湯したと傳へられてゐる。豊公産湯の井としては竹籔の跡（誕生地）と稍々距離が遠き感があるが往古は部落毎に共同井を使つた土地の風習であるからこの井戸と籔との關係も自然と首肯される。

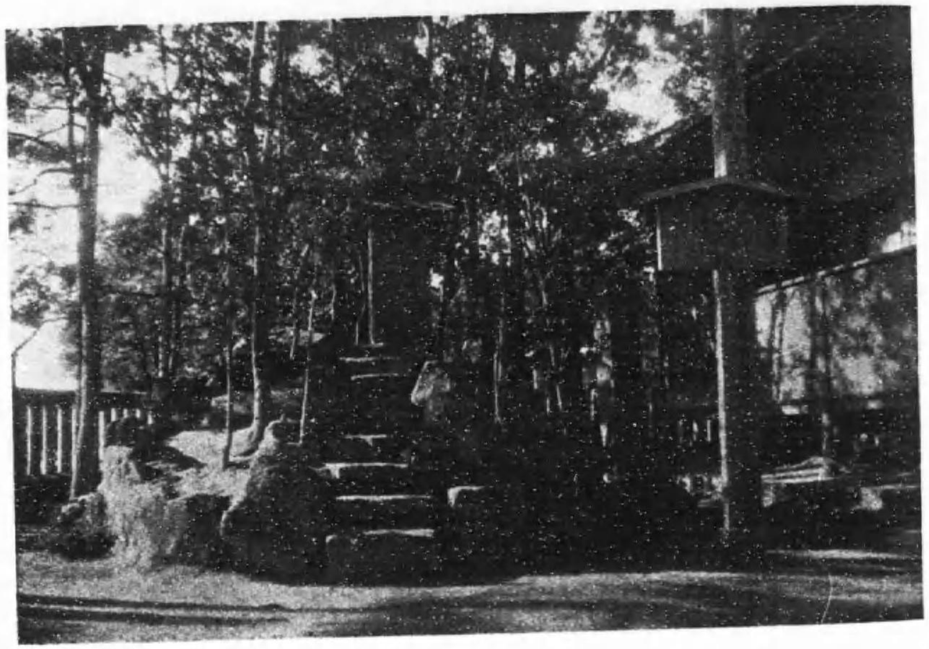
◎豊臣秀吉公之像

（中村區中村町常泉寺内）

市電中村公園前下車北五町

市バス、大正橋行清正公前下車

明治十八年八月中村公園内に豊國神社が創設さるゝや、秀吉の徳を永久に傳へん爲め常泉寺境内に銅像を建設した。



◎加藤清正宅趾

（中村區中村町妙行寺内）

市バス、清正公前下車

市電、中村公園前下車北四丁

加藤氏は姓は藤原で其先は、中納言忠家から出で、其二子正家始めて武家となり美濃に住して加藤武者といつた。正家十世の孫賴方が中村に來て住んだ。賴方の孫清信の遺孤、清忠の子が清正である。清正は母に育てられて當中村に居た。

◎加藤清正公之像

（中村區中村町　妙行寺内）

妙行寺境内山門を入つた所にある。清正は永祿五年にこゝで誕生した。よつてこの地に清正の像を建て永久にその德を傳へてゐる。妙行寺は清正が慶長十五年名古屋築城の際、祖先の菩提の爲に餘材及び普請小屋を以て自分の誕生地に移轉、再建したものである。

◎河村瑞軒宅趾

（西區菅原町一　教授寺内）

市バス、櫻通り桶屋町下車北側

瑞軒は土木の大家で資性敏捷才智があつた。江戸の大火に際し衆に先んじて木曾山に至り材木を買ひ占め巨利を博した事もある。尾張公に召され御川水、堀川等水利の便を圖つたと傳へられ天和年間此處に居たと稱せられてゐる。

◎平手政秀
宅　趾

（西區西志賀町志賀公園内）
市バス、志賀公園前下車

政秀は、西志賀の人、信長の傅（もり）となつたが信長は短氣で常規を逸したる行ひが多く屢々直諫したるも容れられず、終に其領邑志賀村に退き自殺した。時に天文二十二年閏正月十三日、年六十二であつた。

◎木下長嘯子
宅　趾

（西區中村町中村公園内）
市電、中村公園前下車北四丁

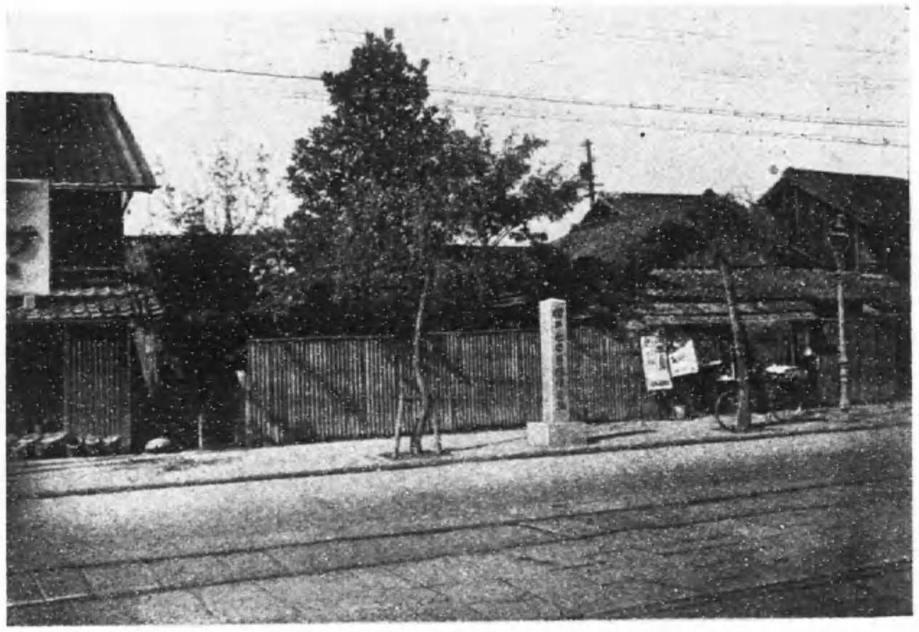
豐臣秀吉の室北政所の甥で字は大藏、名は勝俊といつた。即ち北政所の兄、木下家定の長子で幼より秀吉に仕へ後從五位下、若狹守に任ぜられ、羽柴の姓を賜ひ播州龍野の城主となつた。和歌並びに書をよくし晩年は山城大原野、北山に閑居し慶安二年八十一歲を以て卒した。

◎小出屋敷趾

（中村區中村公園内）

市電、中村公園前下車北四丁

妙行寺の西にある小出播磨守秀政の宅趾である。秀政は藤原鎌足三十五世の末裔藤原正重の嫡子。父正重、信濃國より此の村に移住こゝに生長し秀吉に仕へた。後に從五位下播磨守になり慶長九年三月二十二日卒した。

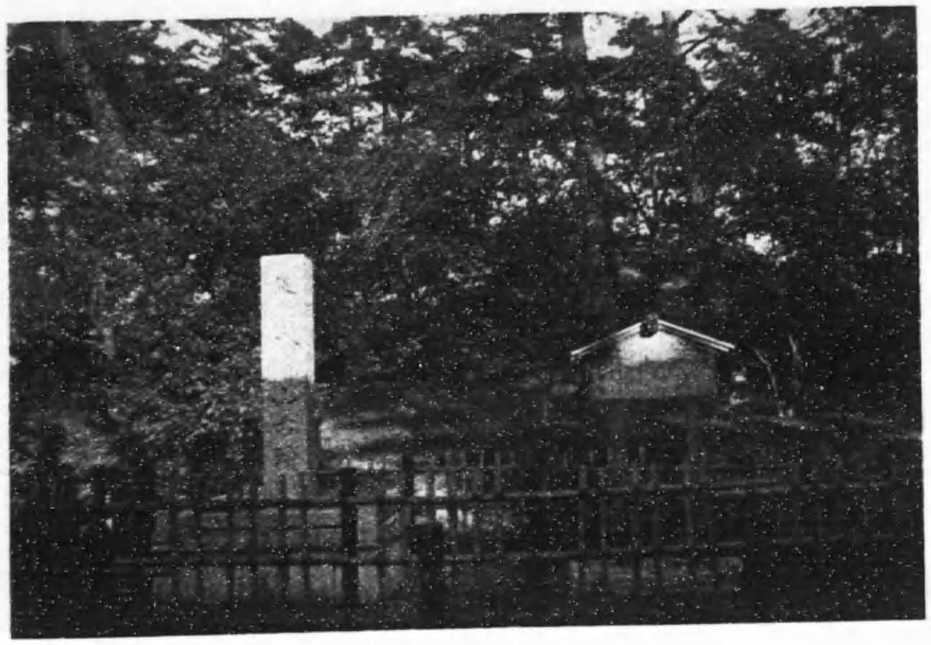


◎横井也有屋敷趾

（中區飴屋町）

市電、市バス、不二見町下車西側

元祿十五年九月四日名古屋に生れ二十六歳の時家督を相續し祿千五百石をいたゞいて普請組寄合となつた。五十三歳の時、政仕。其後は城南前津に居を構へ文墨に親しみ悠々自適風雅の道に遊ぶこと三十年、天明三年六月十六日、此の地に歿した。行年八十二歳。



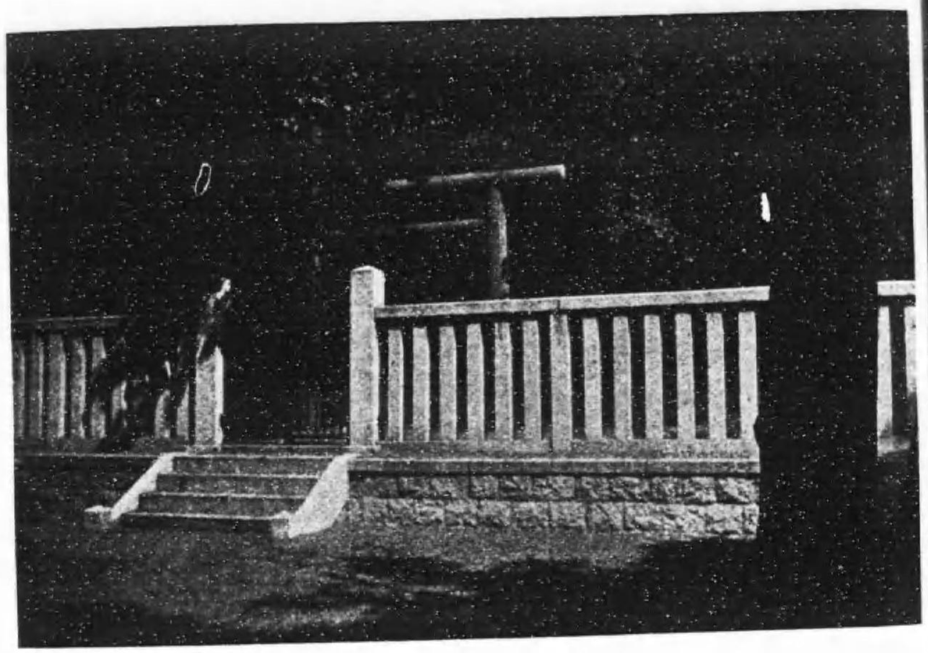
古　墳

◎八幡山古墳

（昭和區御器所町北丸屋）
市電、鶴舞公園下車東南四丁

鶴舞公園の東南にある圓形の古墳で周圍に空濠と土手を繞らした三段に築いた圓墳である。高さ九米、徑百二、三十米、規模の雄大なるより見て古墳時代最盛期のものと思はれる。

昭和六年五月十一日史蹟として指定された。



◎白鳥塚

（熱田區白鳥町）
市電・市バス、白鳥町
下車西へ三丁

熱田神宮の西方約三百米、白鳥町にある。丘陵の西へ傾斜せる上に西面して築かれ前方後圓墳で濠の跡を存してゐる。本古墳は日本武尊の御陵と謂はれてゐるが史上では認めてゐない。現在は熱田神宮の管理となつてゐる。

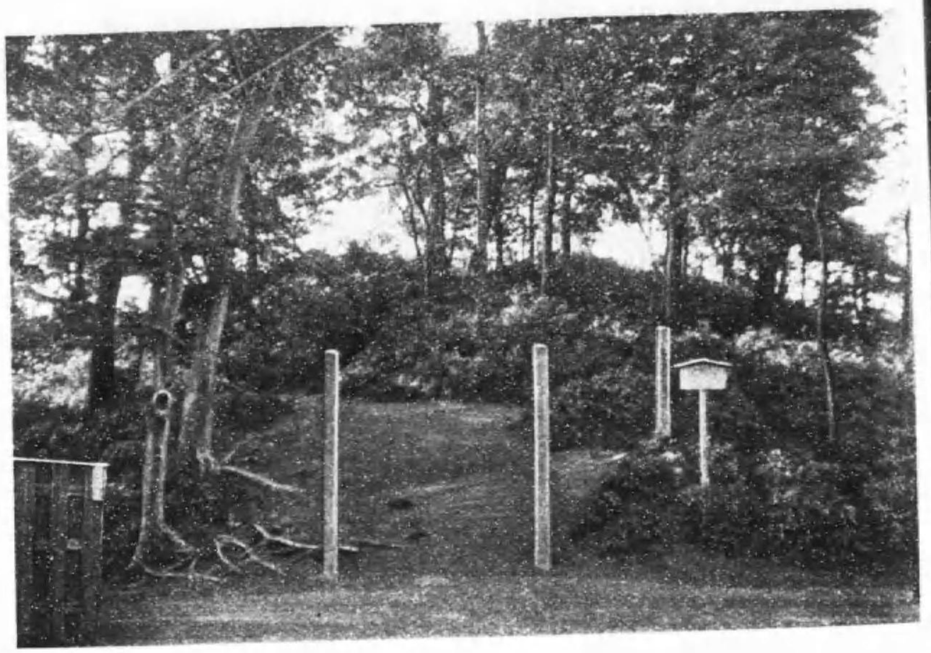
◎白鳥塚碑

（熱田區白鳥町）
（白鳥御陵前）

明治三十六年四月熱田神宮宮司等碑を建設した。

碑文に尾張國あつたなる白鳥のみさゝきにまうでてしき島のやまとこひしみ白とりのかけりいましゝあとところこれ

（本居宣長）

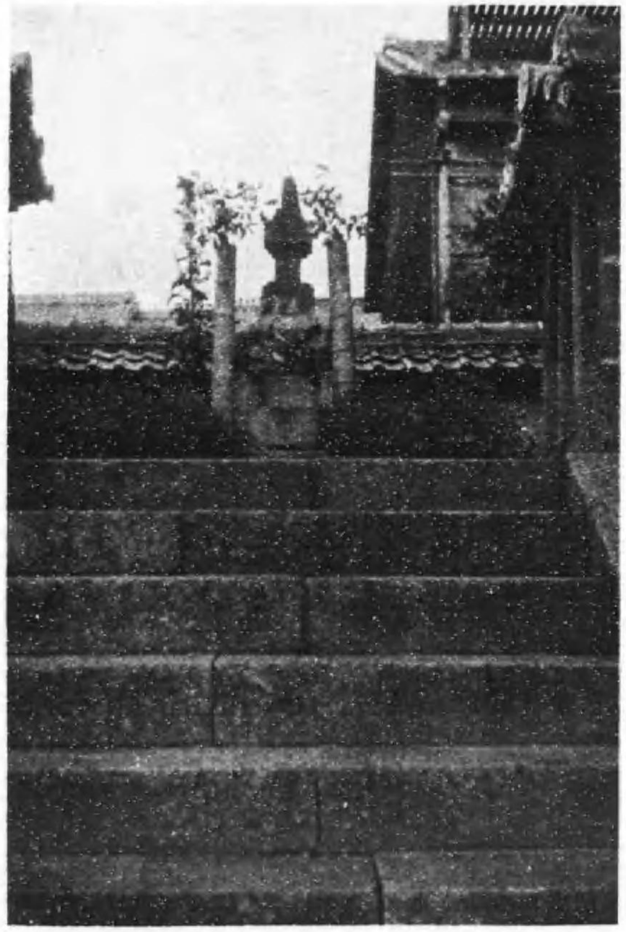


◎斷夫山古墳

（熱田區熱田西町根山）
市バス、二ノ鳥居下車西入ル

本墳は前方後圓墳で前後の長さ百三十米、前方の幅百十米、高さ十四米五もある一大古墳で恐らく東海一であらう。前方部と後圓部との境右側に半圓形の〝造出し〟があつて、圓筒埴輪も發堀されてゐる。宮簀媛命の御墓と傳へられ明治九年熱田神宮所屬地と定められ現に〝宮簀媛命之墓〟と標柱が建てられてゐる。

墓所



◎織田信長墓所
（中區裏門前町總見寺内）
市電・市バス、本町通り大須下車北一丁、萬松寺通東入半丁北側

天正の頃織田信雄其の父信長（總見院殿）の菩提の爲に清須に建立した。慶長十六年現在の地に移つた。六月二日の命日には法要を營み寺寶を一般に觀覽さしてゐる。信長畫像、木像並びに信雄の書像等がある。

◎平手政秀墓所
（中區矢場町政秀寺内）
市電・市バス、矢場町下車西へ一丁南、半丁入ル

織田信長が忠臣平手政秀の死を歎き僧澤彦に命じて春日井郡小木村に政秀寺を建立して其の死を弔つた。其後清洲に移り、慶長十五年清洲から今の地に移つた。命日舊正月十三日及八月十三日には政秀の法要が營まれる。

墓碑三基の中、中央に政秀寺殿功蓋宗忠大居士
平手中務大輔清秀天文二十二年癸丑
閏正月十三於當國志賀村自切腹

◎長屋六左衛門

墓所　（東區針屋町　乘西寺内）

市電・市バス、榮町下車西一丁　針屋通り一丁入

名古屋藩士、弓術の大家、名は重忠、幼名半三郎致仕後、無入と號した。寛永十年、年二十にして師傳を窮めた。二十二歳の時始めて京都蓮華王院に大矢數を試み遂に寛永十四年徹夜四千三百十三本を得て天下一となつた。是より年々之を行ひ終に天下右に出づる者なきに至つた。寛文二年藩主光友より賞せられ衣服を賜つた。貞享二年七十三歳で歿した。

墓碑に

瀧名釋寂證覺信居士　貞享二年乙丑十二月九日　長屋六左衛門重忠

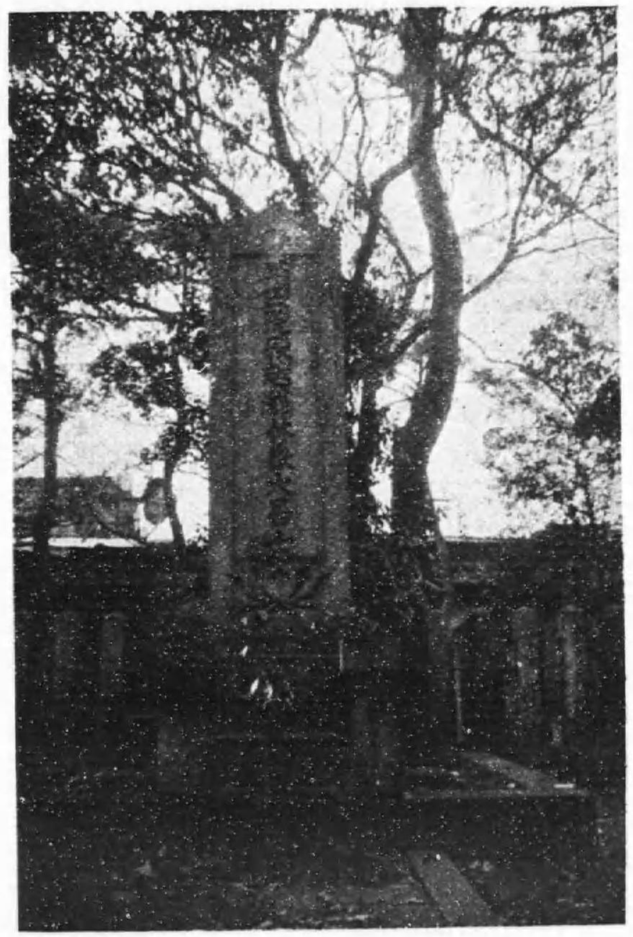
◎星野勘左衛門

墓所　（東區高岳町　高岳院内）

市電・市バス、高岳院下車東入ル

弓術の名手で三河幡豆郡横須賀村大字宮迫の人、長屋重忠に學び尾張藩主光友の時弓役となつた。寛文二年京都蓮華王院で射を試み徹矢六千六百六十六本に及んだ。後徹夜八千を得て終に弓術の總一となつた。元祿九年五月六日歿した。享年五十五歳。墓碑に

大忠院英譽射講淨林居士　元祿九丙子年五月六日　星野勘左衛門茂則　五十五歳



◎平岩親吉墓所（ひらいわちかよし）

（東區平田町平田院内）

市電、平田町下車東入ル

幼名は七之助、其先は弓削淨人より出で世々三河國の人である。親吉は天文十一年額田額坂崎邑に生れ徳川家康に仕へ家康と同年である。家康の爲には身命を捧げ盡した。家康の信任も厚く第九子義直の傅（もり）となつた。義直が尾張に封ぜらるゝや之に從つて犬山城に移り九萬三千石を食み、義直に代つて政務を見た。名古屋築城に關する功勞者である。慶長十六年十二月名古屋城にて卒した。年七十。墓碑に

平田院殿越翁休嶽大居士
慶長十六年辛亥十二月三十日卒
前平岩主計頭弓削朝臣親吉之墓

干乎居士二十七周忌共臣某等彫之追薦冥福
寛永十七年庚辰七月　日

◎天野信景（さだかげ）墓所

（中區門前町性高院内）

市電、大須下車北へ二丁東半丁入ル
市バス、本町通り明王前下車東半丁入ル

尾張藩士信幸の子で貞享元年家を繼ぎ寄合に列し後正德五年七月鐵砲頭となつたが職にあること九年、享保八年四月辭して寄合となり十五年二月退隱して髪をすり信阿彌陀佛といつた。博聞強記才文武を兼ね多數の書を著した。中でも〝鹽尻〟は特に有名である。向つて中央、饅頭笠のがその墓、左隣は其の夫人の墓である。墓碑に

信阿彌陀佛　迎接院寶蓮社願與一空
俗名天野治部藤原信景

因みに性高院移轉につき（八九頁參照）本墓石も八事共同墓地へ移るといふ事である。

○田宮如雲墓所

（中區日出町）
（德林寺內）

市バス、本町通り若宮下車西二町

文化五年十月二十三日、尾張藩士の大塚三右衛門の第二子に生れ田宮半兵衛の養嗣となつた。

文政十一年藩主齊溫の中奥小姓となり執政に至るまで五十年間に職を轉ずること廿一回、之を解かるゝこと六回幽閉の身となること三回、全く國事に奔走した勤王の士であつた。明治四年四月十九日六十四歲で歿した。

墓所は山門を入り左折してすぐ、亦小門を入り右側にある。

○陳元贇（ちんげんぴん）墓所

（東區筒井町建中寺內）

市電、平田町下車東へ三丁

明國虎林の人で我が元和七年單鳳翔に從つて來た。藩主義直は其名を聞き顧問として遠來（ゑんらい）六十石を與へた。日本語が巧で書をよくし陶器を燒き菓子の製法をも教へた。寬文十一年六月九日病歿（九十軒町にて現東區鍋屋町）享年八十五歲。

碑面に

大明國武林旣白山陳廣學元贇信士

寬文十一辛亥年六月初九日

◎松平君山墓所

（中區門前町性高院内）

市電、大須下車北二丁東へ半丁入ル
市バス、本町通り明王前下車東半丁入ル

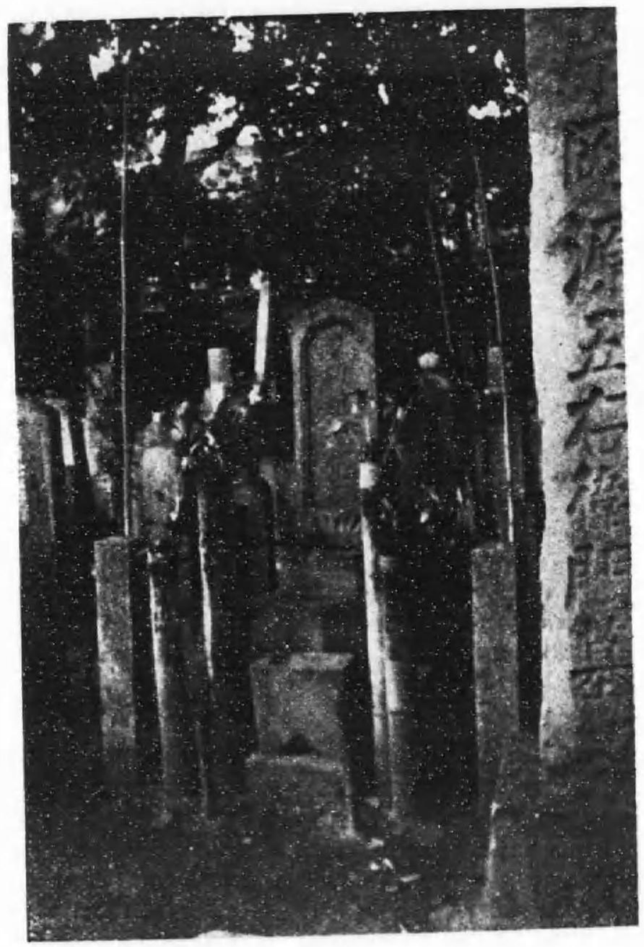
尾張藩士、元祿十年三月十九日生れた。堀杏庵の孫で寛保三年、年四十七にて書物奉行となつた。博聞强記、目一度通せば終生忘れない程であつた。寶曆二年〝張州府志〟を修撰した。教へを受ける者多く國中の名士は多くは其の門から出た。著書も頗る多い。天明三年四月十八日、年八十七で歿した。墓碑に

君山先生之墓

千村諸成撰（文略ス）

藤公熙書

因みに性高院移轉（八九頁參照）につき本墓石も八事共同墓地へ移るといふことである。



◎片岡源五右

衛門墓所

（中區東田町乾德寺内）

市電・市バス、東田町下車東一丁半

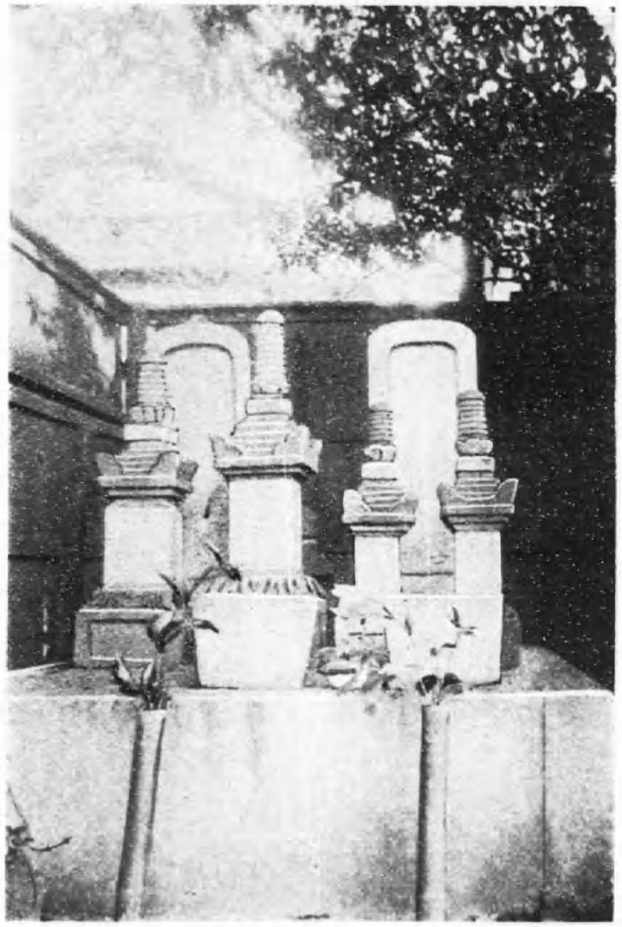
名は高房といひ熊井重次郎の長男に生れた（名古屋）叔父片岡六左衛門の養子となり赤穗藩主淺野長矩に仕へ近習から進んで三百五十石を食むに至つた。元祿十五年十二月十四日首尾よく主君の仇を報じた。翌十六年二月四日泉岳寺に於て切腹、時に年三十七歲であつた。同寺の墓碑に

刃助要劍信士

元祿十六年癸未二月四日

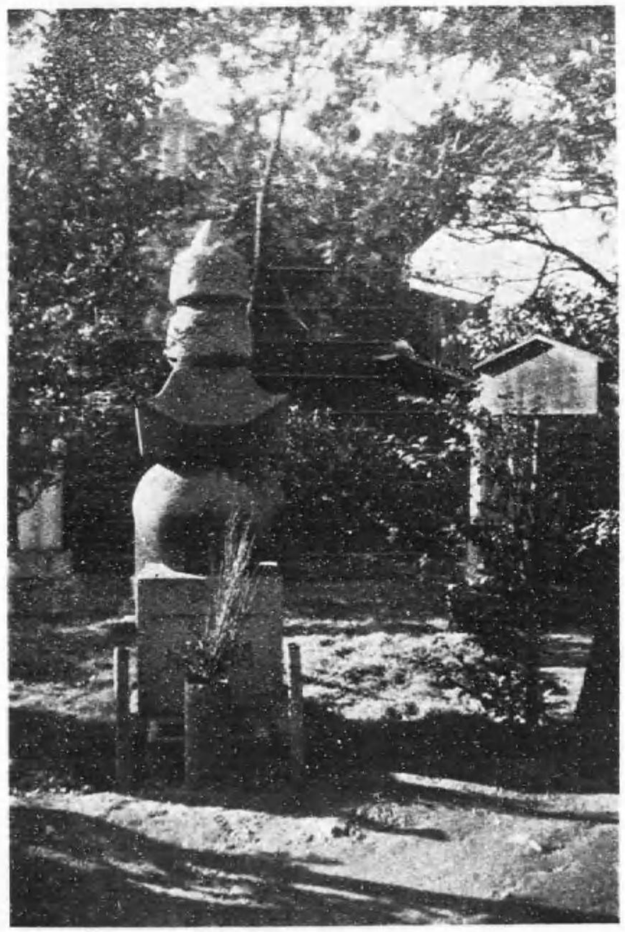
俗名片岡源右衛門高房年三十七

同墓所は、源五右衛門の遺髮を葬つたと傳へられてゐる。



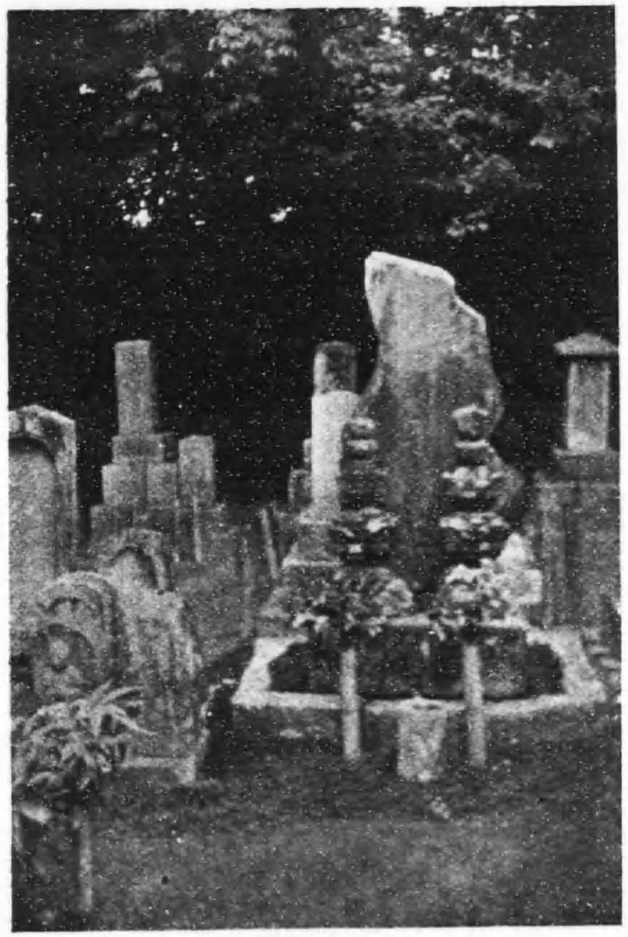
◎牧長清墓所
（中區矢場町 淸淨寺內）
市電・市バス、矢場町下車北半丁東側、三輪町下車南一丁東側

天文の頃、當國の守護斯波氏の一族牧下野守長義の子與三左衞門尉長淸がこゝに小林城を築いて前津小林村四千石餘を領してゐた。長淸は織田信長の妹（おとく）を娶り緣者の親み厚く稱して小林殿といつた。墓碑に
長淸院殿梵阿彌陀佛　江東牧七左衞門末孫尾陽
牧彦右衞門勝輝
同姓丹治勝親
信德院殿善行慧長大姉　織田信長妹



◎織田信秀墓所
（中區裏門前町 萬松寺內）
市電、三輪町下車西一丁萬松寺通南入市バス、萬松寺通下車西一丁北入

織田信秀（當時古渡城主）大雲永瑞と謀つて堂宇の建立に志し天文九年に完成し大雲を以て開山とした。信秀の歿後此の寺に葬つた。



◎津田豐後守

墓　所

（中村區稻葉地町　凌雲寺內）

市バス、大正橋行終點下車

津田豐後守は、織田信長の伯父であつて稻葉地城主であつた。天文五年十月二十八日卒した。同村の凌雲寺に葬つた。法名凌雲寺殿前豐州大守泰翁公大居士といつた。墓碑に

當寺開基津田豐後守法名

凌雲寺殿前豐州大守泰翁公大居士

天文未十月歿

天文五年十二月二十八日

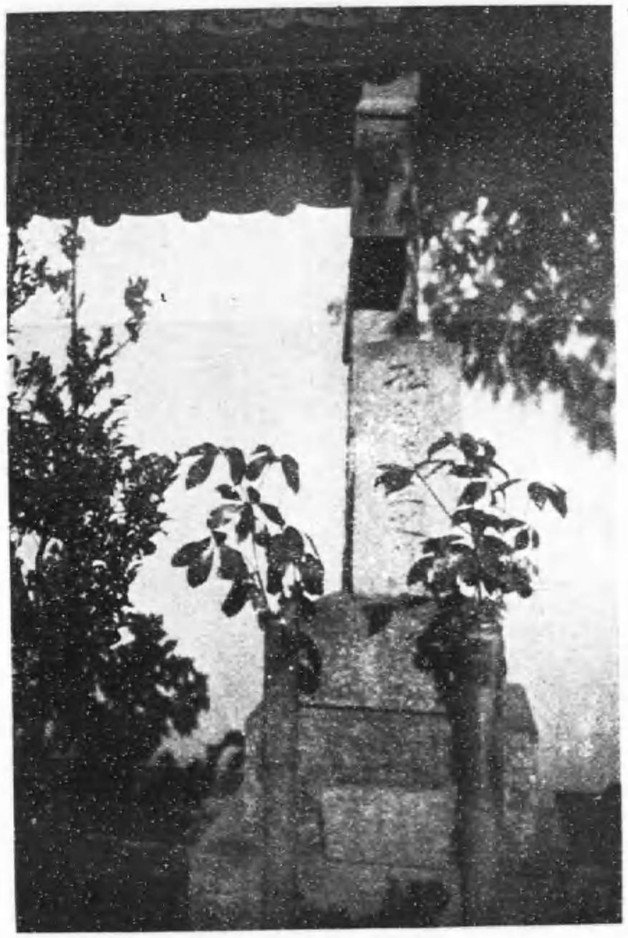
津田玄蕃建之

◎下方左近之碑

（千種區鍋屋上野　永弘院內）

市バス、上野小學校前下車南一丁半

春日井郡上野村に住した。三河小豆坂合戰の際十六歲で奮戰した槍の名人。小豆坂の七本槍の一人である。太閤記に〝永祿のはじめ、下方左近將監六度、柴田修理亮五度、岡田助右衞門尉四度とかぞへいひしは皆最初槍の事なり〟とある。

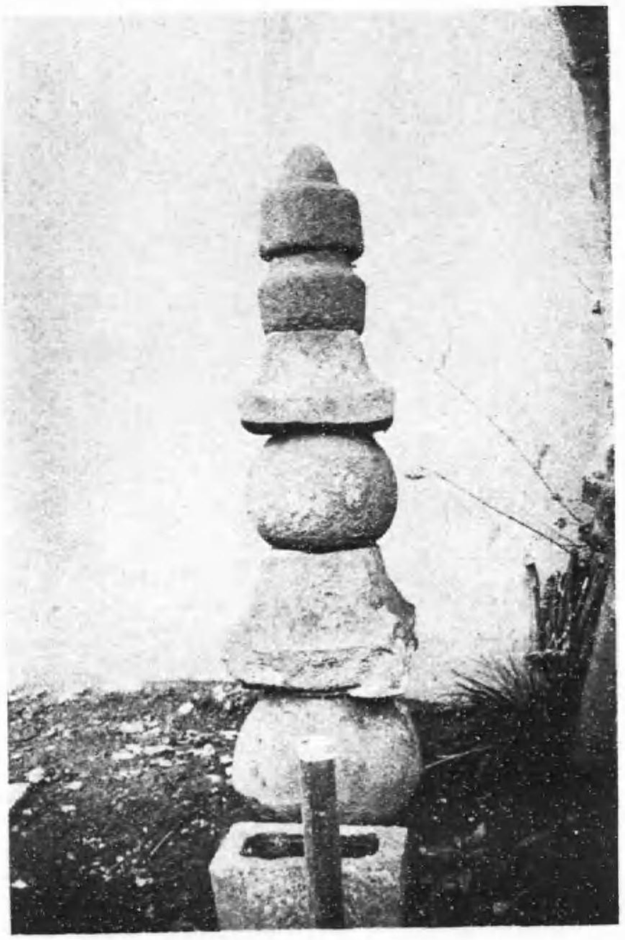


◎井上士朗墓所
（中區新榮町四）
（照運寺内）

市電・市バス、東新町下車東二丁北側

名は正春、士朗は其の字、通稱を專庵と號した。父は名古屋新町の町醫井上安清である。安清に子がなかつたので、書生としてつかつてゐた士朗を嗣子とした。寛保二年、東春日井郡守山町に生れた。俳諧を學び、傍ら本居宣長について國學を修め又畫、手曲を學び、共に妙境に入つた。文化九年五月七十一歳を以て名古屋の自宅に歿した。碑に

松翁先生之墓
文化九年壬申
五月十六日
年七十一



◎傳紫式部墓所
（中區鐵砲町）
（傳光院内）

市電・市バス、廣小路本町下車本町通南一丁東へ入り住吉町ニ出ル途中

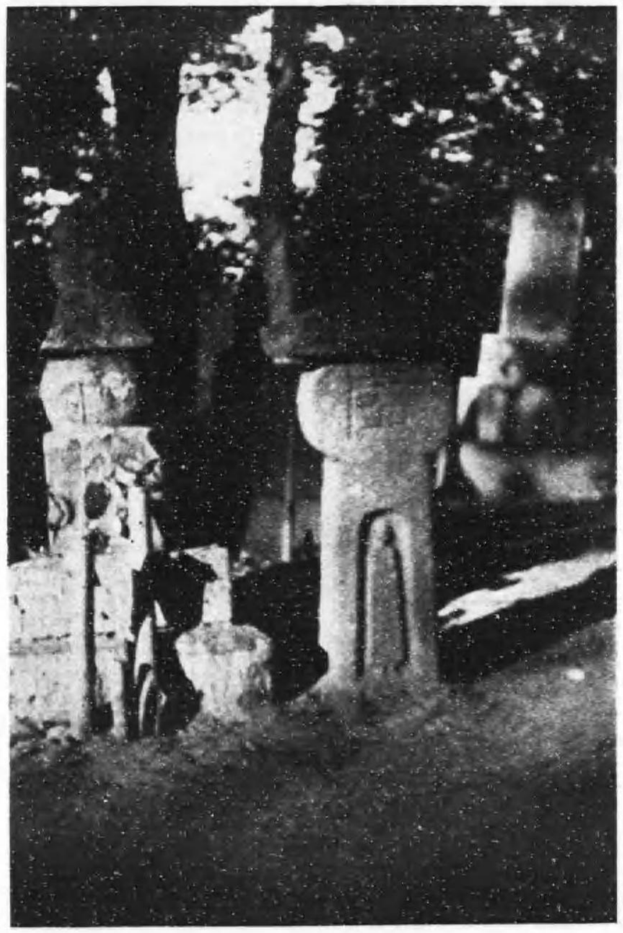
傳光院境内に五輪の石塔がある。紫式部の墓であるといひ傳へてゐる。其の許をもと溝川が流れてゐたといふ。式部の源氏物語を愛讀し光源氏に想を寄せて病床につき終に狂人となり村崎川（紫川）に身を投げた娘があつたといふ悲劇的傳説により其の靈を慰めんとて墓を設けたのではあるまいかといはれてゐる。

◎張振甫墓所

（千種區振甫町）

市電、覺王山行池下下車谷口行市バス乘換、振甫ブール下車裏山

張振甫は壽山といひ、明國の人食醫を以て明主に仕へた。元和年中我が國に歸化、京都に住し、江戸に赴く途中熱田を過ぎた。滯祖義直は侍醫としようとしたけれ共受けなかつた。よつて巾下堀留に地を與へて居らしめた。二代光友も彼を愛し襲封の後地を上野山中に與へた。延寶八年二月二日歿した。遺骸は此の上野山に葬つた。よつて現今の町名もこれより起つたといふ。法諡大明國張子道延壽山振甫。



◎潛伏切支丹の墓

（南區笠寺町笠寺觀音墓地）

市バス、笠寺西門行終點下車

此の碑は、笠覆寺本堂の東北、小高い所にあつて墓地の中央より稍々東に寄つたところに、南向に立つてゐる。高さ三尺二寸、火袋はない潛伏切支丹の墓であるとして種々論議されてゐるもの。

裏面に

元祿八乙亥十二月

築

とある。

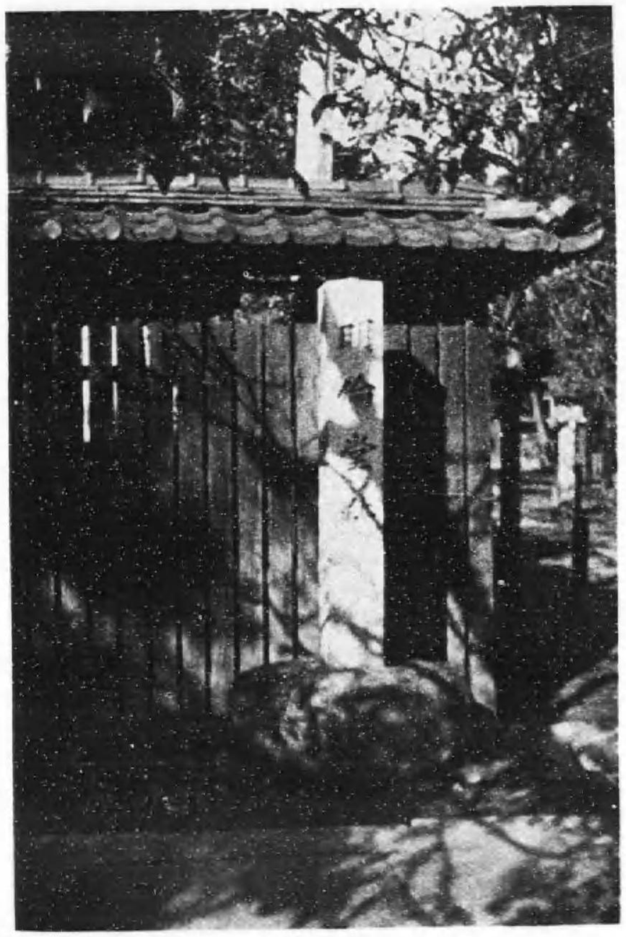
◎切支丹塚

（中區東橋町　榮國寺内）

市電、東別院前下車西二丁
市バス、本町通リ七面前下車北半丁東へ入ル

此の寺の境内はもと千本松原といふ刑場であつた。寛文年中切支丹宗徒二百餘人を處刑した處で墓地にこの碑が建てられた。碑面に

慶安二巳丑年五月廿五日
南無阿彌陀佛三界萬靈等
施主　町岡新兵衛



學堂趾

◎明倫堂趾

（西區茶屋町　那古野神社内）

市電・市バス、名古屋城前下車西スグ

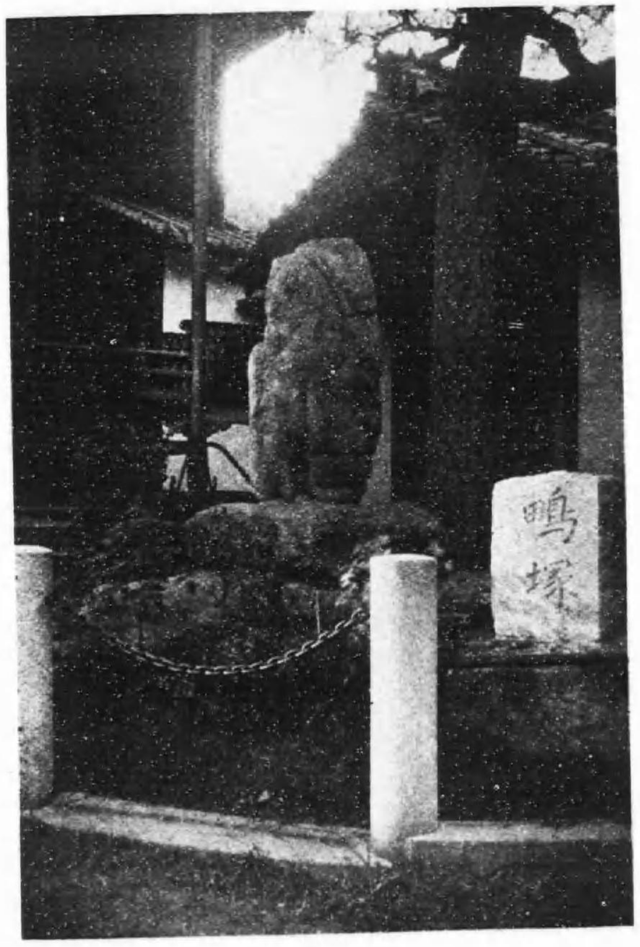
尾張藩祖義直は名古屋城内に聖廟を建て寛延二年宗勝明倫堂の額を掲げた。天明三年九代宗睦の時現今の東照宮の所に明倫堂を再興し同年十二月細井平洲を總裁に任命した。慶勝の時（文久三年）田宮如雲總裁となり、元治元年堂内に學寮を設け四民の入學を許した。明治四年七月遂に廢止するに至つた。

◎三日月塚
（東區大曾根町 了義院内）
市電・市バス、八幡前下車片山八幡神社裏

五條坊木兒が芭蕉翁の五十回忌に建てたもので、句は元祿の頃翁が名古屋に遊杖の時詠じたものである。

◎有とあるたとへにも似ずみかの月

木兒、氏は伊藤、通稱は御糸屋彦六府下京町に住み御目見町人であつた。俳諧をよくし寛保三年木兒芭蕉の句碑を成就院（了義院）境内に建てた。寶暦十三年六月十七日、七十五歳で歿した。中區門前町極樂寺に葬つた。



◎鳴塚（しぎづか）
（西區新道町 法藏寺内）
市電・市バス、江川驛下下車西一丁

一名刈跡塚といひ、白梵庵の門下金剛連の建立で句は逸筆坊の書であるといつてゐる。この句は芭蕉句集に、〝田中法藏寺に遊びて〟と題して載せられてゐる

刈跡や
　早稻かたかたの
　　鳴の聲

白梵庵は佛魔巢と號し通稱は榎本權平、犬山成瀨氏の家士、其妻幼兒共に木曾川に溺れて死んだ後遁世し名古屋北杉村に閑居して俳諧に精進寶暦十三年、六十三歳にて歿した。

◎鏡　塚
（中區矢場町　清淨寺内）

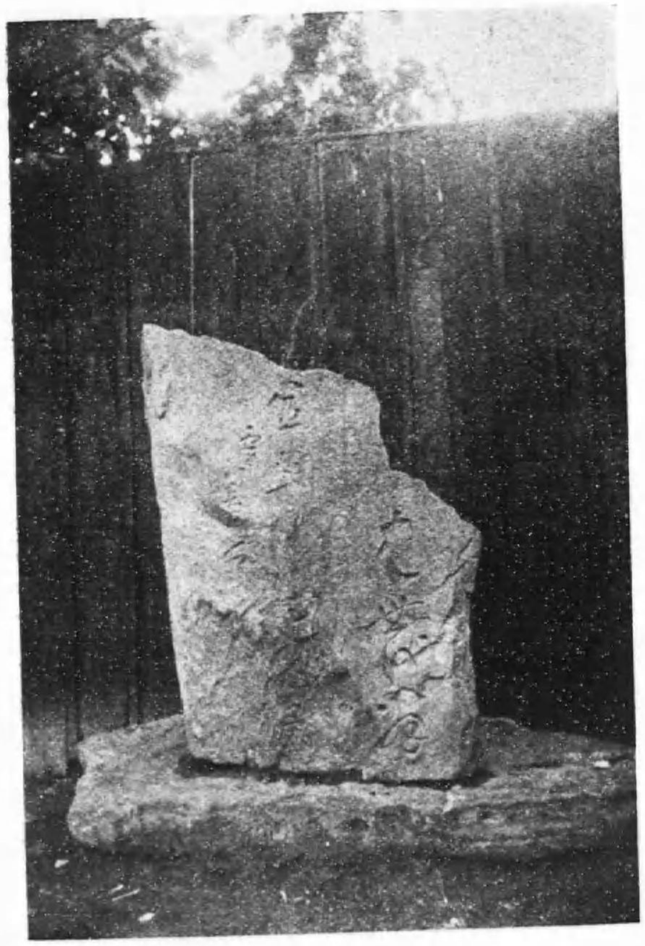
市電・市バス、矢場町下車南一丁東側
三輪町下車北半丁東側

安永二年、逸筆坊鷗沙の建立したものである。碑面に

芭蕉翁
　人も見ぬ
　　春やかざみの
　　うらの梅

安永二癸巳年
十月十二日

氏は伊村。長谷川以下十六の號があり十六林の稱があつた。俳諧を蓮阿坊白尼に學び、書をよくし平生佛を信じ風流閑雅の生活をし、寛政八年八月、年七十三にて歿した。大林寺に葬つた。



◎宵闇塚
（中區矢場町　清淨寺内）

清淨寺の山門を入つて二十間、右側の板塀の下にある。寛政十一年殘雪房の門人が建てたものである。碑面に

ばせう翁
　盆過ぎて
　　宵闇くらし
　　　むしの聲

寛政十一巳未歳
夷則反喬舍二世
殘雪房
門人　東吳
　　南稽　建
　　素迹

◎粟稗塚（あは　ひえ）

（東區杉村町西杉、解脫寺内）

市バス、黒川橋行八王寺下車西一丁

五青、尼光等によつて文政五年に建てられたものである。

粟稗に
貧しくもあらず
草の庵
はせを

背に　五青、尼光等也、六車
紫毯、龍且

文政五壬午
十月建之

此の句は貞享五戊辰七月二十日、竹葉軒長虹興行の芭蕉、越人、長虹、胡及、荷兮、鼠彈、一井を連衆とする歌仙の立句である。

◎時雨塚

（中村區大秋町三丁目　證城寺内）

市バス、大正橋行大門北口下車北二丁

尾張藩の書物方の手代、小澤さゝをの建立したものである。

けふばかり
人も年よれ
初しぐれ
芭蕉翁

天保乙未冬。さゝを、一藻壇、立碣。

小澤さゝを、名は鎭盈、通稱勘兵衞、九石二人扶持で尾張藩の書物方手代。天保十三年藩主齊莊さゝをの句を献句せしめた。御文庫御書物便覽を著はした。弘化四年正月九日年七十にして歿した。中區矢場町法光寺に葬つた。

◎時　雨　塚

（熱田區新尾頭町）
（妙安寺内）

市バス、瓶屋橋通
り下車

碑面に

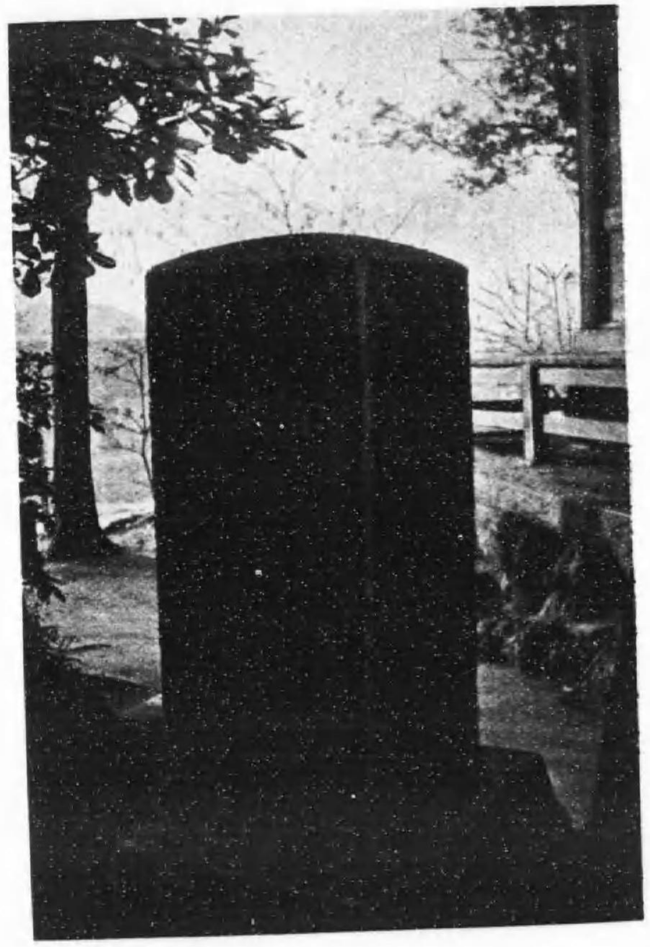
此うみに
　草鞋すてん
　　笠しぐれ
　　芭蕉翁

天明丙午夏五月

名古屋　鳥雀庵、布嶺創意

門人遠江國某等建之

布嶺は浦野、名は重暉、通稱は甚左衞門尾張藩士内藤作左衞門の弟で享保五年九月生、年十五の時藩主宗春に謁して仕官の話があつたが辭し澤露川に從つて俳諧を學んだ。天明六年十月二十三日、年六十七にて歿した。



◎鴨　塚

（妙安寺内）

妙安寺の境内にある。熱田連中の建立したものと思はれる

海くれて
　鴨の聲
　　ほのかに白し

熱田連中建之

碑面が著るしく磨滅して殆んど文字が讀みとれない〝小田塚集〟にこの句が記載されてゐる。本句集は貞享元年の作であるからこの時代に建立したものか。

◎萩　塚

（中區古渡町）
（傳昌寺内）

市バス、本町通り專賣局前下車西へ入ル

明治三十七年、醉夢等有志の建立したものである。

ぬれて行く
人もをかしや
雨の萩
芭蕉

醉夢、士職、可讓、窪東、紫泉、きよし、晴里、東圃、湖鶴　惠喜三
化主　其逸併敬書
禪苑感萩建石、時明治三十七甲秋日
傳昌現住泰禪老師代

此の年の秋共角堂永機がこの寺に滯在したことがある、住持泰禪は雅人を集めて蕉翁追慕のため建たものと思はれる。

◎春雨塚

（南區笠寺町笠寺觀音内）

市バス、笠寺西門行、終點下車

碑面に
此御寺の緣起人のかたるを聞侍りて
芭蕉翁

笠寺やもらぬ岩屋も春の雨　桃青

旅寢を起す花の鐘撞　知足

笠寺や夕日こぼるゝ晴しぐれ　素堂

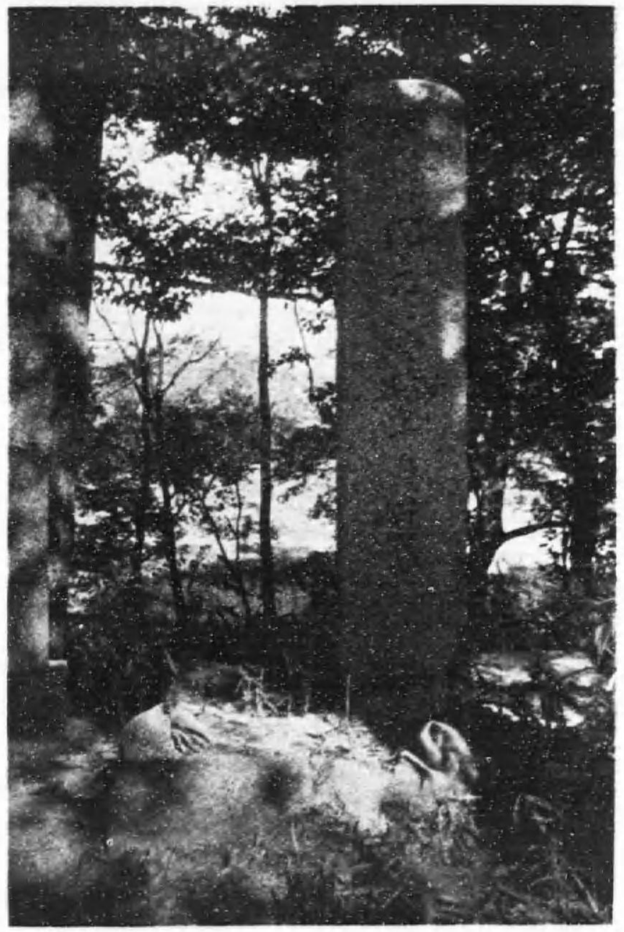
大悲の木の葉鰭となる池　蝶羽

背面
錢叟

かさ寺や浮世の雨を峰の月　龜世

安永二癸巳十月　知足末孫

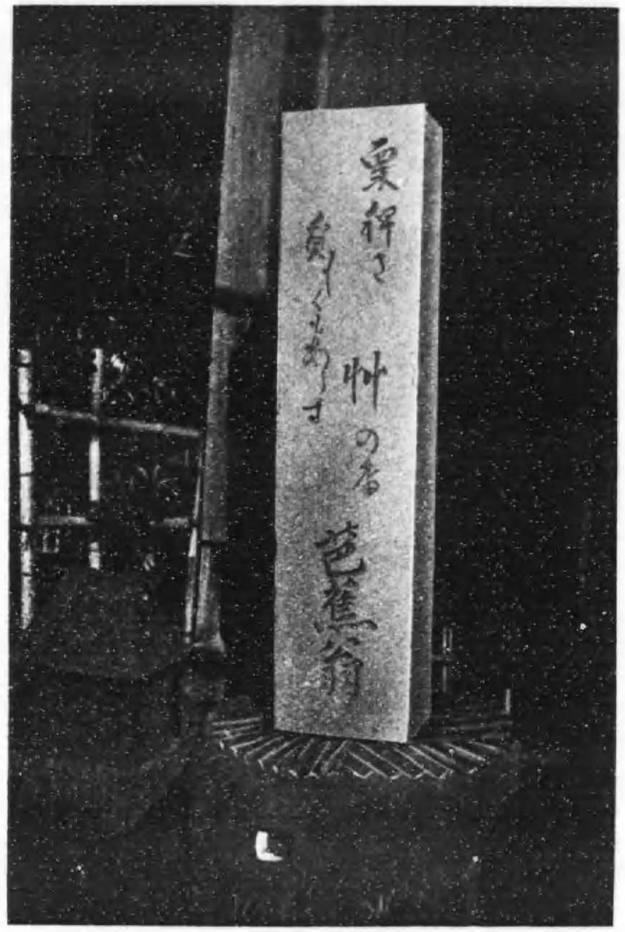
春麗園蝶羅謹建
執筆東都野菊庵
秋色



◎千　鳥　塚
（笠寺観音内）

碑面に
　星崎の
　　闇を見よとや　　啼千鳥
　　芭蕉翁
　享保己酉冬
　丹羽以之悲建

丹羽以之は通稱淺野屋治右衞門後に醫となり、丹羽以之と稱した。名古屋の人、俳諧を東花坊支考に學んだ。享保十四年に芭蕉の遊蹟を傳へんと本寺境内に石碣を建てゝ其句を刻し名づけて千鳥塚といつた。寶曆九年七月十三日歿した。



◎粟　稗　塚
（中區下茶屋町東輪寺内）
市バス、本町通り下茶屋町下車西入ル

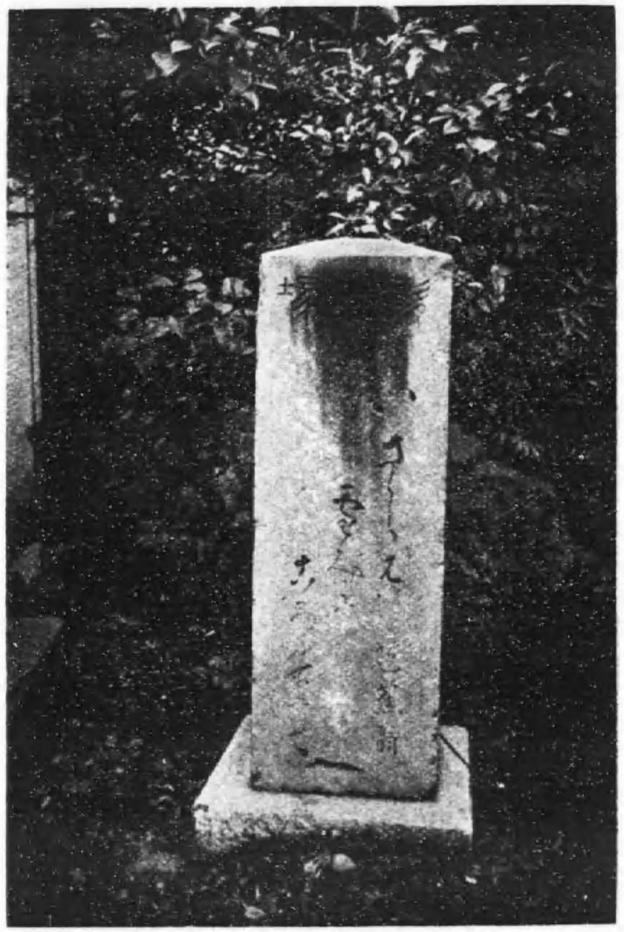
碑面に
　粟稗に
　　貧しくもあらず
　　草の庵
　　芭蕉翁
　天明五乙巳年夏
　五月下旬阿仙魯
　　建之

此の句は貞享五戊辰七月二十日竹葉軒長虹興行の芭蕉、越人長虹、胡及、荷兮、鼠彈一井を連衆とする歌仙の立句である塚は元門内南側の芭蕉堂にあつたものを現在堂と共に北側の奥まつた所に移した芭蕉像を刻し寛政八年に開眼式を行つた。

◎蛙　塚
（中區門前町七ツ寺裏庭）
市電・市バス、大須下車北入ル

碑に　芭蕉翁
古池や蛙飛びこむ
水の音
天明六丙午風左
門人建之

風左は寺村左庵、名は策楓、風左はその俳號である。支考に學び俳諧をよくしたこの句碑のことは默我の〝續秋の昔〟に出てゐる。この句は芭蕉七部集の一、貞享二年の〝春の日〟に始めて見えるもので蕉風開眼の句として普く知られてゐる同三年の〝蛙合〟にも見えてゐる。



◎歌　僊　塚
（中區門前町大須寶生院内）
市電・市バス、大須下車北へ一丁西入ル

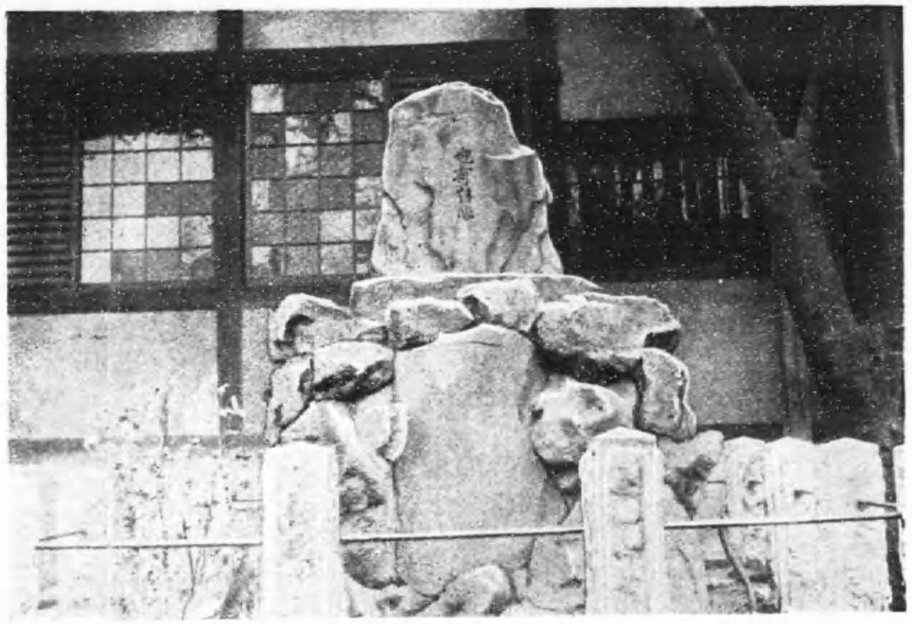
碑面に
歌僊塚　いささら
ば雪見にころぶ
所まで　芭蕉翁

背、兩側に、竹有、曾洛、而后、雨耕、除英、少女、五道、大蘇、大巢、黄山等の三十六句が刻んである。これは士朗門の俳人による建立で年號が記してない。この句としては貞享四年の作で〝笈小文〟には〝或る人の會〟と前書がある。

◎粟　稗　塚
（中區東田町四丁目寶林寺内）
市電・市バス新榮町下車東田通二丁東南へ北側

本堂の右側正面にある。傳に古渡にあつたのを此處に移したと言ふのみで、はつきりわからない。

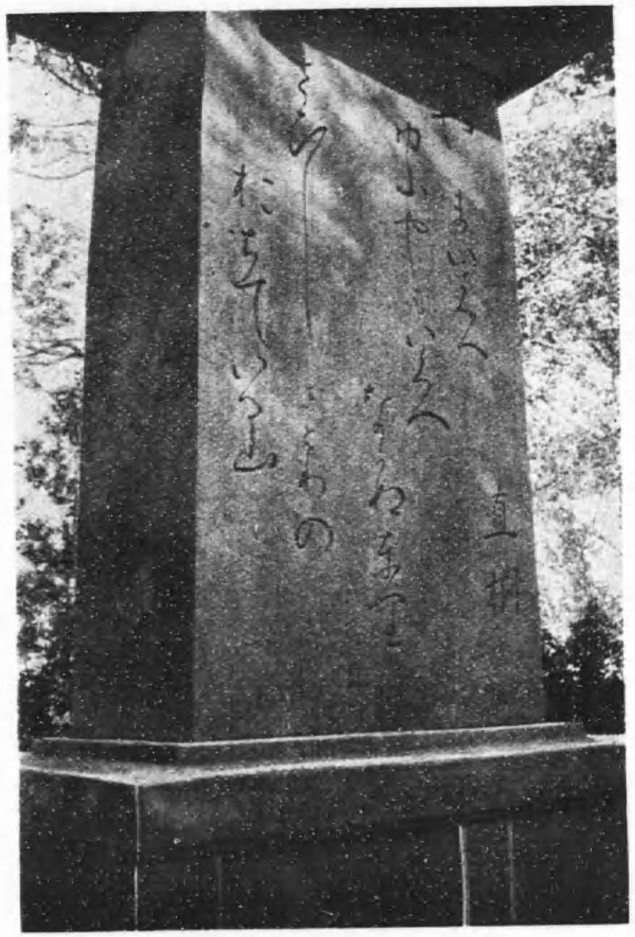
碑面に
粟稗に貧しくもあらず草の庵　ばせを翁
庭に世界を入類々月影　圓曉
作麼維摩の堂に下らず入來の衆入此片石に眼をつくべし。
文政三辰三月
七十五才
石面自書



◎蘿　塚（つか）
（中區梅川町長榮寺境内）
市電、東別院前下車西三丁北一丁入ル

横井也有門下文樵が明和六年に創する所の蘿塚を修し、土を高くし棚を設け更らに青蘿を植る翁の徳風を永世に傳へたものである。蘿塚の起りは也有の號〝蘿隠〟をとつたものである。

碑面に　也有雅翁　肥遁勵操
滑稽蜚聲
門子石原文樵謹建焉



◎石井直樹

歌碑

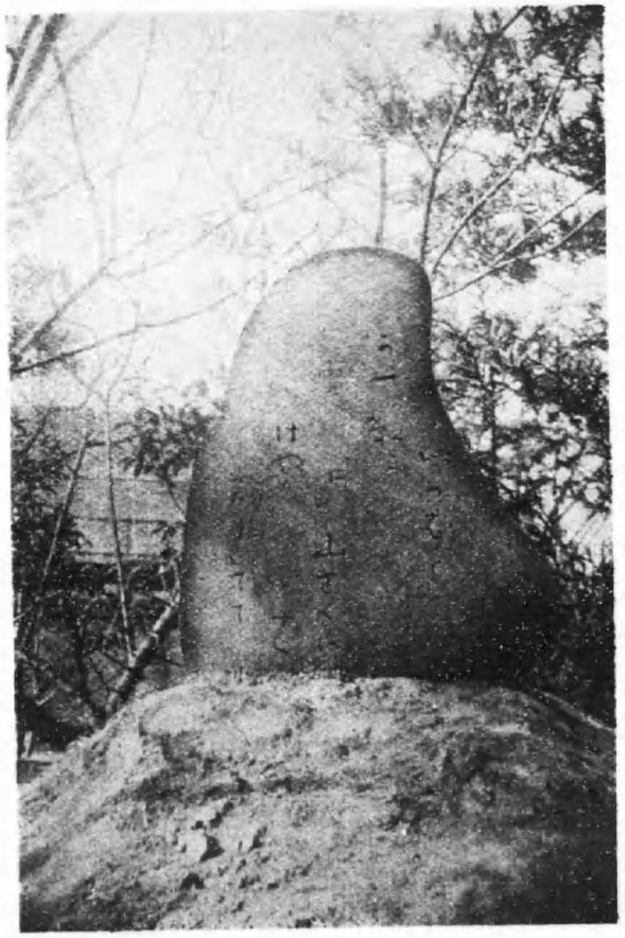
（東區長久寺町長久寺内）

市電・市バス、長塀町五丁目下車北二丁

碑面に

やまいくへ
ゆふやまいくへ
なかぬとり
さびしきとりの
おちている山

直樹



◎若山牧水歌碑

（熱田區白鳥町法持寺内月笑軒）

市電・市バス、白鳥町下車北へ入ル

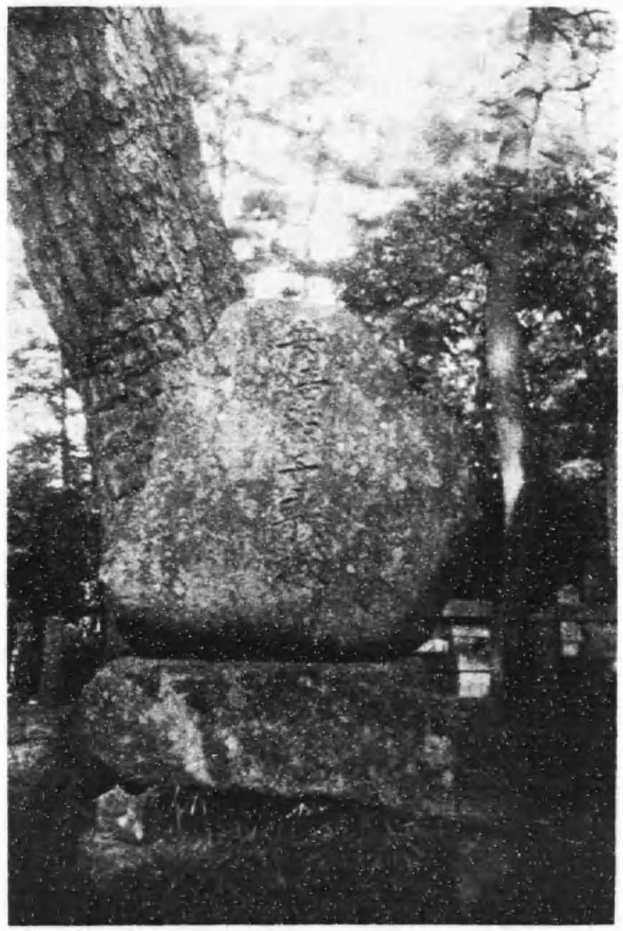
碑面に

うす紅に
葉はいちはやく
萌え出でて
咲かむとすなり
山ざくら花

牧水

碑陰に

昭和十一年建之
名古屋創作支社
並社友有志



◎安部照子歌碑

（東區筒井町建中寺墓地）

市電・市バス、平田町下車東四丁

碑面に

阿部照子歌塚

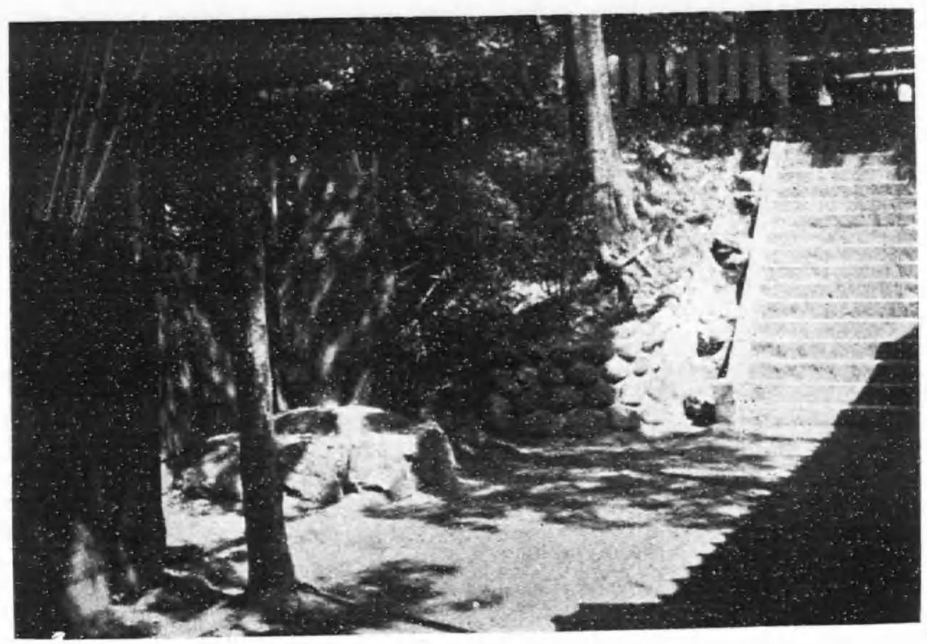
土御門正二位

安部泰邦御息女

上籠藤町

天保七丙申二月建之

土御門安部泰邦の女であつて最も和歌に長じ名古屋に退隠後只吟詠を事として藩士女流に和歌を誘導した。文政十年四月歿した。



◎本居宣長之歌碑

（熱田區白鳥町白鳥塚内）

市電・市バス、白鳥町下車西三丁

石段左下に見えるのが宣長の歌碑である。明治三十六年四月熱田神宮々司等の發起にて歌碑を建てた。碑面に

尾張のあつたなる白鳥のみさゝきにまうてて

しきしまのやまとこひしみ白とりの

かけりいましゝあとところこれ

曾孫正五位本居豐穎代書

白鳥有志中

◎源爲朝鎧塚

（中區正木町 圖森八幡社内）

市バス、本町通九丁堀下車西一丁

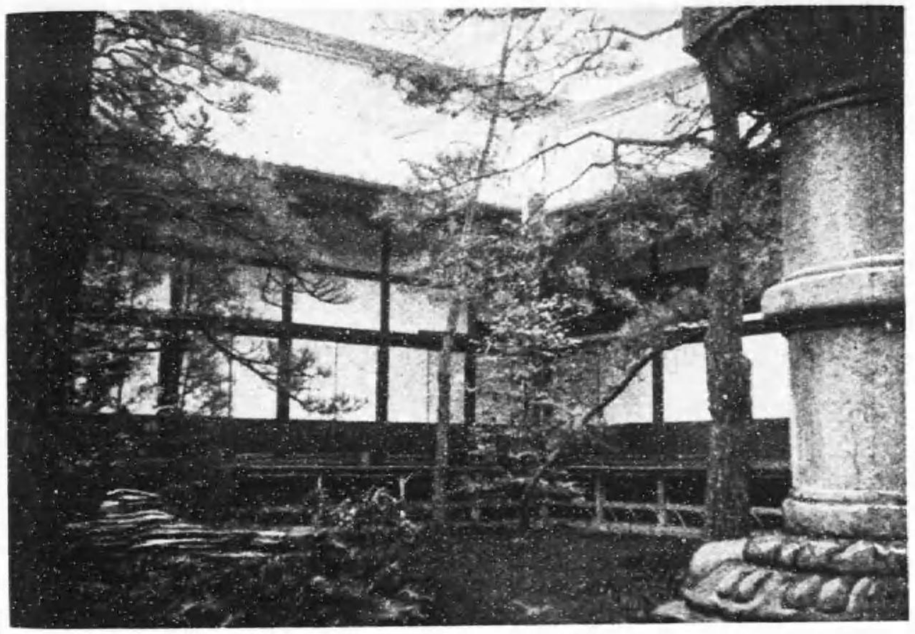
鎭西八郎爲朝、平氏に追はれこの森へ逃げかくれた時、一ノ鳥居の側にあつた藤が龍になつて敵を追ひかへしたといひ其の時着用の鎧をこゝに埋めたと言ひ傳へてゐる。向つて左方に爲朝を祭つた社がある。圖中左端がそれである。尙側に爲朝の末裔と傳へる鬼頭氏の建設にかゝる碑がある。

公園並に庭園茶室

◎徳　川　園（東區德川町）

市電・市バス、山口町下車北へ一丁東一丁入ル

舊尾張藩主徳川家大曾根別邸の一部であつたのを昭和六年侯爵徳川義親より本市へ寄附された。建物は庭園と共に風格氣品に富み閑雅幽邃の氣分に滿ちて居る。庭石は名古屋城二の丸のものを讓り受けたものである。總面積八千六百坪。本園は徳川園の表玄關を表はしたものである。



◎德川園庭の一部（德川園內）

本圖は、德川園本館中裏庭園の一部を寫したものである。向つて左方の棟は中央會室の一部で右方の棟は表書院の一部である。庭先には幾多の奇岩巨石が點置され蘚苔と共に一層の風致を添へてゐる。左端に見えるのが其の巨石の一部である。

◎德川園

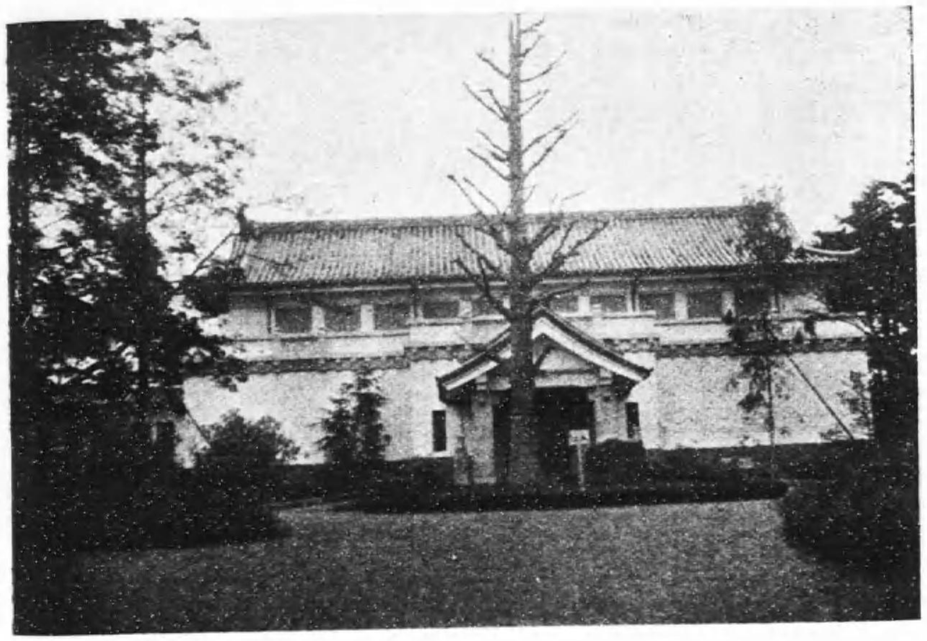
清流軒茶室

（德川園內）

清流軒は一名〝東屋敷〟と稱して、本園の東北丘上幽邃の地にある。極めて粗雜な木造萱葺の平家建（建坪約六十七坪）ではあるが二代藩主光友誕生當時の建物を其の儘現位置に移築したものである。古色蒼然として雅味が最も深い。古歌に

〝こゝにすめ清き流れは月や知る
せみの小川の
外をたづねて〟

とは、其の由緒を詠じたものである。



◎徳川美術館

（東區徳川町）

市電、山口町下車東二町北一丁入ル

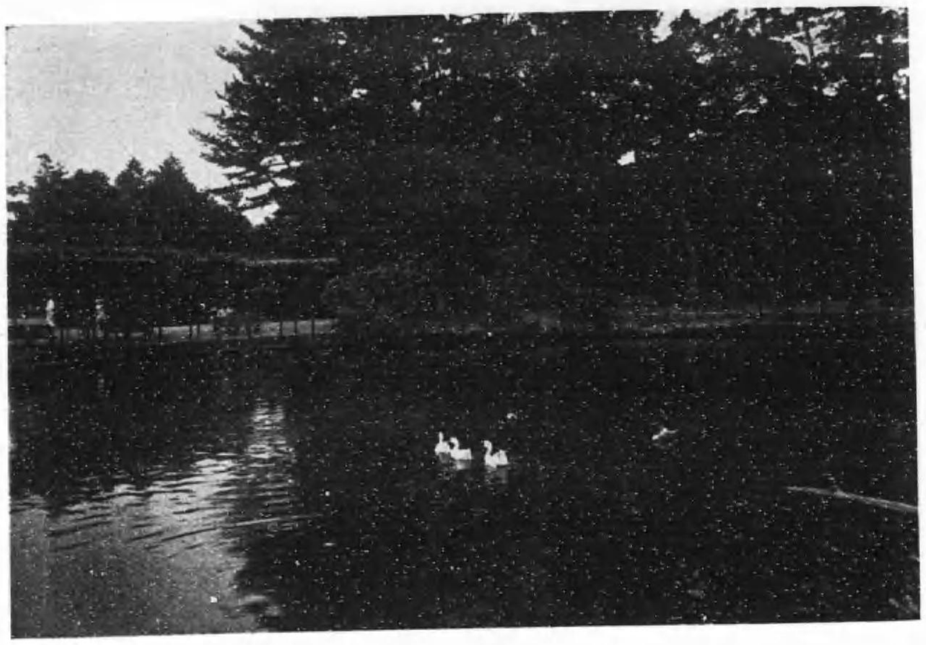
徳川園及び徳川家別邸に隣接してゐる舊尾張藩主侯爵徳川義親の寄附により財團法人尾張徳川黎明會の設立により昭和十年十一月開館せられた。本館建築は鐵筋混凝土造、城砦建築を加味せる近世式のもので輪奐の美を誇つてゐる。庭園内には山の茶屋、窄庵の茶席がある。隆能筆源氏物語繪卷物を始め名什珍器七千餘點を蒐め殊に鄉土の産んだ秀吉、家康の遺品多く美術の殿堂として東海隨一である。

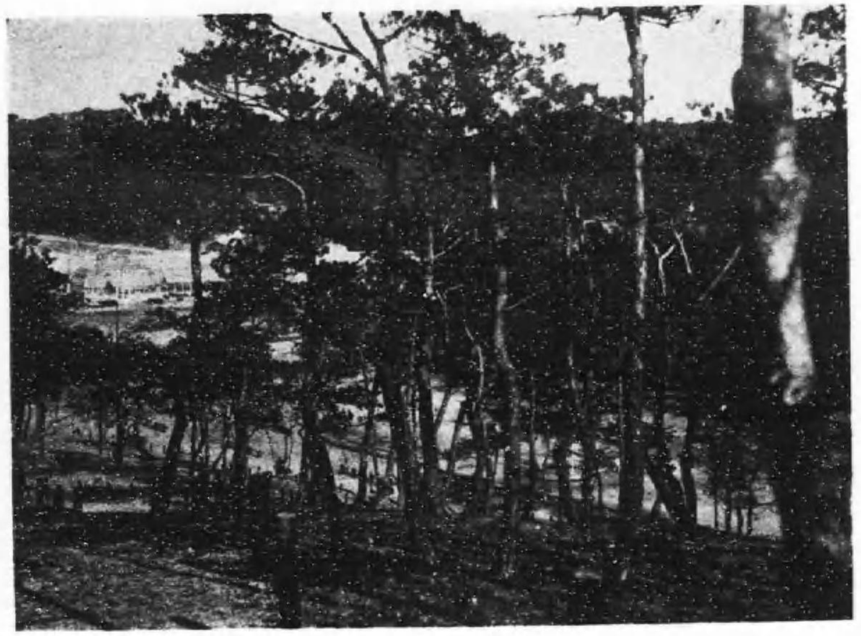
◎鶴舞公園

（昭和區鶴舞町）

市電・市バス、鶴舞公園前下車

明治四十三年關西府縣聯合共進會々場跡を公園としたもので、其の大體の計畫は、本多林學博士、鈴木工學士の立てられたもので、近世フランス式を加味した自然廻遊式公園である。總面積七萬三千七百餘坪、名古屋最大の公園である。園内には噴水塔、奏樂堂、市民運動場、聞天閣、圖書館、市公會堂等がある。前方に見ゆるは噴水塔である。





◎東山公園

（千種區田代町唐山一帶）

市電、東山公園前下車

動物園、植物園を併置する市民清遊の大公園で唐山一帶の山紫水明、風光絶佳なる地域二十三萬四千四百九十五坪を東山公園と名づけ、昭和十年四月より開園した。前方白いドーム型建物は植物園の溫室である。

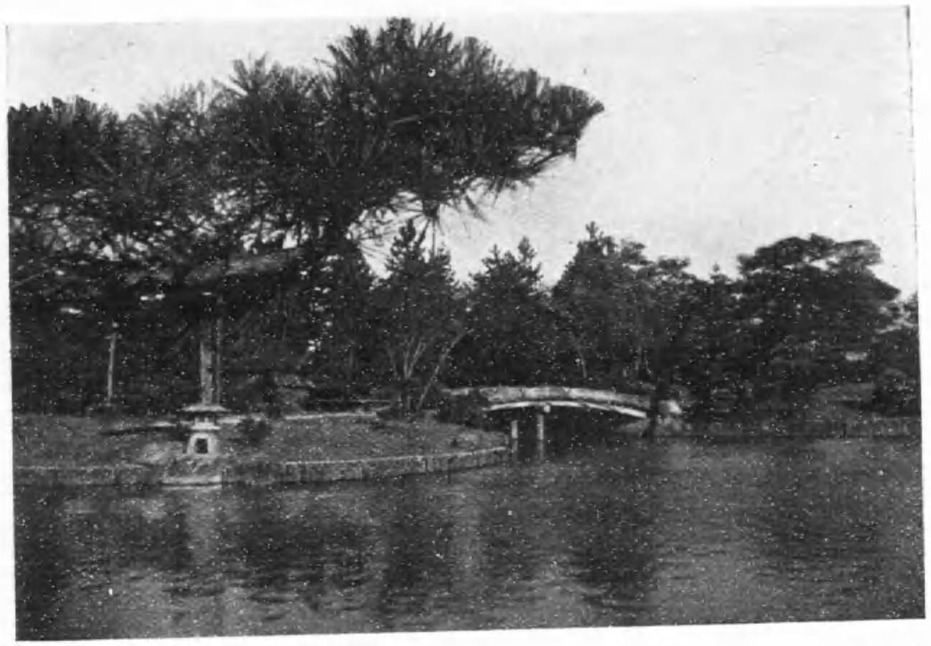
◎中村公園

（中村區中村町）

市電、中村公園前下車北へ四丁入ル

市バス、大正橋行中村公園前下車スグ

豐臣秀吉、加藤清正の出生地を公園として記念したもので豐國神社を中心に設立された歷史的廻遊林泉である。園内には豐國神社、記念館、木下藪、豐公産湯の井、小出、長嘯子、兩宅趾等があり尙二公に關係の太閤山常泉寺正悅山妙行寺がある。面積一萬六千四十二坪。寫眞は記念館前の池。

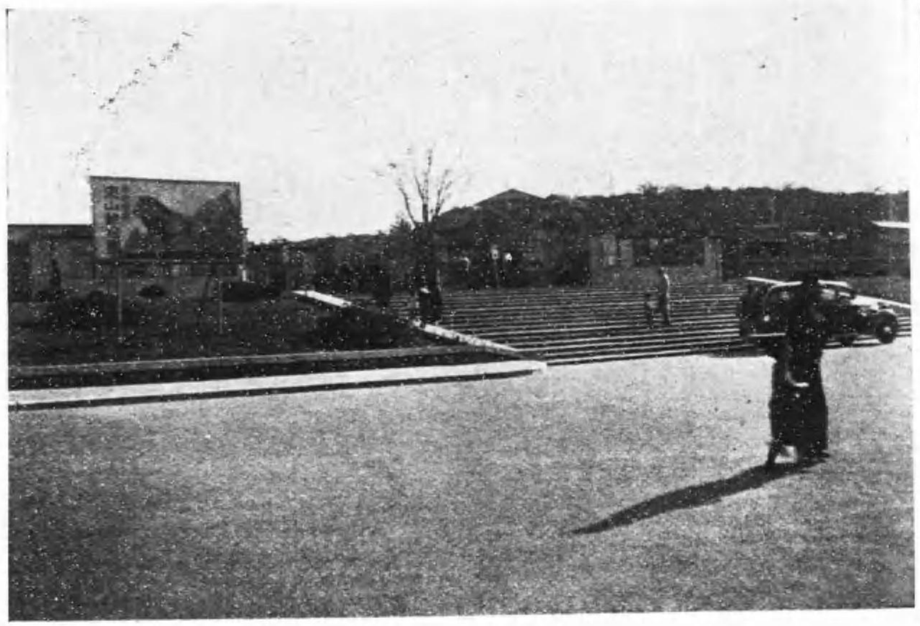


◎志賀公園

（西區西志賀町）

市バス、志賀公園前下車

織田信長の忠臣平手政秀の宅趾を公園としたものであつて、總面積八千四百四十八坪、工費二萬三千圓、昭和九年三月竣工した。園内には、政秀宅趾築山、池、グランド等がある。寫眞はくぬぎ茶屋前の池。



◎東山動物園正門

（千種區田代町）
（東山公園前）

市電・東山公園前下車

工費五十萬圓、面積四萬五千坪、其の規模の壯大なる、其の設計の豪華なることは東洋一である。即ち園内には近代式鐵筋コンクリートの獸舍、特に猛獸の無柵式放養場は彼等の自然生活を直接に見ることが出來る。主要なる設備

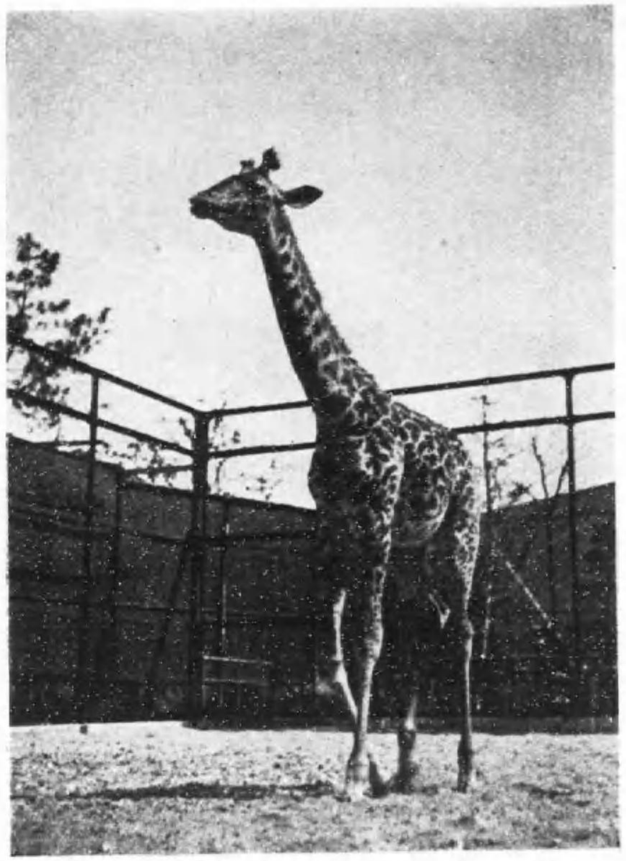
- アフリカンステップ（ライオン縞馬、駝鳥、大羚羊（かもしか）、無柵式放養）
- 北極パノラマ
- 鷲類放養場
- 前世紀遺物模型
- フラインゲ、ゲージ

（廣さ百坪高さ五十尺の大水禽の籠）

◎ライオン放養場

（東山動物園内）

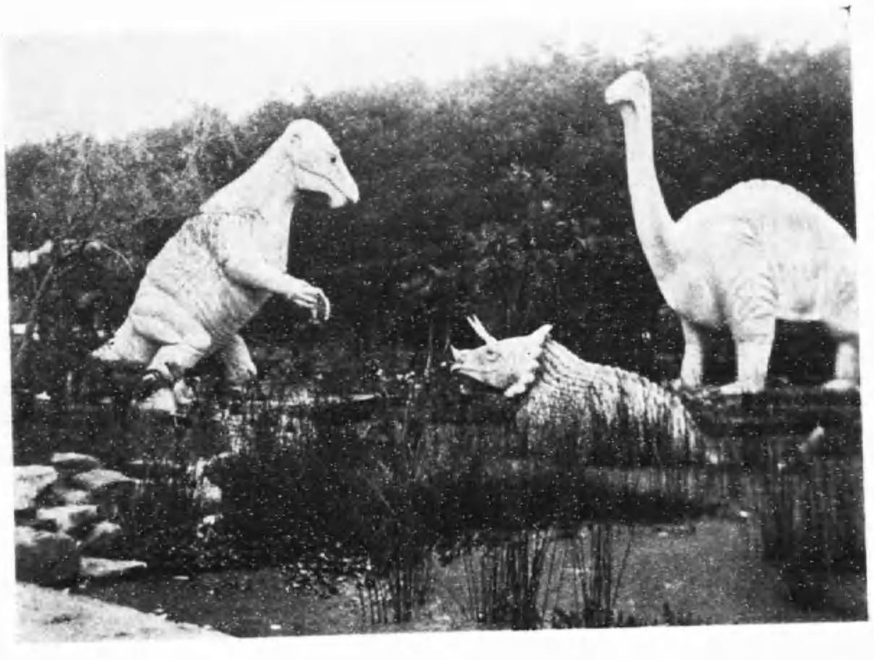
ライオンの無柵式放養場の景である。背後は凝岩で結壁を造り觀覽者との間には巾九米、深さ五米の濠があつてライオンは逸出することが出來ぬ。自然の儘の樣々の動作を觀察することが出來る。これは東アフリカ産のもので晝は隱れ夜活動して、獲物を漁る。縞馬、ヂラフ、羚羊等は彼の好む餌である。



◎ヂラフ

（東山動物園内）

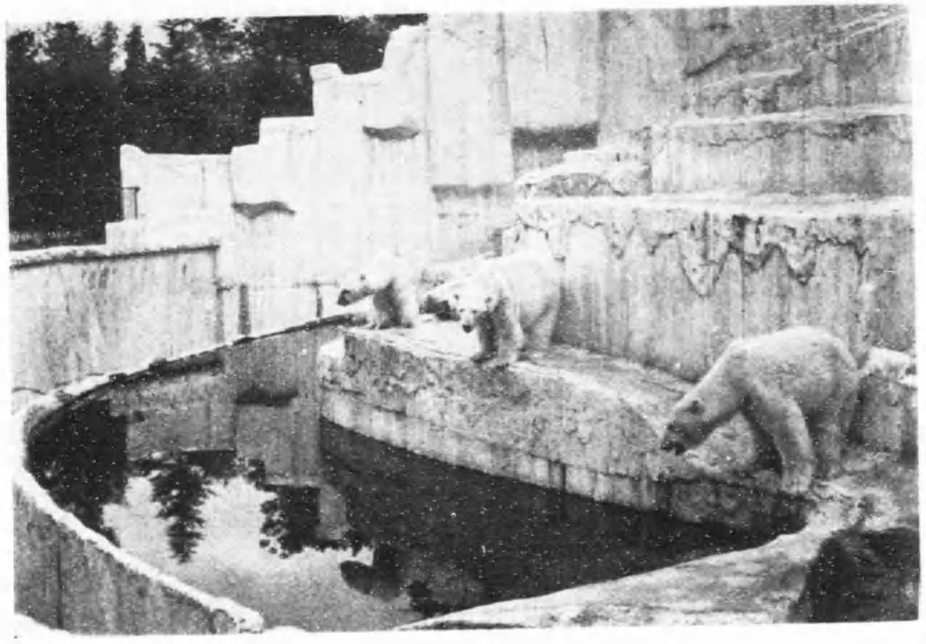
一般にキリンと稱して有名である。アフリカの草原に棲み、食物は木の葉、芽、皮などである。丈高く頸長く成長すると五米にも達する。



◎前世紀動物

（東山動物園内）

今より約一億年の昔、巨大な爬虫類が全盛を極めた時代がある。これは其の中の恐龍の種類から三つのものを選び、實物大の模型としたものであつて右から雷龍、三角龍、禽龍の順序である。



◎北極熊

（東山動物園内）

雪と氷に閉ざされた北極地方に棲む熊で全身純白である。水泳は、極めて巧で水中の魚を獲り、又アザラシ等の海獣類をも襲ふ。一見愛らしい顔をしてゐるが、性質は獰猛である。